

浦幌町立博物館

年報

第15号



Historical Museum of Urahoro

2014

11

浦幌町立博物館

年報

第15号



Historical Museum of Urahoro

2014

11

序

『浦幌町立博物館年報』第15号をお届けします。本書は、2013（平成25）年度における本館の活動状況を取りまとめたものです。平成25年度は、白亜紀と古第三紀境界層（K-T）直下の異常巻きアンモナイト等の化石調査や、「十勝・浦幌鉄道開業110年展」をはじめとした企画展、本町の自然・文化財を素材とした学校支援活動。うらほろスタイル・ゼミナール「ヒグマの生態を探る」等の博物館講座、移動講座等を展開して参りました。それぞれの事業内容につきましては、本書をご一読していただければ幸いに存じます。本館におきましては、充実した1年であったと考えております。

博物館は、地域の歴史や文化、自然など共有の財産の保護、活用を図り、これらに関する調査研究を通じて、生涯学習の場として町民の皆様へ情報を提供して、長い年月にわたって築き上げられた貴重な財産を次の世代に引き継ぎ、伝えていくことが大きな役割と考えております。

しかしながら、地方自治をとりまく環境は一段と厳しく、本町におきましても厳しい財政事情となっております。専任学芸員の配置など、解決しなければならない課題はありますが、地域や学校等と連携し、郷土の魅力を再認識していただけるよう皆様により親しまれる博物館活動を展開して参りたいと思います。

最後になりましたが、本館の管理運営に種々ご指導頂きました町民の皆様をはじめ、博物館協議会委員、各種講座の講師の方々、並びに貴重な資料を提供して頂きました皆様、企画展・各種講座等に足を運んで下さった多くの皆様に深く感謝を申し上げます。序といたします。

2014年11月

浦幌町立博物館長 佐 藤 芳 雄

● 本文目次

序	次	i
I.	施設の概要	1
II.	常設展示構成	2
III.	資料の受け入れ	13
	(1) 受 贈 資 料	13
	(2) 採 集 資 料	14
	(3) 受贈図書資料	17
IV.	資料の提供	24
V.	博物館の事業	25
VI.	レファレンス業務	44
VII.	博物館ボランティア	44
VIII.	博物館日誌(抄)	45
IX.	博物館の利用状況	53
X.	博物館の組織	54
XI.	博物館活動のマスコミ報道	55
XII.	条例、教育委員会規則、教育委員会規程	93
XIII.	平成25年度予算	105

● 写真目次

PL. 1	H25.4～	昭和27年十勝沖大震災展	30
PL. 2	H25.4.7	博物館移動講座「春の渡り鳥観察会」(1)	30
PL. 3	H25.4.7	博物館移動講座「春の渡り鳥観察会」(2)	30
PL. 4	H25.4.27	博物館移動講座「ウラボロイチゲ観察会」	31
PL. 5	H25.5.2	端午の節句撮影会(1)	31
PL. 6	H25.5.2	端午の節句撮影会(2)	31
PL. 7	H25.5.11	青い鳥観察会	32
PL. 8	H25.6.22	レコードコンサート	32
PL. 9	H25.6.22	博物館移動講座「春の植物」(1)	32
PL.10	H25.6.22	博物館移動講座「春の植物」(2)	33
PL.11	H25.7.1～9.15	アンモナイト展(1)	33
PL.12	H25.7.1～9.15	アンモナイト展(2)	33
PL.13	H25.7.17	歌声サロン	34
PL.14	H25.8.5	小企画展「真夏の残像…あの夏の熱き想い」	34
PL.15	H25.8.6	昆虫採集標本づくり教室(1)	34
PL.16	H25.8.6	昆虫採集標本づくり教室(2)	35
PL.17	H25.8.10	うらスタゼミ「地球を食べる貝化石」	35
PL.18	H25.8.11	語り部「子どもたちに伝える戦争体験・むかし戦争がありました」	35
PL.19	H25.8.18	子どもヒグマの学校	36
PL.20	H25.9.11	歌声サロン	36
PL.21	H25.9.19～10.10	懐かしき昭和の生活展	36
PL.22	H25.10.4	浦小6年理科学習「地層と化石」	37
PL.23	H25.10.16～11.17	開拓当時の農具展	37
PL.24	H25.10.20	開拓時代の食体験	37
PL.25	H25.10.20	博物館移動講座「ヒグマの生態を探る」背こすり	38
PL.26	H25.11.4	博物館移動講座「冬の渡り鳥観察会」(1)	38
PL.27	H25.11.4	博物館移動講座「冬の渡り鳥観察会」(2) ハクガンの群れ	38
PL.28	H25.11.23	ロビーコンサート「子ども民謡会」	39
PL.29	H25.11.23	博物館講座「デジカメ教室」	39
PL.30	H25.11.24	エゾリスBOX	39
PL.31	H25.11.25	博物館講座「アイヌ伝統料理教室」	40
PL.32	H25.12.1	十勝・浦幌鉄道物語(1)	40
PL.33	H25.12.1	十勝・浦幌鉄道物語(2)	40
PL.34	H25.12.1	十勝・浦幌鉄道物語(3)	41
PL.35	H25.12.19	クリスマス歌声サロン	41
PL.36	H25.12.19	ナイトミュージアム	41
PL.37	H26.1.10	化石レプリカづくり	42
PL.38	H26.2.1	自然(厳寒)体験教室(1)	42
PL.39	H26.2.1	自然(厳寒)体験教室(2)	42
PL.40	H26.2.7	うらほろスタイルゼミ炭鉱編	43
PL.41	H26.2.7	語り部木曜塾	43
PL.42	H26.3.3	雛人形展	43

● 図版目次

Fig. 1	常設展示ゾーニング図	5
Fig. 2	ヒグマシンボル図	5
Fig. 3	K-T境界	6
Fig. 4	十勝川下流域の地質時代史	6
Fig. 5	北海道の初期の土器文化	7
Fig. 6	シベリアから来た石刃鍬文化	7
Fig. 7	十勝太若月遺跡土坑墓配置図	8
Fig. 8	縄文文化と墓	8
Fig. 9	擦文ムラと住居	9
Fig. 10	擦文文化の鉄と農耕	9
Fig. 11	いろいろな土器	10
Fig. 12	いろいろな石器	10
Fig. 13	チャシ	11
Fig. 14	送り場	11
Fig. 15	トカチの成立とトカチ場所	12
Fig. 16	オヘチコカシ村の成立と初期の開墾	12

I. 施設の概要

名 称 浦幌町立博物館 (英文表記 Historical Museum of Urahoro)

所 在 地 〒089-5614 北海道十勝郡浦幌町字桜町16番地 1

電 話 015-576-2009 (直通) 015-576-2111 (代) 内線542

ファックス 015-576-2452

ホームページアドレス

<http://www.urahoro-kyouiku.jp>

メールアドレス

museum@urahoro.jp

建 物 構 造 鉄筋コンクリート造・地上2階建 最高の高さ 10.45m (最高軒高 9.70m)

総 工 費 983,514千円 (備品購入費を含む)

敷地面積 4,575.907㎡

建築面積 1,804.34㎡

延床面積 2,542.17㎡ (1階:1,518.48㎡ 2階:1,023.69㎡)

博物館単独スペース

常設展示室	378.56㎡
学芸員室	45.50㎡
整理室	78.40㎡
写真室	19.50㎡
収蔵庫	71.50㎡
計	593.46㎡

博物館・図書館・教育委員会事務局共有スペース

視聴覚室	172.90㎡
調整室	19.98㎡
キッズルーム	7.29㎡
1階ホール	182.17㎡
2階ホール	166.50㎡
会議室	63.00㎡
書庫	29.75㎡
機械室	31.08㎡
休憩室	11.55㎡
計	684.22㎡

駐 車 場 正面 普通乗用車用 23台分 (うち身体障害者用 2台分)

裏面 普通乗用車用 19台分

計 42台分

開館時間 午前10時～午後5時

休 館 日 月曜日 (月曜日が国民の休日の場合は翌日)・国民の休日の翌日。ただし、土曜日、日曜日及び国民の休日に当たるときを除く・年末年始・その他館長が認めた日

入 館 料 無料

交 通 ・J R根室線浦幌駅下車 徒歩5分

・とち帯広空港から車で約60分

施設設備 エレベーター 1基

車椅子 2台

常設展示室設備

プロローグ音響システム

I. 施設の概要

アオサギ営巣地ジオラマ音響システム

DVDによる100インチ映像システム

浦幌町の概要紹介（町の概要・町の花鳥木・産業・イベント・文化・歴史）

5つのエリア（上浦幌・中浦幌・市街地・下浦幌・東部地区）

施設紹介メインマップ

映像情報メニュー（遺跡探検・浦幌川河口から源流まで・野鳥観察・浦幌の四季）

ポイント情報メニュー（自然観察・先史遺跡・チャシ跡観察ポイント）

DVD映像システム（うらほろの歴史・十勝ゆかりの人々・地図でたどるうらほろ）

開拓獅子舞音響システム

II. 常設展示構成

博物館の常設展示は、次の6コーナーで構成されている。

I. 自然からのメッセージ（プロローグ）

II. アオサギの世界

III. 十勝・浦幌の自然誌

IV. 石器と土器の文化

V. アイヌの暮らし

VI. 十勝・浦幌のあゆみ

これらのコーナーはそれぞれ、次のような展示から構成される。

I	1	魚	ヤマメ、イワナ、フクドジョウ、イバラトミヨ、ハナカジカ、イトウ、チョウザメ
	2	昆虫	
	3	鳥	オオヒシクイ、ノスリタカ、クマゲラ、キレンジャク、ヤマセミ、オオルリ、アマサギ、カワアイサ②
	4	花	ウラボロイチゲ
II	1	アオサギの世界	アオサギジオラマ展示、採捕中のアオサギ、飛行中のアオサギ
	2	浦幌町の自然	月別平均気温と雨量、浦幌の四季
	3	鳥類個体展示	エゾフクロウ、オオコノハズク、コノハズク、クマタカ、カケス、アカショウビン、コルリ、メジロ、センダイムシクイ、ツミタカ、チゴハヤブサ、エゾライチョウ♂、エゾライチョウ♀、マガモ、コガモ、オシドリ、オオワシ②
III	1	デジタルマップ100インチ映像システム	(1) 浦幌町の概要紹介〔町の概要、町の花・鳥・木、町の産業、祭り、文化など〕 (2) 5つのエリア〔上浦幌地区・中浦幌地区・市街地・下浦幌地区・東部地区〕 (3) 施設紹介メインマップ〔メインマップ、マップのズームアップ、市街地マップ、施設情報〕

III	1	デジタルマップ100インチ映像システム	(4) 映像情報メニュー〔遺跡探検、浦幌川－河口から源流まで、野鳥観察、浦幌の四季〕 (5) ポイント情報メニュー〔自然観察ポイント、先史遺跡ポイント、チャシ跡観察ポイント〕
	2	十勝川下流域の地質時代史	十勝川下流域の河岸段丘
	3	十勝川下流域の地質時代史	K - T境界、デスモスチルス想像図、デスモスチルス臼歯化石③、シンカイヒバリガイ化石、アロデスミス化石（レプリカ）
IV	1	発掘の様子	発掘前、測量、表土の剥ぎ取り、発掘、住居跡覆土採取用メッシュ、住居跡の発掘、地層の図面づくり、出土した土器、固形剤塗り、住居床面の土の採取、住居跡全景、実測、土の天日乾燥、極小品の選別②、ラジコンヘリコプターによる空中撮影・整理・水洗い、図面づくり、報告書の完成
	2	十勝太若月遺跡土坑墓	土坑墓ジオラマ展示
	3	北海道の先史文化のうつりかわり	図入り年表
	4	北海道の初期の土器文化	研究のはじめ、尖底土器と平底土器、河野広道、澤四郎、テンネル・晩式土器群、下頃辺式土器
	5	シベリアから来た石刃鏃文化	研究のはじめ、北海道の石刃鏃文化遺跡、シベリアの石刃鏃文化遺跡、斎藤米太郎、名取武光、浦幌式土器、石刃鏃、石核、石錐、搔器、削器、石刃槍、彫器、石錘、砥石、敲石、石斧
	6	縄文文化と墓	縄文文化と十勝太若月遺跡、墓の大きさ比べ、土坑墓52の配置図、十勝太若月遺跡の土坑墓、縄文時代前期の土器、後北CⅠ式土器、コハク製玉類、ガラス小玉、砥石、銚先
	7	擦文ムラと住居	住居と生活用具、十勝の擦文文化遺跡、擦文文化の遺跡分布、十勝太若月遺跡、十勝太地区の擦文住居跡分布、擦文住居の復元図、擦文土器、柱、木器、紡錘車
	8	擦文文化の鉄と農耕	鉄と農耕の普及、全道各地出土の鍬の羽口、擦文時代の植物栽培図、鉄斧、刀子、鉄滓、オオムギ・キビ・シソの炭化種子、オニグルミ堅果
	9	いろいろな土器	縄文文化と土器、作り方、形、文様、変遷
	10	いろいろな石器	石器の材料、作り方、黒曜石原材産地、使い方
	11	十勝の著名遺跡	八千代A遺跡、下大樹遺跡、十勝ホロカヤントー堅穴群、ユクエピラチャシ跡、広尾仙台藩陣屋跡
	12	土器の個体展示	縄文土器⑥、縄文土器⑥、擦文土器⑥
V	1	アイヌの暮らし	アイヌ酒宴の図、マレク漁の図、蝦夷島奇観
	2	チャシ	史跡オタフンベチャシ跡、礼文内神社チャシ跡、アツナイチャシ跡、チプネオコッペチャシ跡、十勝川口チャシ跡、十勝太Dチャシ跡、旅来チャシ跡、安骨チャシ跡、霧止山チャシ跡、帯富チャシ跡、稲穂チャシ跡
	3	伝製品	シントコ③、イタ、ニンカリ、イクパスイ③、タマサイ③、ツキ、バッチ、エムシ
	4	送り場	十勝太海岸段丘遺跡出土品

II. 常設展示構成

VI	1	トカチの成立とトカチ場所	正保日本図、トカチ場所の主な産物、松浦武四郎、最上徳内、近藤重蔵、トカチ御場所山川沼地名里数粗絵図扣
	2	オヘチコカシ村の成立と初期の開墾	7郡51ヶ村のうつりかわり、殖民地区画作業、河合牧場、岐阜農場、開墾風景、サケ漁、斎藤漁場
	3	新しいムラづくり	下浦幌市街都市計画図、明治43年主要市街地戸数人口、戸長役場、浦幌駅開業、第一浦幌尋常小学校と養老尋常小学校との連合運動会、黒岩農場、斎藤牧場
	4	新しいマチづくり	昭和27年十勝沖大震災で震度7を記録、昭和24年ころの市街大通り、開村50年記念乳牛共進会、校内マラソン、昭和35年チリ地震による津波の被害、森永乳業、ロランC局、市街商店街、開町70年記念パレード、十勝バス運行風景
	5	着る	蓑、くけ台、ミシン、火のし、ハンドバッグ、開墾たび、アイロン、バスケット、深わら靴
	6	食べる	膳、櫃、食器、木鉢、砂糖入れ、重ね鉢、弁当箱、石臼、壺、鉄びん、カツオ削り器、野菜削りカンナ
	7	住む	ローソク立て、自在鍵、石油ランプ、柱時計、手下げランプ、ネズミ捕り、電気アンカ、薬箱
	8	農	亜麻播種器、一斗杵、からさお、風呂鍬、窓鍬、平鍬、豆播種器
	9	林	トビ、村田銃、ガンタ、サッティ、刃広、くさび、杙打ち用具、窓鋸、天王寺鋸
	10	鋤	キャップランプ、革手袋、ベルト、ガス自動警報器、測風器微風計、工類表入れ、工類表、安全靴、携帯用ガス警報器、風測計、携帯用坑内誘導無線機、カンテラ、一酸化炭素検知管、救命器
	11	浦幌開拓獅子舞	住吉神社と加賀団体開拓記念碑、浦幌開拓獅子舞、浦幌開拓獅子舞の獅子頭、稲穂獅子舞の獅子頭、初期の浦幌開拓獅子舞の姿、浦幌開拓獅子舞おはやしの音響
	12	生活資料ディスプレイ	ラジオ、選択バサミ、算盤、下駄、かんじき、ノンコ、SPレコード盤、藁靴の型、提灯用箱、湯たんぽ、壁付け式電話
	13	37インチ映像コーナー	うらほろの歴史、十勝ゆかりの人々、地図でたどるうらほろ

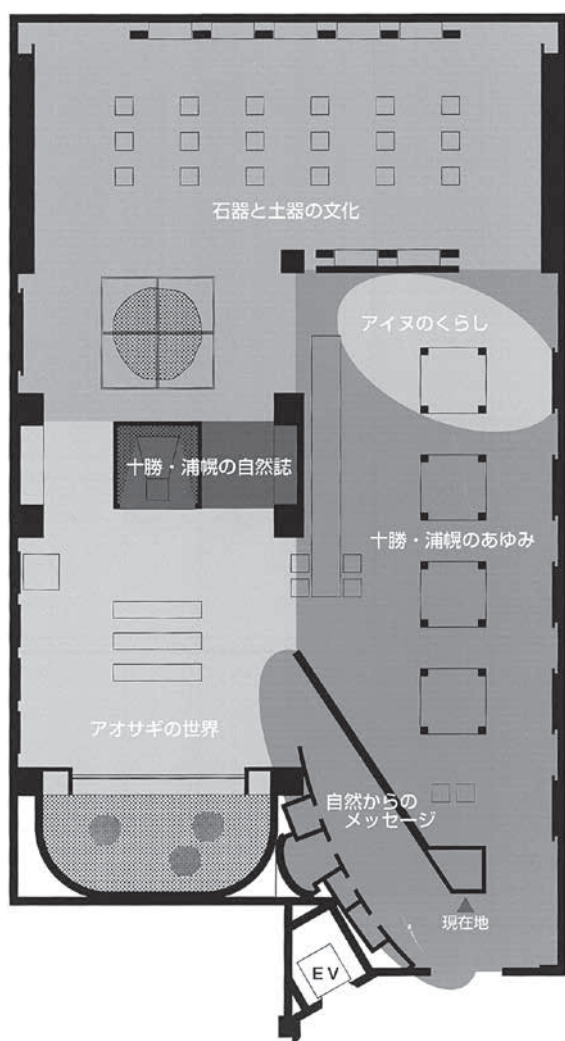


Fig.1 常設展示ゾーニング図



Fig.2 ヒグマ シンボル図

Discoveries of anomalously high Ir concentraions K-T boundary sediments



Geologic age in the region of the lower course of the Tokachi River



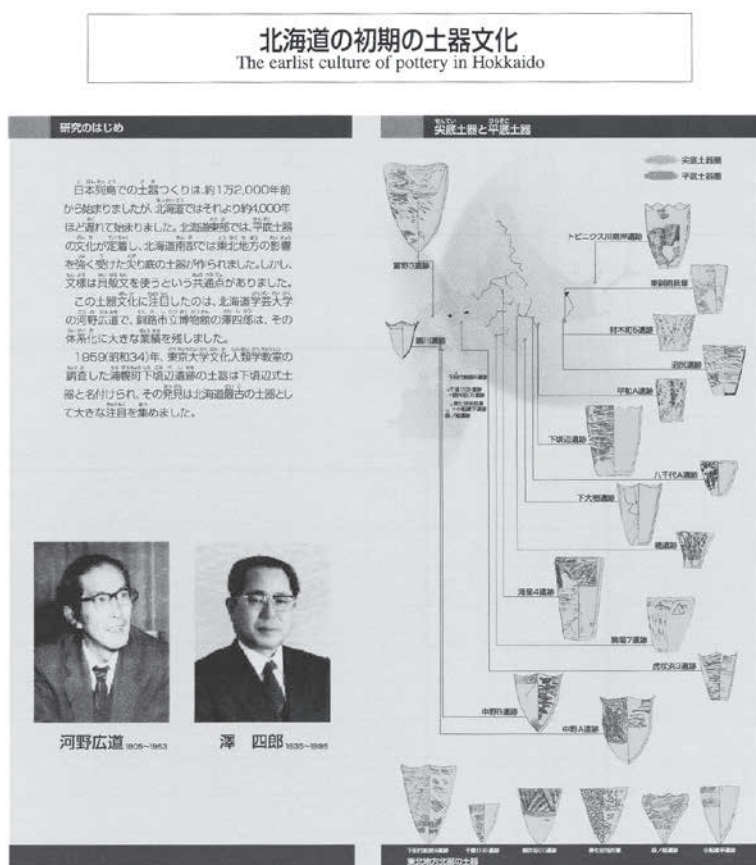


Fig.5 北海道の初期の土器文化

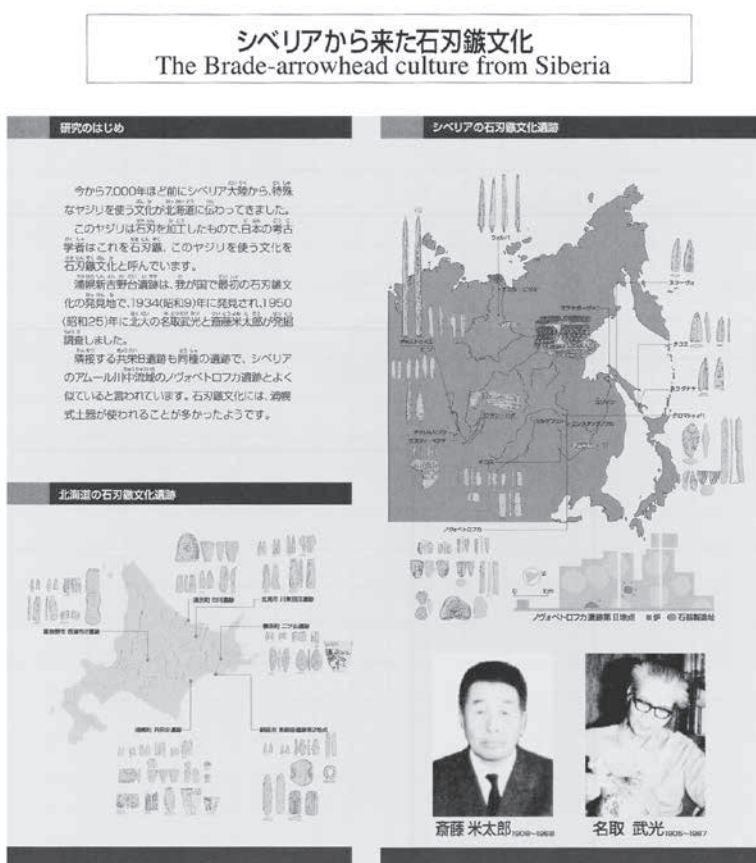


Fig.6 シベリアから来た石刃鎌文化

II. 常設展示構成



Fig.7 十勝太若月遺跡土坑墓配置図



Fig.8 続縄文文化と墓



Fig.9 擦文ムラと住居



Fig.10 擦文文化の鉄と農耕

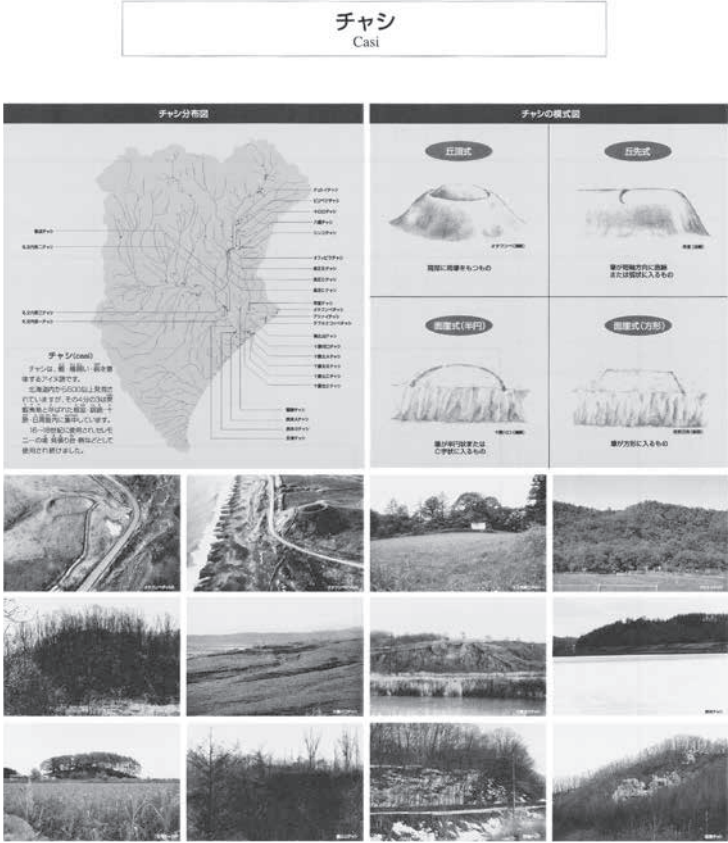


Fig.13 チャシ

送り場
funerary site and that surroundings

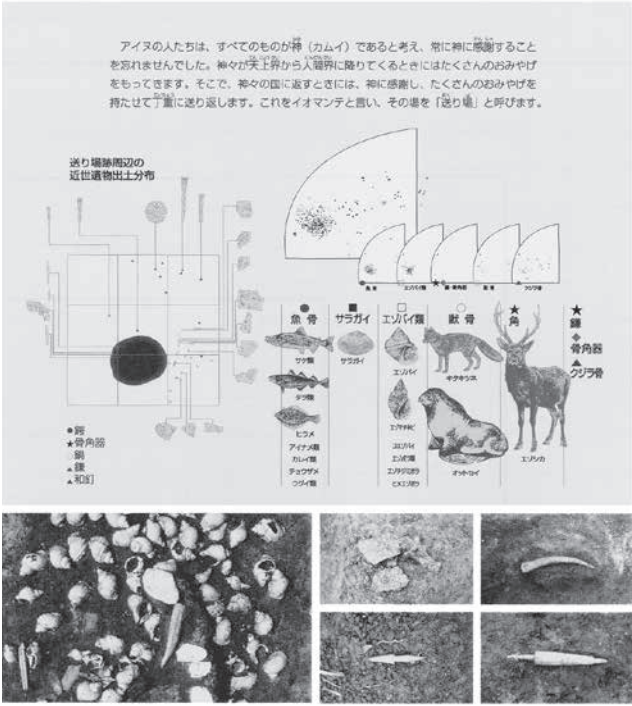


Fig.14 送り場

II. 常設展示構成

トカチの成立とトカチ場所



Fig.15 トカチの成立とトカチ場所

オヘチコカシ村の成立と初期の開墾



Fig.16 オヘチコカシ村の成立と
初期の開墾

Ⅲ. 資料の受け入れ

(1) 受贈資料

月 日	氏 名	住 所	品 名	数量
4・17	前 出 鈴 恵	本 町	柱時計、丹前、美容用具	28
4・24	菊 野 佳 之	緑 町	鉄瓶	1
5・14	大 村 博	住 吉 町	映写機、茶箱、碁盤、蝶標本箱	25
5・15	野 口 常 幸	住 吉 町	糸巻機	1
6・9	匿 名		坂内村史、豊頃よもやま話作品集	4
6・22	郷 雅 子	緑 町	音盤（10枚組）	1
7・3	田 中 敏 彦	神 奈 川 県	音盤	40
7・20	本 間 孝 子	宝 町	音盤	47
7・26	平 野 康 次	東 京 都	レコードプレイヤー、アンプ、ヘッドホン、音盤71	75
8・18	杉 本 年 明	札 幌 市	鋸1、鉋2、炭鋇模型	4
9・9	西 垣 隆 夫	帯 富	航空写真、平成天皇20歳記念アルバム、水道メーター	3
9・27	菅 野 イ ソ 子	新 町	国境事変従軍記章、軍人傷痕記章、勲八等白色桐葉章	3
10・22	山 本 浩 宣	住 吉 町	時局大写真帳付録、天皇陛下	2
10・30	後 藤 秀 彦	吉 野	ひな人形、百人一首	2
11・22	匿 名		尊厳死協会関係書類	1
12・3	大 笹 健 郎	帯 広 市	スロウ	1
12・7	宮 崎 一 市	共 栄	音盤	1
2・17	西 垣 隆 夫	帯 富	水筒	1
3・19	持 田 誠	帯 広 市	上厚内トンネル煉瓦、ネクタイピン、はがき、切手	5
3・27	神 谷 孝 志		ノート、絵葉書、賃金明細	15

Ⅲ. 資料の受け入れ

(2) 採集資料

月 日	資 料 名	数量	摘 要
8・28	浦幌町少年道外交流事業資料	3	平成25年度 浦幌町道外交流事業
12・3	C h a i 2013年8月	1	十勝毎日新聞社発行
12・3	C h a i 2013年9月	1	十勝毎日新聞社発行
12・4	チラシ	1	うらほろ留真温泉無料バス運行表
12・4	チラシ	1	森林公園・みのり館 4月27日オープン！
12・4	チラシ	1	厚内漁業青年部水産物直売
12・4	チラシ	1	うらほろスタイル・ゼミナール開催のお知らせ
12・4	チラシ	2	平成25年度浦幌町教育の日ブックフェスティバル
12・4	チラシ	1	第8回こども祭り2013
12・4	チラシ	1	うらほろプレミアム商品券応援事業
12・4	チラシ	1	平成25年度 第1弾うらほろプレミアム商品券販売開始
12・4	チラシ	1	うらほろスタイル・ゼミナールワークショップ開催のお知らせ
12・4	チラシ	1	お年寄りのお世話をしてみませんか！ 一介護職員場集中ー
12・4	チラシ	1	第21回 うらほろYOU遊ナイト
12・4	チラシ	1	お宮の杜の伝統文化体験学習会 雅楽コンサート／流しそうめん体験
12・4	チラシ	1	帯広・十勝の昭和
12・4	チラシ	1	たなばたまつり 町立図書館／博物館
12・4	チラシ	1	第23回ふるさとの夏まつり 盆踊り大会 出場者大募集
12・4	チラシ	1	第23回ふるさとの夏まつり
12・4	チラシ	1	夏のBIGイベント ハマナスサイコロゲームinふるさとの夏まつり
12・4	チラシ	1	うらほろ屋台村夏祭り
12・4	チラシ	1	特殊詐欺等被害防止に係る研修会のお知らせ 浦幌町役場 町民課町民生活係
12・4	チラシ	1	浦幌町子ども文化鑑賞〔上浦幌地区公演〕 演劇「ねこはしる」
12・4	チラシ	1	第5回 レアス杯 パークゴルフ大会
12・4	チラシ	1	スポーツセンターだより 発行：平成25年9月 指定管理者有限会社レアス
12・4	チラシ	1	第22回 うらほろYOU遊ナイト
12・4	チラシ	1	道の駅うらほろ5周年記念感謝祭
12・4	チラシ	1	浦幌町子ども文化鑑賞〔浦幌市街地区公演〕 伝統芸能・演劇「人形浄瑠璃」
12・4	チラシ	1	浦幌町子ども文化鑑賞〔浦幌市街地区公演〕 音楽「ヘンゼルとグレーテル」

月 日	資 料 名	数量	摘 要
12・4	チラシ	1	健康湯からのお知らせ 町内在住の70歳以上の皆様を無料ご招待
12・4	チラシ	1	浦幌神社秋季例大祭
12・4	チラシ	1	第38回うらほろふるさとのみのり祭り 出店店舗 の紹介
12・4	チラシ	1	第38回うらほろふるさとのみのり祭り
12・4	チラシ	2	浦幌町の生活交通を考えるシンポジウム
12・4	チラシ	1	一緒にうらほろ森林公園の遊歩道を歩いてみませ んか？ 浦幌町商工会
12・4	チラシ	1	2013浦幌町フォトコンテスト 作品募集
12・4	チラシ	1	山宮喬也氏ボールペン画 北海道の駅舎たち十勝編 原画展
12・4	チラシ	1	第14回 浦幌町立図書館まつり
12・4	チラシ	1	うらほろ収穫祭
12・4	チラシ	1	アーティスト ウェルカム（歓迎）パーティ
12・4	チラシ	1	総合スポーツセンター 無料開放
12・4	チラシ	1	災害に強いまちづくりを目指し、避難所運営ゲー ムに挑戦してみましょう！ 浦幌町役場総務課
12・4	チラシ	1	1日かぎりの一般公開 とてつぼ通り
12・4	チラシ	3	浦幌町予約運行型バス（タクシー）利用案内 浦幌町市街地循環バス実証調査
12・4	チラシ	1	むらおこし活性化事業 十勝うらほろバードウォ ッチングツアー参加者募集
12・4	チラシ	1	平成25年度 浦幌町文化祭
12・4	チラシ	1	スケート靴のリサイクル 浦幌町教育委員会
12・4	チラシ	1	浦幌町議会 議員定数・議員報酬講演会
12・4	チラシ	1	厚内・上厚内・新吉野・浦幌駅列車時刻表 平成24年10月27日修正 浦幌駅
12・4	チラシ	1	十勝うらほろ満天星空ツアー 浦幌町商工会主催
12・4	チラシ	1	ふれあい広場うらほろのご案内 浦幌町社会福祉協議会
12・4	チラシ	1	若者の雇用創出フォーラムinうらほろスタイル
12・4	チラシ	1	浦幌町内を走行するコミュニティバス無料運行中 浦幌町役場まちづくり政策課
12・4	チラシ	1	浦幌神社で七五三参り
12・4	チラシ	1	浦幌中学校吹奏楽部 定期演奏会
12・4	チラシ	1	バレエ・ヒップホップダンス研究生募集
12・4	チラシ	1	うらほろサロンコーラス 第38回定期演奏会
12・4	チラシ	1	移住体験住宅見学会

III. 資料の受け入れ

月 日	資 料 名	数量	摘 要
12・4	チラシ	1	「うらほろ活性化案」発表会 浦幌中学校
12・4	チラシ	1	平成25年度第2弾「うらほろプレミアム商品券」販売開始
12・4	チラシ	1	うらほろプレミアム商品券応援事業 ポイント3倍
12・4	チラシ	1	うらほろ商店街・食べ歩きマップ
12・4	チラシ	1	お知らせ 浦幌町留真温泉指定管理者 宮本建設 有限会社
12・4	チラシ	1	第10回大津港大漁まつり
12・4	チラシ	1	平成25年度帯広百年記念館移動展 十勝の鉄道史 写真展
12・4	チラシ	1	帯広百年記念館運営連絡協議会移動展・浦幌町立 博物館収蔵資料展 十勝・浦幌の鉄道史写真展
12・4	チラシ	2	産地「留真」のスモモです!!
12・4	チラシ	1	第15回うらほろ物産フェア 浦幌町観光協会
12・4	チラシ	1	うらほろ物産フェア 三角くじ 浦幌町観光協会
12・4	チラシ	1	うらほろ物産フェア 会場見取り図 浦幌町観光協会
12・4	チラシ	1	日曜議会を傍聴しませんか 浦幌町議会事務局
12・4	チラシ	1	オール北海道で6%以上の節電を 北海道
12・4	チラシ	1	職員募集 看護職員／介護職員 特別養護老人ホームはまなす園総務係
12・4	チラシ	1	長年のご愛顧、ありがとうございます。 泉豊店
12・4	チラシ	1	15周年記念 フォトサークル・21写真展
12・4	チラシ	1	浦幌神社初詣
12・4	チラシ	1	健康湯からのお知らせ 年末年始の営業時間につ いて
12・4	チラシ	1	初日の出ツアー 浦幌町商工会
12・4	チラシ	1	臨時職員募集 浦幌町養護老人ホームラポロ
12・4	チラシ	1	職員募集 保育士 浦幌町役場 総務課職員係
1・10	チョウ	53	エゾスジグロシロチョウなど22種
1・14	カレンダー（商工会）2014	1	博物館
1・14	カレンダー	1	北海道炭鉱遺産ファンクラブ
3・24	広報 Urahoro No.732～743	12	浦幌町まちづくり政策課広報広聴係
3・24	うらほろ議会だより	4	浦幌町議会広報編集特別委員会
3・24	うらほろ女性だより 第70号	1	浦幌町女性団体連絡協議会

(3) 受贈図書資料

【北 海 道】

(公財) アイヌ文化振興・研究推進機構

平成25年度アイヌ語ラジオ講座テキスト

Vol. 1～4

平成26年度アイヌ語ラジオ講座テキスト Vol. 1

第17回アイヌ語弁論大会報告書 イタカンロー

アイヌ関連総合研究等助成事業研究報告第13号

(公財) アイヌ文化振興・研究推進機構

助成事業案内 平成26年度版

初級アイヌ語 ー静内ー

初級アイヌ語 ー十勝ー

初級アイヌ語 ー釧路・白糠ー

中級アイヌ語 ー静内ー

中級アイヌ語 ー十勝ー

中級アイヌ語 ー釧路・白糠ー

しずないのアイヌ語

とかちのアイヌ語

くしろ・しらぬかのアイヌ語

単語リスト (アイヌ語・日本語) 静内

単語リスト (アイヌ語・日本語) 十勝

単語リスト (アイヌ語・日本語) 釧路・白糠

アイヌ生活文化再現マニュアル 装身具

ロシアから見た アイヌ文化

北海道立アイヌ民族文化研究センター

北海道立アイヌ民族文化研究センター年報 2012

研究紀要 第19号

アイヌ語地名を歩く

ー山田秀三の地名研究からー2013根室

アイヌ語地名を歩くー山田秀三の地名研究からー

2013網走／オホーツク

アイヌ民族文化研究センターだより No.38～40

旭川市博物科学館

旭川市博物科学館研究報告 第5号

厚岸町海事記念館

厚岸町海事記念館だより No.39～40

厚沢部町教育委員会

史跡松前氏城跡・福山城跡・館城跡・館城跡IX

厚真町教育委員会

オニキシベ5遺跡

ヲチャラセナイチャシ跡・ヲチャラセナイ遺跡

網走市立美術館

ーオホーツクにこんな画家がいたー居串圭一展

おどる ー点と線ー 瀧野喜星展

解体と再生、そして試行 上條陽子展

笠井誠一展

鼓動する日本画

北海道立旭川美術館

氷華 No.55

いしかり砂丘の風資料館

いしかり砂丘の風資料館紀要 第3巻

恵庭市郷土資料館

ユカンボシE1 遺跡

江別市郷土資料館

年報 Vol.11

えりも町郷土資料館ほろいずみ・水産の館

えりも町郷土資料館ほろいずみ・水産の館 平

成24年度 活動報告書

えりも研究 第10号

小樽市総合博物館

小樽市総合博物館紀要 第27号

北見市教育委員会

北上2 遺跡

君伊彦氏文書調査団

雪解け 第4号

釧路市立博物館

釧路市立博物館 紀要 第35輯

釧路市立博物館報 No.412～413

札幌市教育委員会

市内遺跡発掘調査報告書 5

札幌市豊平川さけ科学館

札幌市豊平川さけ科学館 研究報告

札幌市埋蔵文化財センター

S547遺跡 データCD付

S354遺跡 第3次調査 データCD付

札幌大学文化学部学芸員課程

札幌大学学芸員課程 年報 第11集

沙流川歴史館

沙流川歴史館年報 第14号

沙流川歴史館だより No.48～51

標茶町郷土館

標茶町郷土館報告 第25号

標津町教育委員会

伊茶仁ふ化場 第1 堅穴群遺跡

古道第6遺跡
標津川河口左岸2遺跡
斜里町教育委員会
オライネコタン3遺跡
峰浜8線遺跡発掘調査報告書
朱炎26遺跡外(写真・図版編)
朱炎26遺跡外(本文・図版編)
伊達市噴火湾文化研究所
KITAKOGANE ～きたこがね～
北海道津別町教育委員会 生涯学習課
津別町 町内遺跡発掘調査等事業報告書
洞爺湖町教育委員会
国指定史跡 入り江・高砂貝塚
平成22,23年度 洞爺湖町内遺跡発掘調査報告書
苫小牧市博物館
苫小牧市博物館だより No.62
中標津町教育委員会
中標津町郷土館だより 第25号
日本マキリ研究学会
樹皮巻入れ鞘から腹部直状無紋鞘へ200年
～マキリ研究会通信 2013～
マキリ研究会通信 No.56
根室市歴史と自然の資料館
根室市歴史と自然の資料館紀要 第25号
くるまいし No.28
市立函館博物館
市立函館博物館研究紀要 第24号
SARANIP No.53
北海道立函館美術館
北海道立函館美術館年報 2011-2012年度
MAURICE UTRILLO ユリトロ展
鷗亭の眼・鷗亭のころ
滝平二郎
特定非営利活動法人 函館市埋蔵文化財センター
函館市東山A遺跡 亀田中野2遺跡
北斗市 茂辺地4遺跡
浜頓別町教育委員会
浜頓別町ブタウス遺跡(Ⅰ)
美幌博物館
美幌博物館報 2011
美幌博物館研究報告 第20号
2012年度 博物館自然講座

グリーンレター 第191～201号
発見!太古の元町
～いにしえの美幌があなたに語りかける～
平取町立二風谷アイヌ文化博物館
2011年度
平取町立二風谷アイヌ文化博物館年報
富良野市博物館
富良野の近代建築
～富良野市歴史建造物調査報告書～
別海町教育委員会
北海道指定天然記念物
「西別湿原ヤチカンバ群落地」調査報告
別海町郷土資料館
別海町郷土資料館だより No.165～174
べつかいの歴史と自然シリーズ
近世のべつかい
加賀家文書館 展示解説改定新版
北翔大学北方圏学術情報センター
北翔大学北方圏学術情報センター年報 Vol.5
生活福祉研究・生涯学習研究
星の降る里百年記念館
平成24年度版 年報 Vol.20
北海学園大学
学園論集 第155～156号
北海道開拓記念館
北海道開拓記念館研究紀要 第41～42号
北海道開拓記念館だより 219～222号
北海道開拓記念館2012 要覧
北海道開拓記念館2013 要覧
北方地域の人と環境の関係史
2010-2012調査報告
北海道教育大学
北海道教育大学紀要 自然科学編 第63巻 1～2号
北海道教育大学紀要 自然科学編 第64巻 1号
北海道教育大学紀要 人文科学・社会科学編
第62巻 2号
北海道教育大学紀要 人文科学・社会科学編
第63巻 1～2号
北海道教育大学紀要 人文科学・社会科学編
第64巻 1号
北海道大学
リテラポプリ No.5 2

北海道大学文学部

知られざるクリル・カム・チャツカ
ーロシアから見た境界のイメージー

北海道大学総合博物館

北海道大学総合博物館ニュース 第27～28号
北方四島調査報告
環オホーツク海域における
前近代交易の発達と諸民族形成史の研究
ワニと恐竜の共存 巨大ワニと恐竜の世界

北海道大学埋蔵文化財調査室

埋蔵文化財調査室ニュースレター 第15～17号
北大構内の遺跡XX

北海道博物館協会

道博協ニュース 第109～110号

北海道博物館友の会設立実行委員会

北海道の地域住民と博物館をつなぐ
ミュージアム・エージェント育成事業実施報告書

北海道文化財保護協会

北海道の文化 Vol.86

(公財)北海道埋蔵文化財センター

北海道埋蔵文化財センター 調査年報 26
北海道立埋蔵文化財センター年報 14

北海道立文学館

北海道立文学館報 第94号

北海道立近代美術館

シャガールおじさんとねこのビビ
シャガール展 展示カタログ
フィンランド・デザイン展
ミュージアム新書30
ー天にむすび、地をつなぐ 安田 侃ー

北海道立北方民族博物館

北海道立北方民族博物館研究紀要 第22号
北海道立北方民族博物館年報 平成24年度
北方民族博物館だより No.88～91
北海道立北方民族博物館 資料目録 9
明治大学政治経済学部 寄贈目録
極東の島グリーンランド
氷海のハンター・エスキモー

北海道松前町教育委員会

館浜G遺跡

(財)北方文化振興協会

館浜G遺跡

むかわ町教育委員会

むかわ町二宮 4 遺跡発掘調査報告書

むかわ町立穂別博物館

むかわ町立穂別博物館館報 第29号
むかわ町立穂別博物館研究報告 No.28

森町教育委員会

鷲ノ木 1 遺跡 II
東蝦夷地南部藩陣屋跡 砂原陣屋跡 松屋崎台跡

余市町教育委員会

余市町登町 4 遺跡 2013年度

利尻町立博物館

利尻研究 利尻町立博物館年報 第33号

礼文町教育委員会

国指定重要文化財 北海道船舶遺跡出土品
一覧表・概要パンフレット・写真図録

大津・十勝川学会

大津十勝川研究 第11号

帯広大谷短期大学

帯広大谷短期大学紀要 第50号
帯広大谷短期大学生涯学習センター紀要 第2号

帯広大谷短期大学附属図書館

帯広大谷短期大学図書館だより 第25号

帯広市教育委員会

帯広・川西C遺跡 4

帯広百年記念館

帯広百年記念館紀要 第31号
帯広百年記念館の展示がわかる本

帯広百年記念館友の会

とかちぼうず 第30号

上士幌町ひがし大雪博物資料館

上士幌町ひがし大雪博物館研究報告 第35号

神田日勝記念美術館

神田日勝記念美術館だより 30

神田日勝記念美術館友の会

画室 Vol.42～43
神田日勝記念美術館友の会二十周年記念誌
未完のあゆみ II

後藤秀彦

辛夷 S47.9 (1972年)～2011.6 欠番あり
計425冊
第6回 十勝管内郷土芸術祭
文芸、書道作品集

短歌雑誌 新掬 いはり 2 Vol.68 No.2
りくべつ宇宙地球科学館
天文台だより Vol.55 Vol.61～62
陸別町郷土研究会
郷土研究 第20号
佐藤芳雄
写真で覚える 日本刀の基礎知識
徳川美術館展 尾張徳川家の至宝
高橋悦子
浦幌の昔ばなし
ことぶき大学俳句 平成25年度
合同句集・ことぶき
浦幌ヒグマ調査会
浦幌クマ便り Vol.14, No. 2
浦幌町教育委員会
町民文芸「樹炎」第29号、第31号
【青 森 県】
青森県教育庁文化財保護課
特別史跡 三内丸山遺跡年報 17
三内丸山遺跡 41
三内丸山通信 第57～58号
青森県教育委員会
明神沼遺跡・福島城跡 5
【岩 手 県】
一関市博物館
一関市博物館研究報告 第16号
一関市博物館 第20回企画展
地を量る―描かれた国、町、村―
10周年記念誌 和算に挑戦
岩手県立博物館
岩手県立博物館だより No.137～140
北上市立博物館
北上市立博物館だより No.34
北上市立鬼の館
北上市立鬼の館だより No.38
遠野市立博物館
佐々木喜善没80年記念事業
佐々木喜善と宮沢賢治
西のメルヘン東の昔話
～佐々木喜善とグリム兄弟～
宮沢賢治記念館
平成24年度 宮沢賢治記念館年報

宮沢賢治記念館通信 第109～110号
【宮 城 県】
仙台市教育委員会
地底の森ミュージアム・縄文の森広場
研究報告 2012
仙台市富沢遺跡保存館 地底の森ミュージアム
地底の森ミュージアム・縄文の森広場年報2013
ひらけ！～東北の旧石器～旧石器人の道具箱
東北福祉大学 芹沢銈介美術工芸館
芹沢銈介美術工芸館年報 4
【山 形 県】
山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館
2012 年報
企画展図録「山形古代史発掘40年」
うきたむ 第40～41号
【新 潟 県】
(株)いき出版
写真アルバム 帯広・十勝の昭和
十日町市博物館
常設展示ガイド
新潟県立歴史博物館
新潟県立歴史博物館研究紀要 第14号
黄金の国々―甲斐の金山と越後・佐渡の金銀山―
収蔵資料目録 考古資料Ⅰ 星野洋治コレクション
弥生時代のいがた 時代がかわるとき
【茨 城 県】
大洗町幕末と明治の博物館
第2号 大洗町幕末と明治の博物館報
【千 葉 県】
国立歴史民俗博物館
東日本大震災と気仙沼の生活文化
展示図録「中世の古文書―機能と形―」
歴史に見る震災
企画展図録「時代を作った技―中世の産業革命―」
千葉県立中央博物館
千葉県立中央博物館研究報告 人文科学
第13巻 第1号
市立市川考古博物館
市立市川考古博物館館報 第39～40号
野田市郷土博物館・市民会館
野田市郷土博物館・市民会館年報・紀要第5号
野田の絵馬

～ならわし、なりわい、わざわい、たすけあい～
千葉大学文学部考古学研究室

礼文町 浜中2遺跡 第3次発掘調査概報
 中標津町 当幌川遺跡 第2次発掘調査概報

【埼 玉 県】

跡見学園女子大学 花蹊記念博物館

平成24年度跡見学園女子大学花蹊記念博物館
 学芸員課程 紀要年報「にいくら」No.18

春日部市郷土資料館

最後の将軍がみた春日部
 ー野鳥と御鷹場・御狚場ー

【東 京 都】

青山学院大学史学科研究室

青山史学 第31号

出光美術館

出光美術館報 第162～165号

江戸東京博物館

江戸東京博物館NEWS Vol.81～84

お茶の水女子大学博物館学研究室

博物館実習報告 第29号

國學院大学文学部考古学研究室

長野県安曇野市 穂高古墳群
 2012年度発掘調査報告書
 本ノ木遺跡・卯ノ木泥炭遺跡
 2009～2011年度発掘調査報告書

昭和女子大学 国際文化研究所

国際文化研究所紀要 Vol.16～18

駿台史学会

駿台史学 第148～149号

世田谷区立郷土資料館

世田谷叢書第七集 下掃除関連史料
 1955～64 ー写真に見る高度成長期の世田谷ー
 資料館だより No.58～59

豊島区立郷土資料館

生活と文化研究紀要 第22号
 かたりべ 106～111

地方史研究協議会

地方史研究 第362号

東京大学総合研究博物館

東京大学総合研究博物館ニュース
 Ouroboros インターメディアテク特集号
 Ouroboros 第47～50号

法政大学史学会

法政史学 第79～80号

法政大学国際日本学研究所

国際日本学 第10号
 日本のアイデンティティを《象徴》するもの
 HOSEI I.J.S. The Newsletter No.17～18

(株)文化環境研究所

Cultivat No.41

明治大学 学芸員養成課程

MUSEUM STUDY
 明治大学学芸員養成課程紀要 24号
 MUSEOLOGIST
 明治大学学芸員養成課程年報 28号

明治大学博物館

2012年度 明治大学博物館年報
 明治大学博物館研究報告 第18号
 博物館資料への再生
 自明性への問いとコレクションの文化資源化

立正大学史学会

立正史學 第113～114号

【神 奈 川 県】

神奈川大学日本常民文化研究所

2013年度 神奈川大学日本常民文化研究所
 民具マンスリー 第46巻1～12号

川崎市市民ミュージアム

川崎市市民ミュージアム紀要 第25集

日本大学 生物資源科学部

人間科学研究 第11号

平塚市博物館

平塚市博物館年報 第35～36号
 自然と文化 第36号

横浜市歴史博物館

横浜市歴史博物館資料目録 第21集
 横浜市歴史博物館調査研究報告 Vol.9
 横浜市歴史博物館紀要 第17号
 横浜市歴史博物館NEWS 34～35
 「生麦事件と横浜の村々」
 N. G. マンローと日本考古学

横浜を掘った英国人学者

千歯抜き 倉吉・若狭・横浜

特別展 畠山重忠

ー横浜・二俣川に散った武蔵武士ー

横浜市立大学コレクション・古地図の世界
ー地球のかたちと万国の大地ー

【長野県】

飯田市美術博物館

飯田市美術博物館研究紀要 第23号

飯田市美術博物館・

飯田市上郷考古博物館年報 第22号

伊那谷自然史論集 Vol.14

伊那谷の火山灰 ー重要露頭と鉱物ー

飯田市美術博物館・

柳田國男記念伊那谷民俗学研究所

飯田・上飯田の民俗1

【富山県】

魚津歴史民俗博物館

魚津市立博物館紀要 第8～9号

富山県埋蔵文化財センター

富山県埋蔵文化財センター年報 平成24年度

特別展図録 禍が遺した歴史

縄文時代の越飛を結ぶムラ 布尻遺跡

縄文時代の越飛を結ぶムラ 布尻遺跡出土品集

砺波平野の縄文時代中期のムラ 松原遺跡

砺波平野の縄文時代中期のムラ

松原遺跡出土品集

埋文とやま Vol.122～126

氷見市立博物館

氷見市立博物館年報 第31号

向島文庫目録 第4集

人びとのいとなみと動物たち

ー生活・文化・信仰ー

雨を乞う ー豊作への願いー 2014

【福井県】

越前町織田文化歴史館

海は語る ふくいの歴史を足元から探る

【愛知県】

南山大学人類学博物館

南山大学人類学博物館紀要 第31号

【京都府】

同志社大学歴史資料館

同志社大学歴史資料館報 第16号

調査研究報告 第12集

相国寺旧境内・上京跡発掘調査報告書

京都大学院文学研究科 考古学研究室

京都市一乗寺向畑町遺跡跡出土

縄文時代資料 ー資料編ー

【奈良県】

(公財) 奈良人権文化財団 水平社博物館

LUCIFER 第16号

天理大学附属天理参考館

天理参考館報 第26号

(独) 奈良文化財研究所

奈良文化財研究所紀要 2013

奈良文化財研究所概要 2013

遺跡情報交換標準の研究 第3版

埋蔵文化財ニュース 150～153

奈良大学文学部文化財学科

文化財学報 第31集

【大阪府】

大阪市立自然史博物館

大阪市自然史博物館報 38

大阪大谷大学博物館

博物館だより No.113～114

安政大和国御陵所調・おくつきのさた

大阪大谷大学文化財学科

大阪大谷大学文化財研究 第13号

志学台考古 第13号

関西大学博物館

関西大学博物館紀要 第19号

阡陵 No.66～67

企画展 名刀にかける 刀匠河内國平作刀展

かんさい・大学ミュージアム連携実行委員会

大学の扉を開く ー人材育成の手法と実践ー

【兵庫県】

姫路市立城郭研究室

姫路市立城郭研究室年報 第23号

(財) 竹中大工道具館

竹中大工道具館だより No.30

【広島県】

(株) 熊平製作所

抜萃のつづり その七十三

【山口県】

下関市立考古博物館

下関市立考古博物館研究紀要 第17号

下関市立考古博物館年報 第18号

特別展 くらしとまつりの家

－弥生時代から古墳時代の建物－

土井ヶ浜遺跡人類学ミュージアム

土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム

研究紀要 第8号

海をみつめる弥生人 －土井ヶ浜の人類学誌－

【愛 媛 県】

愛媛県歴史文化博物館

研究紀要 第18号

歴博だより No.73～76

特別展「佐田岬半島と西日本の裂織」

村上節太写真資料目録

【福 岡 県】

九州大学記録史料館（旧石炭研究資料センター）

「エネルギー史」研究第二八号抜刷

「資料紹介」釧路から筑豊、

戦時下炭砒「急速転換」係員の日記

福岡市経済観光文化局埋蔵文化財センター

福岡市埋蔵文化財センター年報 第32号

IV. 資料の提供

貸 出 先	株式会社 小学館
資 料 名	オタフンベチャシ跡写真 1 点
目 的	月刊誌サライ 6 月号 特集「はじめての北海道を旅する」掲載
期 間	平成25年 4 月 9 日

貸 出 先	菊沢 敏明
資 料 名	浦幌中学校写真他 1 1 点
目 的	クラス会資料作成
期 間	平成25年 5 月28日

貸 出 先	帯広信用金庫浦幌支店
資 料 名	浦幌町写真 2 0 点
目 的	浦幌支店開設 6 0 周年記念「浦幌町の写真展」開催
期 間	平成25年 6 月24日～平成25年 7 月 5 日

貸 出 先	越前町織田文化歴史館
資 料 名	共栄 B 遺跡出土 玦状耳飾写真 1 点
目 的	企画展覧会「海は語る ふくいの歴史を足元から探る」展示、図録掲載
期 間	平成25年 7 月18日～平成25年 9 月30日

貸 出 先	釧路市立博物館
資 料 名	「一浦幌一入坑前 5 分間」№270 B 4 裏表ガリ版印刷データ 1 点
目 的	企画展「釧路炭田の炭鉱と鉄道」展示
期 間	平成25年12月17日～平成26年 3 月31日

貸 出 先	株式会社 同成社
資 料 名	浦幌町立博物館展示室写真 1 点
目 的	大学教科書「博物館展示の理論と実践」
期 間	平成26年 1 月21日

V. 博物館の事業

平成25年度 浦幌町立博物館運営方針

浦幌町教育の日・小中一貫教育・学校支援を地域全体で具現化するために生涯学習推進の観点から浦幌町立博物館は次のような活動を展開します。

- 本町全体を総合的ミュージアムと位置付け、内外の研究者や町民を巻き込みながら新たな発見を求めて調査・研究活動や博物館講座を開催します。また、貴重な収蔵資料をもとに定期的に小企画展を開催します。(化石・昆虫・植物研究)
- 町民の貴重な財産である歴史遺産、恵まれた自然等を教育的資源として活用するため、文化財・地質・草花・野鳥探索等「うらほろスタイルゼミナール」や「博物館ミニ移動講座」「各種博物館講座」を実施します。(考古学・産業遺産・戦争遺産・第四紀・第三紀・白亜紀・ヒグマ・四季の植物等)
- 学校との連携を強化し、展示資料等や町内の教育的資源をもとに総合学習や理科・社会・歴史などの教科指導に深く関わり博物館の教育機能を最大限に活用・発揮します。小中一貫教育を見据え、学校支援ボランティア派遣・育成にも応えていきます。(総合学習・理科・社会・歴史等)
- 管内外の博物館、研究機関・福祉団体や産業・観光団体と連携し、浦幌の魅力を探り発信します。(各大学等の研究機関との合同研究、ロングトレイル協議会・高齢者団体等との連携)
- 博物館を人々の生涯学習の場として魅力あるものに育て、それを支えていただくために、気軽に参加できる展示説明・古文書解読・アイヌ文化伝承等のボランティア活動の場を設けます。
- ジャンルや興味に関係なく博物館に気軽に集えるよう、各種企画展やロビーコンサート、ナイトミュージアム等を図書館・公民館と連携し開催します。
- アイヌ協会浦幌支部と連携し、アイヌの食やアイヌ工芸など、アイヌ文化の振興を図り、発表・鑑賞の機会の場を設定します。
自然とともに生きる知恵を、暮らしに活かしてきたアイヌ文化を伝承し、広く町民に呼びかけアイヌ文化と触れ合う機会をつくります。
(アイヌ文様手芸・木彫・アイヌ文化展示会等)

V. 博物館の事業

分類	事業名	事業内容	場 所	期 日	備 考
収 集	旧資料の登録化	郷土博物館からの資料引継ぎ	博物館	通年	
	新資料の登録化	新資料・寄贈資料の整理登録化	博物館	通年	寄贈 251点 収集 106点
	図書資料の収集	図書資料の収集	博物館	通年	受贈 704点
	新聞資料の収集	新聞資料の整理	博物館	通年	カード化
保存	昆虫標本の作成・保存	チョウの採集・標本化	博物館	夏季	採集 53頭
展 示	巡回展 (帯広百年記念館共催)	帯広百年記念館運営連絡協議会移動展 「十勝の鉄道史写真展」	博物館	12/1～26	記帳者：110名
	小企画展	昭和27年十勝沖地震回顧展	博物館	4/1～4/21	記帳者：146名
		浦幌の地層に刻印された巨大津波展	博物館	4/1～継続中	
		収蔵資料展「端午の節句展」	博物館	4/22～5/5	記帳者：78名 記念撮影：21名
		3.11津波漂着物写真展	博物館	4/1～継続中	
		パピロフレンズ折り紙展	博物館	5/9～5/26	記帳者：94名
		山下僚写真展「野のかぜ時いろ」	博物館	5/30～6/12	記帳者：98名
		絶滅したアンモナイト展	博物館	7/1～9/14	記帳者：459名
		真夏の残像・・・あの夏の熱き思い ・・・戦争体験を伝える	博物館	8/6～19	記帳者：75名
		収蔵資料展 「懐かしき昭和の生活展」	博物館	9/19～10/10	記帳者：108名
		収蔵資料展「みよりの秋」 農具の展示会	博物館	10/16～11/17	記帳者：167名
		十勝・浦幌鉄道開業110年展	博物館	12/1～26	記帳者：110名
		フォトサークル21 15周年写真展	博物館	12/28～1/21	記帳者：70名
		2013年 全国孔版画賀状展	博物館	1/26～2/5	記帳者：60名
		収蔵資料展「ひな人形展」	博物館	2/15～3/3	記帳者：116名 写真撮影：43名
		アイヌ文化伝承事業(アイヌ協会共催) 「アイヌ文様刺繍展示会」	博物館	3/11～30	記帳者：105名
		昭和27年 浦幌を襲った十勝沖大震災回顧展	博物館	3/4～30	
調 査	古文書解説	十勝郡生剛村役場公文書	博物館	通年	博物館ボランティア
	浦幌町植物・野生動物・化石調査	大学・研究者と連携して調査研究を行う	町 内	通年	ヒグマ・アンモナイト・K-T境界層
教 育 普 及	博物館講座等の開設	三世代交流博物館講座「詩吟と茶道」	博物館	6/29	参加者 30名
		昆虫採集・標本づくり講座	森林公園他	7/14・8/6	講師 円子紳一 参加者 延べ12名
		子ども考古学教室「勾玉づくり」	博物館	7/21	講師 佐藤館長 参加者 4名
		うらほろスタイルゼミナール 「アンモナイト発見の意義」	博物館	7/23	講師 栗原憲一 参加者 11名
		うらほろスタイルゼミナール 「地球を食べる化石」	博物館	8/10	講師 天野和孝 参加者 21名
		語り部 子どもたちに伝える 「むかし戦争がありました」	博物館	8/11	講師 高橋悦子 参加者 7名

分類	事業名	事業内容	場 所	期 日	備 考
教 育 普 及	博物館講座等の開設	子どもヒグマの学校	博物館	8/18	講師 武蔵友絵他11名 参加者 23名
		開拓時代の食べ物試食会	博物館	10/20	参加者 20名
	共催支援事業	上級アイヌ文化伝承教室 (アイヌ文様刺繍)	博物館	10/8・9・15・16 11/5・6・19・20 12/3・4・10・11	講師：加藤シヅエ 開催回数：12回 参加者 延べ100名
		収蔵資料レコードコンサート	博物館	11/2	参加者 4名
	博物館講座等の開設	うらほろスタイルゼミナール 「デジタルカメラ教室」 「デジタルカメラ教室・野外撮影会」	博物館・ 森林公園	11/12・23	講師 山下 僚 参加者 11名 10名
		うらほろスタイルゼミナール 「ウガンダの女性たち」	中央公民館	11/20	講師 畠山裕恵 参加者 33名
		エゾリスBOX	博物館	11/24	講師 伊藤彩子・小林真樹 参加者 4名
		初心者アイヌ文化伝承教室 (アイヌ伝統料理)	中央公民館	11/25	講師 差間正樹 参加者 7名
		クリスマス・ナイトミュージアム	博物館	12.19	参加者 9名
		化石のレプリカづくり教室	博物館	1/10	講師 澤村 寛 参加者 44名
		うらほろスタイルゼミナール 「語り部木曜塾」	博物館	2/6・13・ 20・27	講師 高橋悦子 参加者 延べ31名
		うらほろスタイルゼミナール 「黒いダイヤ物語」	中央公民館	2/7	講師 石川孝織 参加者 延べ22名
		うらほろスタイルゼミナール 「ミュージックケア」	中央公民館	3/4	講師 鈴木美嘉 西田祐子 参加者 9名
		うらほろスタイルゼミナール 「夢見てこの地に来てみれば・・・」	中央公民館	3/11	コメンテーター 高橋 徹 参加者 12名
		うらほろスタイルゼミナール 「ボランティア」	中央公民館	3/20	講師 熊谷圭志 参加者 27名
	移動博物館教室の開設	春の渡り鳥観察会	豊 北	4/6	講師 春日基江 参加者 19名 25種
		春の草花観察会 「ウラボロイチゲ」	養老・万年	4/27	講師 坂下禮子 参加者 17名
		春の野鳥観察会「青い鳥」	森林公園	5/11	講師 春日基江 参加者 11名 13種
		うらほろスタイルゼミナール 「知っとこ浦幌」	町内全域	5/12	講師 佐藤館長 参加者 3名
		歴史編「古の人々が住んでいた丘」	豊 北・ 十勝太・ 厚 内	6/8	講師 佐藤館長 参加者 3名
		初夏の草花観察会「海岸編」	豊 北	6/22	講師 坂下禮子 参加者 10名 23種
		初夏の野鳥観察	豊 北	7/6	講師 春日基江 参加者 9名 17種

分類	事業名	事業内容	場 所	期 日	備 考
教 育 普 及	移動博物館教室の開設	地学編「新第三紀の浦幌を探る」	町 内	7/27	講師 和歌山満 参加者 3名
		地学編「恐竜絶滅の謎を探る」	川流布	8/10	講師 佐藤館長 参加者 15名
		郷土史編「浦幌の文化財・史跡」	豊北・稲穂・ 幾千世・ 留 真	9/21	講師 佐藤館長 参加者 4名
		秋の野鳥観察会	豊 北	9/28	講師 春日基江 参加者 4名 21種
		郷土史編「浦幌の文化財・史跡」	厚内・ 直別	9/21	講師 佐藤館長 参加者 4名
		野生動物編「ヒグマの生態を探る」	留 真	10/20	講師 佐藤喜和 小林喬子 参加者 7名
		晩秋の渡り鳥観察会	豊 北	11/4	講師 春日基江 参加者 10名 15種
		うらほろスタイルゼミナール 「十勝・浦幌鉄道物語」	浦幌駅・ 厚内駅	12/1・15・22 1/11	講師 持田 誠 参加者 延べ32名
		移動自然（厳寒）体験 「厳寒の豊北氷原を走破！」	豊 北	2/1	講師 佐藤道人 郷 栄 参加者 56名
	ロビーコンサート	収蔵資料レコードコンサート	博物館	4/13・5/4・6/23・ 7/13・8/24・10/6・ 11/2・12/7・1/11・ 2/8・3/1	参加者 延べ72名
		ロビーコンサート「歌声サロン」	博物館	7/17	参加者 15名
		ロビーコンサート「歌声サロン」	博物館	9/11	参加者 18名
		ロビーコンサート「子ども民謡会」	博物館	11/23	参加者 40名
		クリスマスロビーコンサート 「ニコルのバイオリンと英語の歌」 「歌声サロン」	博物館	12/19	参加者 25名
	レファレンス業務		博物館	通年	
	「博物館年報」の発行	第14号・A4判・82P・500部	博物館	平成25年11月発行	
	「博物館紀要」の発行	第14号・A4判・67P・500部	博物館	平成26年3月発行	
	講義・指導等	全道フットパスの集いin東十勝	町 内	5/25・26	参加者 延べ174名
		道教育大学教育学部釧路校生 町内巡検	町 内	6/13	生徒 28名 引率 5名 地域教育開発集中講座
		東十勝ロングトレイル 「海ルート」	厚内・ 豊北	6/29	参加者 34名
		浦幌小学校3・4年生総合学習 「町内魅力発見バスツアー」	町 内	7/8	児童 3年36名 4年38名 引率 1名
		帯広商工会議所 「十勝再発見バスツアー」	博物館	7/13	参加者 40名 帯広市から
		浦幌中学校3学年総合学習 「町内魅力発見バスツアー」	豊 北 ・ 十勝太道跡・ 東山町有林	7/16	生徒 40名 引率 1名

分類	事業名	事業内容	場 所	期 日	備 考
教育普及	講義・指導等	上浦幌PTA連合会 「浦幌町研修視察PART2」	町 内	7/20	参加者 25名
		本別歴史民俗資料館 「十勝に残る戦争跡地をめぐるツアー」	豊北・博物館	8/5	参加者 20名
		浦幌小学校PTA 「ふれあい旅行」	雨天のため博物館	8/31	参加者 36名 勾玉づくり体験
		十勝地区身体障がい者福祉協議会 東部ブロック研修会	博物館	9/4	参加者 73名
		北海道教育大学釧路校 地域づくりと 教師・学校の役割研究会講師	町 内	9/9	参加者 6名
		帯広市図書館「ふるさと再訪」	博物館	9/13	参加者 30名
		浦幌小学校5年生理科学習 「流れる水のはたらき」	留 真	9/27	児童 21名 引率 2名
		豊頃小学校6年生理科学習 「地層見学・化石発掘体験」	厚 内	10/7	児童 39名 引率 2名
		東十勝ロングトレイル 「森ルート」	留 真	10/19	参加者 40名
		中富良野町 社会教育委員研修視察	博物館・町内文化財	10/22	参加者 11名
		浦幌小学校3年生社会学習 「おばあちゃんの知恵袋」	博物館	2/7	児童 28名 引率 2名
研修等	博物館協議会の開催	館長の諮問機関・年3回	教育文化センター	5/22・ 8/28・3/19	
	帯広百年記念館 運営連絡協議会総会	帯広百年記念館運営のための 連絡協議会	帯 広 百年記念館	6/5	佐藤館長出席
	道東3管内博物館 施設等連絡協議会総会		釧路市立博物館	5/24	佐藤館長出席
連携事業	浦幌町商工会むら おこし活性化事業	町内の魅力を観光資源・雇用拡大 につなげるためのプロジェクト	コスミックホール	9/18・10/15・26・ 11/7・12/24・1/1	町内モニターツアー等
	東十勝ロングトレイル事業	トレイルを元に東十勝浦幌の魅力を発信する事業	町 内	9/11・10/9・ 12/18	町内モニターツアー等
研究者等受入	日本大学・酪農学園大学	ヒグマ研究	博物館	通年	佐藤喜和教授他
	上越教育大学	貝化石研究	博物館	通年	天野和孝教授
	個人研究者	貝化石研究	博物館	通年	井上清和
	三笠市立博物館	アンモナイト研究	博物館	通年	栗原憲一
	帯広百年記念館	植物研究	博物館	通年	持田 誠



PL.1 昭和27年十勝沖大震災展
（H25.4～）

PL.2 博物館移動講座
「春の渡り鳥観察会」(1)
（H25.4.7）



PL.3 博物館移動講座
「春の渡り鳥観察会」(2)
（H25.4.7）



PL.4 博物館移動講座
「ウラボロイチゲ観察会」
(H25.4.27)

PL.5 端午の節句撮影会(1)
(H25.5.2)



PL.6 端午の節句撮影会(2)
(H25.5.2)

V. 博物館の事業



PL.7 青い鳥観察会
(H25.5.11)

PL.8 レコードコンサート
(H25.6.22)



PL.9 博物館移動講座「春の
植物」(1)
(H25.6.22)



PL.10 博物館移動講座「春の植物」(2)
(H25.6.22)

PL.11 アンモナイト展(1)
(H25.7.1~9.15)



PL.12 アンモナイト展(2)
(H25.7.1~9.15)

V. 博物館の事業



PL.13 歌声サロン
(H25.7.17)

PL.14 小企画展「真夏の残像
…あの夏の熱き想い」
(H25.8.6～19)



PL.15 昆虫採集標本づくり教室(1)
(H25.8.6)



PL.16 昆虫採集標本づくり教室(2)
(H25.8.6)

PL.17 うらスタゼミ「地球を
食べる貝化石」
(H25.8.10)



PL.18 語り部「子どもたちに伝える戦争体験
・・・むかし戦争がありました」
(H25.8.11)



V. 博物館の事業



PL.19 子どもヒグマの学校
(H25.8.18)

PL.20 歌声サロン
(H25.9.11)



PL.21 懐かしき昭和の生活展
(H25.9.19~10.10)



PL.22 浦小6年理科学習「地層と化石」
(H25.10.4)

PL.23 開拓当時の農具展
(H25.10.16~11.17)



PL.24 開拓時代の食体験
(H25.10.20)

V. 博物館の事業



PL.25 博物館移動講座「ヒグマの生態を探る」背こすり
(H25.10.20)



PL.26 博物館移動講座「冬の渡り鳥観察会」(1)
(H25.11.4)



PL.27 博物館移動講座「冬の渡り鳥観察会」(2) ハクガンの群れ
(H25.11.4)



PL.28 ロビーコンサート「子ども民謡会」
(H25.11.23)

PL.29 博物館講座「デジカメ教室」
(H25.11.23)



PL.30 エゾリスBOX
(H25.11.24)

V. 博物館の事業



PL.31 博物館講座「アイヌ伝統料理教室」
(H25.11.25)

PL.32 十勝・浦幌鉄道物語(1)
(H25.12.1)



PL.33 十勝・浦幌鉄道物語(2)
(H25.12.1)



PL.34 十勝・浦幌鉄道物語(3)
(H25.12.1)



PL.35 クリスマス歌声サロン
(H25.12.19)



PL.36 ナイトミュージアム
(H25.12.19)

V. 博物館の事業



PL.37 化石レプリカづくり
(H26.1.10)

PL.38 自然（厳寒）体験教室(1)
(H26.2.1)



PL.39 自然（厳寒）体験教室(2)
(H26.2.1)



PL.40 うらほろスタイルゼミ
炭鉱編
(H26.2.7)

PL.41 語り部木曜塾
(H26.2.7)



PL.42 雛人形展 (H26.3.3)

VI. レファレンス業務

2013年度において、照会などのあった内容は概ね次のようなものである。

- ・ 共栄B遺跡：玦状耳飾について
- ・ オタフンベチャシ跡について
- ・ 異常巻きアンモナイトについて
- ・ 十勝太遺跡について
- ・ 十勝オコッペ遺跡について
- ・ 新吉野台遺跡について
- ・ 下頃辺遺跡について
- ・ 豊北原生花園について
- ・ 黄金の滝について
- ・ 町内のトーチカについて
- ・ 化石資料について
- ・ ウラホロイチゲについて
- ・ K-T境界層（K-P g）について
- ・ 旧浦幌炭礦について
- ・ 博物館展示内容について
- ・ 渡り鳥の観察ポイントについて
- ・ 町内の史跡について
- ・ ヒグマの生態について
- ・ 町内の地層について
- ・ 町内の化石産出場所について
- ・ 浦幌開拓獅子舞について
- ・ ミヤマエンレイソウについて
- ・ シラカバ樹液について
- ・ ウラホロハイカブリナについて
- ・ ウラホロモミジソデボラについて

VII. 博物館ボランティア

博物館活動の一環として、博物館ボランティアによる活動がある。博物館ボランティアの業務は、①資料整理等の補助業務 ②新聞資料等の整理 ③博物館図書の登録と整理 ④簡易な展示解説 ⑤調査研究活動の補助 ⑥その他館長が適当と認めた業務等が想定されるが、本館では①～③業務を主に行い、他に古文書解説も行われている。現在の登録者は9名であるが、日常的に活動している者は5名である。

なお、古文書解説の成果は、「浦幌町立博物館紀要」第14号に掲載した。

●博物館ボランティア活動日数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実 人 数	5	4	3	3	2	2	1	1	3	11	4	3	42
延 人 数	25	11	6	5	4	2	3	4	6	2	14	6	88

●博物館ボランティア登録者

北 町	春日 基江	住吉町	三浦 直春	栄 町	橋本 友子	宝 町	佐藤 明美
十勝太	市川 藤子	万 年	坂下 禮子	南 町	荒川 和子	北 栄	円子 紳一
南 町	齋藤絵理佳						

VIII. 博物館日誌（抄）

平成25年

- 4月1日(月) 町辞令交付式。教育委員会辞令交付式。
博物館、図書館、中央公民館長辞令交付式。
- 4月2日(火) 臨時校長会議。臨時教頭会議。
- 4月5日(金) ソーゴー印刷(株)月刊しゅん 松田夏海氏、島崎なつみ氏取材のため来館。
- 4月6日(土) 博物館ミニ移動講座（野鳥編）「渡り鳥観察会・・・ハクガン」。
- 4月10日(水) 酪農学園大学教授佐藤喜和氏、ヒグマ調査のため来館。
- 4月13日(土) 収蔵資料レコードコンサート開催。
- 4月16日(火) (株)丹青社、博物館スクリーンメンテナンスのため来館。
- 4月17日(水) 北海道新聞池田支局佐竹政治氏ウラホロイチゲ取材のため来館。
- 4月18日(木) 十勝毎日新聞大笹健郎氏、D o o p y Q u e e n（ドッピークィーン）神尾千尋氏、
谷村美佳氏浦音ライブ打合せのため来館。
- 4月19日(金) 佐藤館長、管内公共図書館協議会出席（帯広市）。
- 4月23日(火) 博物館収蔵資料展「端午の節句展」（～5月5日）。
(株)エコニクス嶋崎太郎氏、ウラホロイチゲについて問い合わせのため来館。
- 4月25日(木) 定例教育委員会。佐藤館長、北海道図書館振興協議会出席（札幌市）。
- 4月26日(金) 佐藤館長、北海道公民館協会総会出席（札幌市）。
- 4月27日(土) 博物館ミニ移動講座（草花編）「ウラホロイチゲ群落観察会」。
- 4月29日(月) とかち絵手紙の会会長津島民子氏ほか3名団体見学打ち合わせのため来館。
- 4月30日(火) 北海道アイヌ協会浦幌支部長差間正樹氏来館。
- 5月1日(水) 教育の日職員打合せ。
- 5月2日(木) 浦幌幼稚園団体見学。
- 5月4日(土) 収蔵資料レコードコンサート開催。
- 5月5日(日) 端午の節句写真撮影会。
- 5月6日(月) 中谷僚太郎氏、中谷慎太郎氏、中谷光太郎氏浦幌炭礦調査のため来館。
- 5月7日(火) 佐藤館長、和歌山満氏、円子紳一氏とK－T境界層下見。
- 5月8日(水) 佐藤館長、東十勝ロングトレイル協議会担当者会議出席（豊頃町）
- 5月9日(木) ノースプロダクション近江正隆氏、うらほろスタイルゼミナール打ち合わせのため来
館。学校図書館担当者会議。浦幌町教育の日推進協議会。
- 5月11日(土) 博物館ミニ移動講座（野鳥編）「青い鳥観察会」。
- 5月12日(日) うらほろスタイルゼミナール「知つとこ浦幌」。
- 5月15日(水) 足寄動物化石博物館館長澤村寛氏来館。
- 5月18日(土) 佐藤館長、町内教職員ふるさと移動研修会に講師として随行。
- 5月21日(火) 定例校長会議。定例教頭会議。
- 5月22日(水) 博物館・図書館協議会。
- 5月23日(木) 帯広信用金庫浦幌支店長代理梶幸司氏来館。畠山建設工業(株)菊沢敏明氏来館。
- 5月24日(金) 佐藤館長、道東三管内博物館施設等連絡協議会総会・役員会出席（釧路市）
酪農学園大学教授佐藤喜和氏来館。
- 5月25日(土) 佐藤館長、「全道フットパスの集いin東十勝」のガイド（福山、留真など）。
「全道フットパスの集いin東十勝」参加者団体見学。

VIII. 博物館日誌（抄）

- 5月26日(日) 佐藤館長、「全道フットパスの集いin東十勝」のガイド（十勝太など）。
- 5月27日(月) N P O法人サロベツ・エコ・ネットワーク事務局長嶋崎暁啓夫妻来館。
- 5月28日(火) 伊豆倉組社長伊豆倉寿信氏、商工会須藤富康氏、東十勝ロングトレイル協議会関係打ち合わせのため来館。化石研究家井上清和氏来館。
- 5月29日(水) 山下僚氏、写真展準備のため来館。
- 5月30日(木) 山下僚写真展「野のかぜ時いろ」開催（～6月12日）
- 6月3日(月) 帯広百年記念館学芸員持田誠氏来館。帯広市立図書館司書水内知恵氏、村上暁子氏来館。
- 6月5日(水) 佐藤館長、帯広百年記念館運営協議会出席（帯広市）
- 6月7日(金) 帯広信用金庫浦幌支店大島宗弘氏、梶幸司氏パネル展打合せのため来館。
- 6月8日(土) 博物館ミニ移動講座（歴史編）「古の人々が住んでいた丘」史跡めぐり。
帯広百年記念館学芸員持田誠氏来館。
- 6月12日(水) 佐藤館長、東十勝ロングトレイル担当者会議出席。山下僚氏、写真展撤収のため来館。
松村正氏、松村ヒロ子氏、調査研究のため来館。
- 6月13日(木) 佐藤館長、北海道教育大学釧路校「浦幌巡検」講師として随同行。
北海道教育大学釧路校学生、団体見学。
- 6月14日(金) 北海道教育振興会音楽振興会岡崎豊治氏来館。
- 6月15日(土) 浦幌町教育の日ブックフェスティバル。
- 6月16日(日) ロビーコンサート「浦音アコースティックライブ」。
D o o p y Q u e e n（ドッピークィーン）神尾千尋氏、谷村美佳氏、
廣川冠太氏浦音ライブのため来館。
- 6月17日(月) 日本大学ヒグマ研究グループ伊藤大地氏来館。
- 6月18日(火) ㈱丹青社森氏100インチテレビ調整のため来館。
- 6月19日(水) 佐藤館長、浦幌町公民館運営協議会、社会教育委員会出席。
- 6月21日(金) 佐藤館長、干場氏とアンモナイト借入（三笠市立博物館）。
東京農工大学小林喬子氏、日本大学石川十夢氏ヒグマ調査のため来館。
- 6月22日(土) 博物館ミニ移動講座（植物編）「初夏の草花観察会」
収蔵資料レコードコンサート開催。
- 6月24日(月) 退職校長会对馬氏、棚瀬氏来館。
- 6月25日(火) 東京農工大学小林喬子氏来館。
- 6月29日(土) 佐藤館長、博物館共催東十勝ロングトレイル「海ルート」ガイドとして随同行。参加者
団体見学。浦幌高等学校同窓会団体見学。
三世代文化交流「茶道と詩吟への誘い」うらほろ和ごころ体験塾。
- 7月1日(月) 特別企画「絶滅したアンモナイト展」（～9月15日）。
- 7月2日(火) 浦幌小学校P T A鈴木りさ氏、浦小P T A研修打ち合わせのため来館。
- 7月3日(水) 浦幌町生活相談員山岸律子氏来館。
- 7月4日(木) 佐藤館長、全道公民館職員研修会出席（札幌市）
- 7月6日(土) 博物館ミニ移動講座（夏鳥編）「アオサギ営巣地観察会」。
- 7月8日(月) 佐藤館長、浦幌小学校3年生社会学習講師のため随同行。
- 7月9日(火) 帯広信用金庫浦幌支店大島宗弘氏パネル返却のため来館。
佐藤館長、定住自立圏第二回幹事会・共生ビジョン懇談会出席（帯広市）
- 7月11日(木) 体験移住中のご夫妻、北海道新聞池田支局佐竹政治氏、円子紳一氏、豊頃町役場鐺木
政洋氏、A L T アンナ・マーシャル氏来館。
- 7月13日(土) 収蔵資料レコードコンサート開催。十勝観光連盟視察、団体見学。
- 7月14日(日) 博物館ミニ移動講座（昆虫編）「昆虫採集」。講師：円子紳一氏

- 7月16日(火) 佐藤館長、浦幌中学校3年生「町内魅力発見バスツアー」講師として随行。
浦幌幼稚園、団体見学。足寄動物化石博物館館長澤村寛氏来館。
早稲田大学工藤直樹氏、古地球環境調査のため来館。
- 7月17日(水) 歌声サロン（喫茶）開催。Chai編集長桜庭弘子氏、副編集長平田幸嗣氏取材のため来館。
- 7月18日(木) ㈱丹青社川口氏100インチモニター修理のため来館。
- 7月20日(土) 佐藤館長、上浦幌PTA町内移動研修に講師として随行。
- 7月21日(日) 博物館講座（歴史編）「こども考古学教室」
- 7月22日(月) 酪農学園大学教授佐藤喜和氏、ヒグマ調査のため来館。
- 7月23日(火) うらほろスタイルゼミナール「アンモナイト発見の意義」。講師：三笠市立博物館主任研究員栗原憲一氏。北海道ブックシェアリング代表荒井宏明氏来館。
早稲田大学工藤直樹氏、十勝自然史研究会藤山広武氏、平澤正勝氏、信州大学保柳康一氏、堀愛氏、池辺紘美氏、石澤堯史氏アンモナイト・K-T境界層調査のため来館。
- 7月24日(水) 三笠市立博物館主任研究員栗原憲一氏、早稲田大学工藤直樹氏アンモナイト・K-T境界層調査のため来館。十勝毎日新聞池田支局平野明氏取材のため来館。
- 7月26日(金) Chai編集長桜庭弘子氏、カメラマン辻博希氏取材のため来館。
- 7月27日(土) 博物館ミニ移動講座（地学編）「新第三紀の化石発掘体験」。
- 7月29日(月) 上浦幌公民館館長鈴木信男氏、㈱笹原商産会長笹原信勝氏、取締役笹原早苗氏来館。
- 7月30日(火) バタフライ・ウォッチング協会団体見学。丹青社川口氏モニター修理のため来館。
- 7月31日(水) 浦幌町生活相談員山岸律子氏、アイヌ刺繍講座打ち合わせのため来館。
- 8月1日(木) 佐藤館長、浦幌町少年道外交流事業（富山県）随行。～4日
- 8月4日(日) 佐藤館長、浦幌町少年道外交流事業（富山県）帰町。
- 8月5日(月) 本別歴史研究会、団体見学。十勝毎日新聞本別支局安田義教氏、本別歴史研究会に同行し来館。
- 8月6日(火) 小企画展「戦争体験を伝える」開催（～18日）博物館ミニ移動講座（昆虫編）「昆虫採集」。講師：円子紳一氏。料理愛好家坂下禮子氏、パンづくり教室打ち合わせのため来館。北海道新聞帯広支部報道部中沢弘一氏、新発見化石の取材のため来館。
- 8月7日(水) 図書館七夕まつりで博物館が「お化け屋敷」。七夕まつりで栗づくり教室 講師：山本ひとみ氏。Chai編集長桜庭弘子氏、副編集長平田幸嗣氏、カメラマン辻博希氏遺跡取材のため来館。
- 8月9日(金) 上越教育大学副学長天野和孝氏、助手1名講座打ち合わせのため来館。
- 8月10日(土) 博物館ミニ移動講座（地学編）「恐竜・アンモナイト絶滅の謎を探る」。
うらほろスタイルゼミナール「“地球を食べる”生物の化石」
講師：上越教育大学副学長天野和孝氏
- 8月11日(日) 語り部「むかし、戦争がありました。」語り部：高橋悦子氏
- 8月12日(月) 北海道アイヌ協会浦幌支部長差間正樹氏、差間昭子氏、山岸律子氏刺繍教室用務で来館。日本大学中村峰世氏、鈴木晋悟氏ヒグマ調査のため来館。
- 8月13日(火) 佐藤館長、上越教育大学副学長天野和孝氏、化石研究家井上清和氏、和歌山満氏、K-T境界層調査のため現地説明。
- 8月14日(水) 猟友会鈴木由希氏打ち合わせのため来館。上越教育大学副学長天野和孝氏、助手1名来館。
- 8月16日(金) 猟友会野口昌靖氏、鈴木由希氏打合せのため来館。日本大学中村峰世氏、鈴木晋悟氏、石橋悠樹氏ヒグマ調査のため来館。
- 8月17日(土) 杉本年明氏、浦幌炭礦模型寄贈のため来館。小関隆志氏、小関美枝氏、

VIII. 博物館日誌（抄）

- 小関俊太郎氏、小関春那氏、小関沙奈氏、杉本氏と一緒に来館。
- 8月18日(日) 小企画展「戦争体験を伝える」終了。
「こどもヒグマの学校」講師：日本大学武蔵友絵氏、中村峰世氏、伊藤大地氏、遠藤菜摘氏、鈴木晋悟氏、石橋悠樹氏、堀川可琳氏、竹内直輝氏、藤井萌氏、田中博子氏、染谷慧人氏、酪農学園大学小倉深友紀氏。
- 8月19日(月) 定例校長会。定例教頭会。
飛田辰章氏、円子紳一氏、猟友会野口昌靖氏、北海道教育大学釧路校准教授宮前耕史氏、上山紗那氏、渡邊希美氏来館。
- 8月20日(火) 十勝総合振興局森林室亀田孝史氏、木育宣伝のため来館。
- 8月21日(水) 帯広要約筆記サークルたんぽぽ白木喜子氏、中井玲子氏、西村美千代氏、武嶋敬子氏、中山典子氏、社会福祉協議会敦賀仁氏事前視察のため来館
池田警察署齋藤英雄氏、杉村友行氏図書館防犯講習打ち合わせのため来館。
酪農学園大学教授佐藤喜和氏、ヒグマ調査のため来館。
- 8月22日(木) 池田高校工藤亮太氏、名波駿介氏職業体験のため来館。
民生委員中西千尋氏来館。
- 8月23日(金) 中央寿大学社会見学、団体見学。
浦幌小学校PTA鈴木りさ氏浦小PTA研修打ち合わせのため来館。
猟友会野口昌靖氏、鈴木由希氏、池田壽彦氏打合せのため来館。
- 8月24日(土) 収蔵資料レコードコンサート開催。
- 8月27日(火) C h a i 副編集長平田幸嗣氏雑誌寄贈のため来館。
円子紳一氏、十勝総合振興局森林室種田広勝氏来館。
- 8月28日(水) 佐藤館長、博物館・図書館協議会出席。
- 8月29日(木) 佐藤館長、北海道博物館協会学芸職員総会・研修会出席（新ひだか町）～30日。
- 8月31日(土) 佐藤館長、浦幌小学校PTA「町内ふれあい旅行」講師として随行。
- 9月2日(月) 猟友会野口昌靖氏、鈴木由希氏、淡路大輔氏打ち合わせのため来館。
星愛子氏短歌教室打ち合わせのため来館。
- 9月4日(水) 佐藤館長、身体障がい者東部ブロック研修会講師。
- 9月6日(金) 商工会岩田彰氏、社会福祉協議会敦賀仁氏、資料提供のため来館。
- 9月9日(月) 「地域づくり教師・学校の役割研究会」北海道教育大学釧路校准教授宮前耕史氏、平岡俊一氏、野村卓氏、添田祥史氏、岐阜女子大学准教授安井智恵氏来館。
- 9月10日(火) 佐藤館長、円子紳一氏、自然史研究会と上厚内調査随行。
- 9月11日(水) 佐藤館長、東十勝ロングトレイル協議会出席。
歌声サロン（喫茶）開催。
- 9月12日(木) 釧路プー横丁鈴木千恵氏来館。
- 9月13日(金) 帯広図書館・博物館ふるさと再訪ツアー、団体見学。
上浦幌ひまわり保育園、団体見学。
浦幌小学校教諭笹川尚哉氏、帯広図書館水内知恵氏ほか3名来館。
- 9月17日(火) 十勝教育局次長宮岡孝博氏、義務教育指導監古川幸宏氏博物館視察。
飛田辰章氏、猟友会野口昌靖氏、酪農学園大学教授佐藤喜和さん来館。
- 9月18日(水) 佐藤館長、野生動物保全実習で講師として随行。～20日
酪農学園大学、足寄町保育園どんぐり、団体見学。
円子紳一氏、荒川和子氏、上浦幌公民館館長鈴木信男氏、猟友会鈴木由希氏、東京農工大学小林喬子氏来館。
- 9月19日(木) 博物館収蔵資料展「昭和の生活展」開催。（～10月10日）

- 酪農学園大学、団体見学。
- 9月20日(金) 佐藤館長、野生動物保全実習講師として随行。
帯広百年記念館学芸員持田誠氏、資料返却のため来館。
- 9月21日(土) 博物館ミニ移動講座（歴史編）「町内史跡見学会」
- 9月24日(火) 料理愛好家坂下禮子氏、ピザ教室打ち合わせのため来館。
- 9月28日(土) 博物館ミニ移動講座（渡り鳥編）「渡り鳥観察会」。
- 10月1日(火) 商工会須藤富康氏、小林瞬一氏新任挨拶のため来館。
浦幌町地域おこし協力隊畠山裕恵氏町史調べのため来館。
豊頃小学校教諭遠藤和彦氏、理科学習打ち合わせのため来館。
- 10月2日(水) 佐藤館長、干場博物館係三笠市立博物館へアンモナイト化石返却。
- 10月3日(木) 帯広建設管理部浦幌出張所所長松野高巳氏ほか1名、原生花園について打ち合わせのため来館。
- 10月4日(金) 佐藤館長、浦幌小学校6年生理科学習に講師として随行。
日本大学染谷慧人氏、ヒグマ調査のため来館。
- 10月5日(土) 日本大学染谷慧人氏、鈴木晋悟氏、山中岳史郎氏ヒグマ調査のため来館。
- 10月6日(日) 収蔵資料レコードコンサート開催。
- 10月7日(月) 佐藤館長、豊頃小学校6年生理科学習講師として随行。
- 10月8日(火) 佐藤館長、十勝管内商工会女性部移動部長研修講師。
アイヌ実践上級刺繍講座。講師：加藤シズエ氏。
十勝毎日新聞浦幌通信員円子紳一氏取材のため来館。
- 10月9日(水) アイヌ実践上級刺繍講座。
- 10月14日(月) 博物館ミニ移動講座（歴史編）「町内史跡見学会」
- 10月15日(火) アイヌ実践上級刺繍講座。
帯広建設管理部浦幌出張所所長松野高巳氏打ち合わせのため来館。
円子紳一氏、山下僚氏打ち合わせのため来館。
- 10月16日(水) 博物館小企画展「みのりの秋農具展示会」開催。（～11月17日）
アイヌ実践上級刺繍講座。
十勝総合振興局森林室和田幸三氏、広葉樹資源について打ち合わせのため来館。
- 10月17日(木) アイヌ実践上級刺繍講座。
日本大学武蔵友絵氏、田中博子氏ヒグマ調査のため来館。
- 10月18日(金) ㈱野田土建吉岡秋男氏、豊北海岸工事に関する打ち合わせのため来館。
酪農学園大学教授佐藤喜和氏、ヒグマ調査。明治大学教授水野勝之氏、佐藤奈々子氏、土居拓務氏「地域づくり」のため来館。
- 10月19日(土) 佐藤館長、東十勝ロントレ「留真紅葉ツアー」ガイドで同行。
東十勝ロントレ「留真紅葉ツアー」団体見学。
- 10月20日(日) 博物館ミニ移動講座（野生動物編）「ヒグマの生態を探る」。
開拓時代の食体験。
- 10月21日(月) 定例校長会。
丹青社博物館設備等打合せのため来館。
- 10月22日(火) 佐藤館長、南富良野町社会教育委員会町内視察に同行。
- 10月23日(水) 定例教頭会。定例教育委員会。
浦幌消防署新宮協氏、金山恵太氏火災予防チェックのため来館。
- 10月24日(木) 佐藤館長、道東3管内博物館施設等連絡協議会出席（弟子屈町）～25日
- 10月28日(月) 佐藤館長、博物館ボランティアの集い2013出席（札幌市）～29日

VIII. 博物館日誌（抄）

- 10月30日(水) 十勝毎日新聞浦幌通信員円子紳一氏、博物館スケジュール確認のため来館
大同印刷藤井陸香氏、年報校正確認のため来館。
- 11月1日(金) 佐藤館長、3・7寿クラブ研修視察に講師として随行。
帯広3・7寿クラブ研修視察、団体見学。
- 11月2日(土) 収蔵資料レコードコンサート開催。
- 11月4日(月) 博物館ミニ移動講座（渡り鳥編）「渡り鳥観察会」
- 11月5日(火) アイヌ実践上級刺繍講座。
- 11月6日(水) アイヌ実践上級刺繍講座。
北海道アイヌ協会浦幌支部長差間正樹氏来館。
- 11月7日(木) 佐藤館長、商工会主催「星空満天ツアー」ガイド。
C h a i 副編集長平田幸嗣氏取材のため来館。円子紳一氏来館。
- 11月8日(金) 浦幌町地域おこし協力隊畠山裕恵氏、町史調査のため来館。
- 11月9日(土) 帯広市児童会館主査坂東宏紀氏博物館改修について来館。
- 11月12日(火) うらほろスタイルゼミナール「デジタルカメラに挑戦！」
やまびこ緑寿会、団体見学。
- 11月13日(水) 上浦幌中央小学校5・6年生理科学習。
十勝総合振興局森林室寺島幸弘氏、和田幸三氏打ち合わせのため来館。
- 11月14日(木) 佐藤館長、図書館長会議出席（札幌市）。
- 11月15日(金) 佐藤館長、豊浦町幼小中一貫教育研究大会出席（豊浦町）
- 11月17日(日) 佐藤館長、獺友会「鳥獣魂祭」出席
- 11月18日(月) 北海道教育大学釧路校染田慧人氏、教育史調べのため来館。
- 11月19日(火) アイヌ実践上級刺繍講座。北海道アイヌ協会浦幌支部長差間正樹氏来館。
C h a i 副編集長平田幸嗣氏取材のため来館。
- 11月20日(水) アイヌ実践上級刺繍講座。
- 11月21日(木) 佐藤館長、浦幌中学校3年生町内研修、講師として随行。
- 11月22日(金) 宮川豊恵氏、図書館講座講師として来館。
- 11月23日(土) うらほろスタイルゼミナール「デジタルカメラ野外撮影会」
ロビーコンサート「子ども民謡会」
- 11月24日(日) 博物館講座「エゾリスBOX」
- 11月25日(月) アイヌ文化伝承教室「アイヌ伝統料理」
- 11月26日(火) 化石研究家井上清和氏打ち合わせのため来館。
- 11月27日(水) 帯広百年記念館学芸員山原敏朗氏土器調べのため来館。
- 11月28日(木) 教育文化センター避難訓練
十勝毎日新聞浦幌町通信員円子紳一取材のため来館。
- 11月30日(土) 帯広百年記念館持田誠氏、移動展準備のため来館。
円子紳一氏、酪農学園大学教授佐藤喜和氏、柴田悟氏、弓田慎氏来館。
- 12月1日(日) 百年記念館運営連絡協議会移動展「十勝の鉄道史写真展」開催。～26日
鉄道展関連移動講座「十勝浦幌鉄道物語」講師：持田誠さん。
- 12月3日(火) アイヌ実践上級刺繍講座。
大同印刷藤井陸香氏年報納品のため来館。
- 12月4日(水) アイヌ実践上級刺繍講座。
十勝教育局長山端一史氏、十勝毎日新聞池田支局平野明氏来館。
- 12月7日(土) 収蔵資料レコードコンサート開催。
- 12月10日(火) アイヌ実践上級刺繍講座。

- 12月11日(水) アイヌ実践上級刺繍講座。
釧路市博物館学芸員石川孝織氏、学芸員加藤ゆき恵氏、加藤春雄氏、浦幌炭礦調査のため来館。
- 12月13日(金) 北海道管区行政評価局釧路行政評価分室分室長竹内優礼氏、評価監視調査官羽田葵氏、行政相談員井下まきの氏来館。
- 12月15日(日) 鉄道展関連講座「ミニ汽車旅」。
- 12月18日(水) 佐藤館長、東十勝ロングトレイル協議会出席。
- 12月19日(木) 歌声サロン（喫茶）＆ニコルのバイオリンコンサート開催。
- 12月20日(金) 北海道教育大学釧路校安藤恵氏、卒業論文取材のため来館。
- 12月22日(日) 鉄道展関連講座「ミニ汽車旅」。
- 12月24日(火) フォトサークル21大西齊氏、写真展用作品を持参し来館。
十勝うらほろ高橋農園高橋徹氏、うらほろスタイルゼミナール打ち合わせのため来館。
- 12月27日(金) 帯広百年記念館学芸員持田誠氏移動展撤収のため来館。
フォトサークル21春日基江氏写真展準備のため来館。
- 12月28日(土) フォトサークル21「15周年写真展」開催。～1月22日
- 12月30日(月) 町仕事納め式。教育委員会仕事納め式。

平成26年

- 1月6日(月) 仕事始め。
町地域おこし協力隊畠山裕恵氏、町史調べのため来館。
- 1月7日(火) 町地域おこし協力隊畠山裕恵氏、泉のどか氏町史調べのため来館。
- 1月8日(水) 町地域おこし協力隊畠山裕恵氏、泉のどか氏町史調べのため来館。
上浦幌公民館館長鈴木信男氏、大同印刷福松登志雄氏、藤井陸香氏来館。
- 1月9日(木) 町地域おこし協力隊畠山裕恵氏、泉のどか氏町史調べのため来館。
- 1月10日(金) 博物館講座「化石レプリカづくり」。講師：足寄動物化石博物館館長澤村寛氏。
町地域おこし協力隊畠山裕恵氏、泉のどか氏町史調べのため来館。
ノースプロダクション近江正隆氏、猟友会鈴木由由氏来館。
- 1月11日(土) 収蔵資料レコードコンサート開催。
鉄道展関連講座「ミニ汽車旅」
- 1月15日(水) 佐藤館長、東十勝ロングトレイル協議会出席。
- 1月20日(月) 佐藤館長、福祉有償運送運営協議会出席。
写真家山下僚氏、写真展打合せのため来館。
- 1月22日(水) フォトサークル21大西齊氏写真展撤収のため来館。
孔版画サークル清水弘美氏賀状展準備のため来館。
- 1月23日(木) 2014全国孔版画賀状展開催。～2月4日
十勝毎日新聞浦幌通信員円子紳一氏取材のため来館。
- 1月24日(金) 佐藤館長、子どもの読書活動ネットワークフォーラムに出席（札幌市）～25日
- 2月1日(土) 博物館ミニ移動講座「厳寒体験教室」。
- 2月5日(水) 佐藤館長、教育の日推進協議会出席。
- 2月6日(木) うらほろスタイルゼミナール「語り部木曜塾」。語り部：高橋悦子氏
十勝毎日新聞浦幌通信員円子紳一氏取材のため来館。
- 2月7日(金) 佐藤館長、ボランティア松原賀子氏、佐藤慶子氏、浦幌小学校3年生社会学習「おばあちゃんの知恵袋」講師。
- 2月8日(土) 収蔵資料レコードコンサート開催。

VIII. 博物館日誌（抄）

- 2月12日(水) 佐藤館長、東十勝ロングトレイル協議会出席。
佐藤館長、商工会主催フォトコンテスト2013表彰式出席。
- 2月13日(木) うらほろスタイルゼミナール「語り部木曜塾」。語り部：高橋悦子氏。
ノースプロダクション柳楽悦子氏企画相談のため来館。
十勝毎日新聞池田支局平野明氏来館。
- 2月14日(金) さっぽろ物理塾北村剛氏、講座打合せのため来館。
- 2月19日(水) 文部科学省初等中等教育局学校運営支援企画官出口寿久氏来館。
- 2月20日(木) うらほろスタイルゼミナール「語り部木曜塾」。語り部：高橋悦子氏。
- 2月21日(金) 定例校長会。
円子紳一氏、北海道アイヌ協会浦幌支部長差間正樹氏、差間昭子氏来館。
- 2月23日(日) 博物館小企画展「桃の節句 ひな人形展」開催。～3月3日
- 2月24日(月) 定例教頭会。
- 2月25日(火) 浦幌町ビーンズクラブ佐藤とも子氏料理冊子持参し来館。
- 2月27日(木) うらほろスタイルゼミナール「語り部木曜塾」。語り部：高橋悦子氏
- 3月1日(土) 収蔵資料レコードコンサート開催。
- 3月2日(日) ひな人形撮影会
- 3月3日(月) ひな人形撮影会
- 3月4日(火) うらほろスタイルゼミナール「ミュージック・ケア」。
- 3月5日(水) 昭和27年十勝沖大震災写真展開催。～5月30日
- 3月6日(木) 十勝総合振興局森林室 広葉樹活用対策会議出席。
- 3月11日(火) (社)北海道アイヌ協会浦幌支部「アイヌ文様刺繍展示会」開催。～3月30日
うらほろスタイルゼミナール「夢見てこの地に来てみれば…」。
佐藤館長、小中一貫コーディネート会議出席。
- 3月12日(水) 佐藤館長、東十勝ロントレ推進協議会出席。丹青社杉山一樹氏来館。
- 3月19日(水) 佐藤館長、博物館・図書館協議会出席。
- 3月25日(火) 北海道アイヌ協会浦幌支部長差間正樹氏、阿寒鶴雅グループ松江哲志氏来館。
- 3月27日(木) 佐藤明子氏越前踊り調査のため来館。
- 3月28日(金) 大村博氏イタヤカエデ樹液持参。
- 3月31日(月) 昭和27年十勝沖大震災写真展開催中。
差間正樹氏、差間昭子氏、長谷川美津子氏、桃井美千子氏、山岸律子氏アイヌ刺繍展示会撤収作業のため来館。
円子紳一氏、飛田辰大氏、出口和枝氏、三上葉月氏来館。

IX. 博物館の利用状況

(1) 博物館入館者の推移

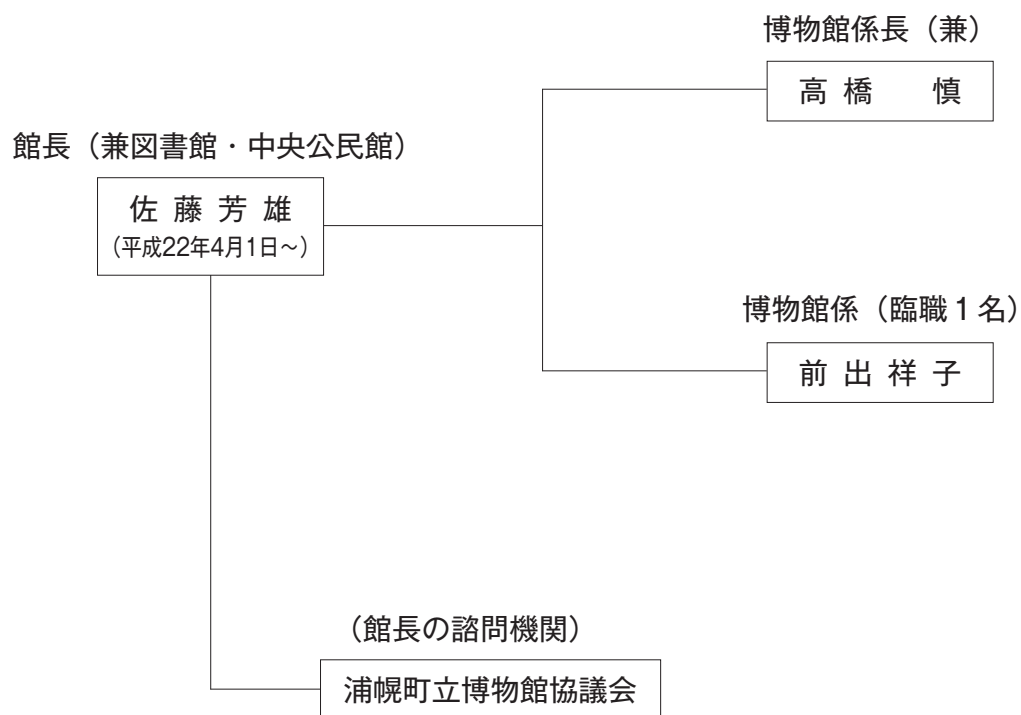
(平成26年 3月31日現在)

	平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
月	開館日数	入館者数	開館日数	入館者数	開館日数	入館者数	開館日数	入館者数	開館日数	入館者数	開館日数	入館者数
4	25	725	25	573	25	582	26	664	26	611	25	779
5	25	602	25	647	25	545	26	997	27	969	27	853
6	25	843	25	739	26	654	26	753	26	812	26	847
7	27	817	27	616	27	862	27	1,185	26	1,322	27	1,162
8	27	1,022	26	1,058	26	1,111	26	1,077	27	984	28	1,516
9	24	588	24	707	25	848	25	866	26	769	25	1,027
10	27	589	27	967	27	729	26	784	26	1,028	27	1,040
11	25	764	24	599	23	859	26	830	26	780	26	982
12	24	652	25	613	25	482	26	793	26	376	25	558
1	23	497	23	558	22	501	22	680	22	451	20	443
2	23	300	23	423	24	472	25	527	24	596	23	571
3	25	752	25	490	27	826	26	856	27	950	26	625
小計	300	8,151	299	7,990	302	8,471	307	10,012	309	9,648	305	10,403
累計	2,777	87,903	3,076	95,893	3,378	104,364	3,685	114,376	3,994	124,024	4,299	134,427

(2) 団体入館者（事前に連絡のあったもの）

5月 2日 浦幌幼稚園	30名	9月 13日 上浦幌ひまわり保育園	23名
5月 25日 第17回 全道フットパスの集いin東十勝	37名	9月 13日 帯広市図書館「ふるさと再訪」	30名
6月 13日 北海道教育大学釧路校 巡検	33名	9月 17日 義務教育指導監他	2名
6月 29日 東十勝ロングトレイル「海ルート」	33名	9月 18日 酪農大学環境システム科	21名
6月 29日 浦幌高校同窓会	22名	9月 18日 足寄町保育園どんぐり	45名
7月 13日 帯広商工会議所「十勝再発見バスツアー」	40名	10月 8日 十勝管内商工会女性部移動部長研修	18名
7月 16日 浦幌幼稚園	10名	10月 19日 東十勝ロングトレイル「留真紅葉ツアー」	38名
7月 20日 上浦幌PTA連合会「町内移動研修PART 2」	25名	10月 22日 中富良野町教委学社融合推進会議研修視察	11名
7月 30日 バタフライ・ウォッチング協会	5名	11月 1日 帯広市3・7寿クラブ	25名
8月 5日 本別郷土史研究会「戦跡を訪ねて」	23名	11月 12日 やまびこ緑寿会	16名
8月 31日 浦幌小学校PTAふれあい研修	38名	2月 7日 浦幌小学校3年生総合学習	31名
9月 4日 身体障がい者東部ブロック研修会	76名		
9月 9日 北海道教育大学釧路校 「地域づくりと教師・学校の役割研究会」	6名		

X. 博物館の組織



平成26年4月25日現在

職 名	氏 名	住 所	備 考
会 長	橋 本 友 子	栄 町 2 区	
副会長	円 子 紳 一	北栄町2区	
委 員	平 岡 弘 孝	住吉町1区	
〃	水 野 豊 昭	緑 町	
〃	坂 下 禮 子	光 南	
〃	春 日 基 江	北 町 2 区	
〃	西 森 七 枝	新 町	
〃	大 塚 弥 生	美 園	

（任期 平成27年12月18日まで）

XI. 博物館活動のマスコミ報道

浦 幌

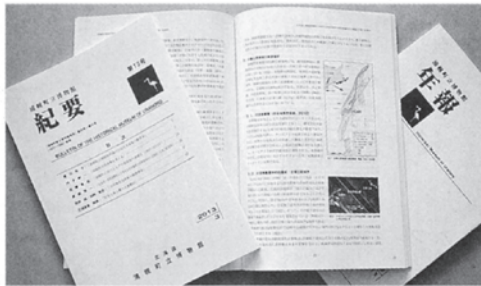
K/T境界層に入門書

三笠の研究者 内外の論文を集約

【浦幌】町茂川流布の山林で露出している巨大隕石（いんせき）衝突の証拠「K/T境界層」（または「P/S境界層」）について、内外の研究者がこれまで個々に発表した論文などを集約した寄稿が、町立博物館（佐藤芳雄館長）発行の研究紀要13号に掲載された。一般住民が学ぶ際の基礎知識として、教科書的にまとめられており、執筆した三笠市立博物館主任研究員・学芸員の栗原憲一さん（理学博士）は「博物館講座の資料などを作成する一助に」と話している。

町立博物館紀要に掲載

栗原さんは昨年8月に同発掘し、研究を進めている。境界層直下で、絶滅寸前の時代のアンモナイト化石に当たり、アンモナイトに関する寄稿を町立博物館から依頼された栗原さんが「私の論文を掲載するより、町民との橋渡しとなる資料をとまとめた。同館には現在、同境界層のはき取った地層や簡単な解説が展示されているが、一般の人たちが理解しやすいように、最後にアンモナイトにも触れ、」浦幌の同境界層



栗原研究員の寄稿が掲載された町立博物館紀要

の、恐竜やアンモナイトの絶滅など生物相が大きく変わったとされる。カタン半島付近に直径約10kmの巨大隕石が衝突し、巻き上げられた粉塵（じん）が世界中に堆積したものと見られる。



「私」の論文を掲載するより、町民との橋渡しとなる資料をとまとめた。同館には現在、同境界層のはき取った地層や簡単な解説が展示されているが、一般の人たちが理解しやすいように、最後にアンモナイトにも触れ、」浦幌の同境界層

（大笹健郎）

「十勝毎日新聞」 2013年4月4日

浦幌で6日 渡り鳥観察

【浦幌】町立博物館のミニ移動講座「渡り鳥観察会」は、3月31日発行。A4版、68頁で、町立博物館で無料配布している。数が限られるが複写も可能。紀要にはこの他、▽2012年度採集の蝶標本（荒川和子氏）▽浦幌町の外来種を考える（田子紳一氏）▽ヒゲマ駆除数の推移II（佐藤喜和氏）▽吉田康登氏採集の植物標本（持田誠氏、加納寛之氏）▽書類解説（三浦直春氏）の5項が掲載されている。同館の年報も同時に発行された。

午前9時から同館（町桜町、教育文化センター）集合で行われる。参加無料。帽子、長靴、防寒着など野外に適した服装で。荒天時は中止。小学生以下は保護者同伴で。申し込みは同館（015・576・2009）へ。

「十勝毎日新聞」 2013年4月4日

浦幌博物館
観察会
ハクガンなど確認



たくさんのガンの仲間が飛び交う中、白と黒の美しい翼を広げて飛ぶハクガン

る。今年は積雪が多かったため、湖沼の水面が開かず、地元の愛好家によると、飛来が若干遅れ気味という。白い羽毛で翼の先端が黒いハクガンは、一時期は国内でほとんど観察できなくなっていたが、国際協力により北極圏で保護活動を行ったのが奏功し、近年は増加傾向。

日本野鳥の会十勝支部に

熱心に野鳥を観察する
参加者



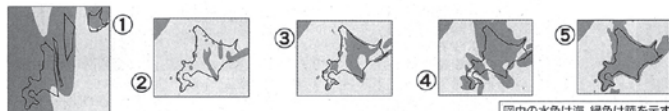
よると、浦幌では1991年に1羽が飛来、2000年代に入って徐々に増え、今季は秋の南下の際には91羽、現在は88羽が確認されている。この日は畑から一斉に飛び立ち、編隊の形を変えながら群れ飛ぶ姿が見られた。

観察会ではその他、マガモ、ヒシクイ、タンチョウ、オジロワシの4種類の天然記念物や、オオハクチョウ、シジュウカラガン、ノスリなど25種類の野鳥を観察。アオサギのコロニーも確認でき、参加者は「素晴らしい環境」「きょうは幸運だった」と喜んでいった。

（大笹健郎）

「十勝毎日新聞」 2013年4月8日

十勝は化石王国



図中の水色は海、緑色は陸を示す

北海道や十勝の形成過程

(1)約2500万年前(漸新世)＝日本海はまだなく、現在の北海道というまとまりはなかった。今の道東の一部を形成するまとまりはオホーツク海周辺にあり、北海道中央部はアジア大陸の一部だった。海にはアショロアやベヘモトプス、アショロカズヒやゲクジラ(いずれも足寄から発掘)が住んでいた。

地質体ができたが、まだ小さな島の集まりだった。日高山脈が上昇を始め、山が削られた土砂が現在の十勝南部に堆積。海にはデスモチルスやヒゲクジラがいた。

(3) 約500万年前（鮮新世）＝北海道の形がおおまかにでき、十勝一帯は「古十勝湾」と呼ばれる海だった。ヒゲクジラやマッコウクジラ、タキカワカイギュウがいた。

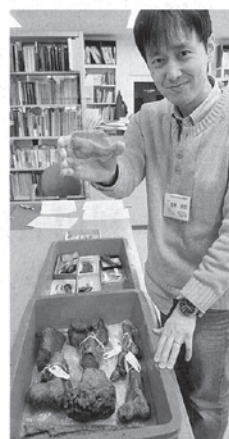
④約150万年前（前期更新世）＝古
 勝浦は縮小し、その後、渥原になった。

十勝北部では火山活動が活発化。古十勝
湾にはアザラシなどの鯨脚（きぎゃく）
類やヒゲクジラがいた。この後、日高山

（⑤約10万年前（後期更新世）＝氷河時代、氷期には海面の低下で北海道が広くなり、北方で大陸と地続きになった。本州とは津軽海峡で分断された。十勝にはナウマン象（12万年前の間氷期）やマンモス（4万年前の氷期）がすみ、2万5000年前には人類も住んでいたという。

※図は足寄動物化石博物館提供

相次ぐ出土品 集客の起爆剤に



十勝は化石や出土品の宝庫。足寄では「アショロア」など束柱類の化石（手前）が見つかった（足寄動物化石博物館、安藤達郎学芸員）

の他、古物の生産や人の生活様式に関する資料が相次ぎ、化石・出土品の研究と目玉を集めている。多様な発見は、かつて海の下だった地域の地形過程から見た出来事を窺うのことに関係しており、各博物館は、鑑賞客の「爆利」としてこれらを主に取り組むものも出てきている。地域を魅了した活用も数多くあり、観光面でもたびたび期待されている。

（朝池宗和）

○が新に起と成見宝に石

かちまいサンデー

[illegible]

最古の煮炊き

時で二〇〇三年に満了された約一万年四〇〇年前遺文土器片が、今月その焦げかすから陶物の煮窯に使った薪石として異様に堅く日乾の研究チームによって発見された。また、足寄町で一九七一年に後田マモル氏が九七年に佐賀県スデルズの集落と分かれたアシロコという村の中で生活して来た可能性の大きいと発表もあり、謎が多い史林類生活形態に石を投じた。

パリイでも発見された。これは十数ヶ所発見があるが、これと北道形成の過程や縄文と深い関わりがあると見られる。もう一つは、代々の愛媛大学の地性を生み、現代の研究者市民になり、あるいは郷土市の偶然の発見により、私たちの世にのみなっているわけだ。

化石などの発見は、その保存・展示を自治体で保管する主とする。毛利

11施設を集中

だとの声は少なくない。例えば、青森市で1992年に本格的な調査が始まった三内丸山遺跡（国の特別史跡）では、大規模集落跡を生かし、周辺にミュージアムや体験工房、図書館など施設を集中させ、年間30万人台を集客する。

[illegible]

出て、施設ができた。人の湧
れができた。ボランティア
が無料でカイドするまで運
営を支えていた。学校関係
者にも呼び掛け、とにかく
遺跡を見せろと。3年前から
シアムに県の重要文化財
を集中させている。

地蔵おこしにもつながる
化学と遺跡からの出土品
新たな「宝」が掘り起さ
れ、それが交流人口を押し
上げる。そんな可能性が
十勝にはまだ眠っている。



親子をテーマにした絵本が並ぶ「こどもとはのえほん展」(図書館)

博物館に五月人形 5日には撮影会も 図書館は絵本展

【浦幌】町立図書館、博物館(町桜町、教育文化センターらぼろ21)では、5月5日のこどもの日と、同日の母の日にちなんだ特別企画を展開、「ゴールデンウィークは博物館や図書

館でゆつくり過ごして」と呼び掛けている。

図書館では12日まで、「こどもとはのえほん展」と

「将来のしごと展」を開催。「龍になったこいのぼり」「おかあさんだもの」「ママだいすき」などの本を約50冊展示し、親が子に読み聞かせる姿が見られる。「将来のしごと展」では、商業、製

造業、スポーツ、警察・消防など13分野の仕事に関わる絵本や入門書、伝記など203冊を展示している。

博物館は5日まで、1階ロビーで町民から寄付された本物のよろい・かぶとや五月人形を展示。最終日の午後1時〜同5時には、五月人形と来場者を一緒に写真撮影し参加者に写真をプレゼントする。問い合わせは同博物館(015・576・2009)へ。(大笹健郎)

「十勝毎日新聞」 2013年4月30日

かれんな 白い姿に魅了

町立博物館
イチゲ観察会

【浦幌】町立博物館(佐藤芳雄館長)のミニ移動講座「ウラボロイチゲ群落観察会」が4月27日、町内で開かれた。町内外から約20人が参加し、浦幌など国内では限られた場所で見られる小さい白い花を観察した。

「ウラボロイチゲ」はキンポウゲ科の植物。アネモネの仲間、大きさは1センチに満たないかれんな姿が特徴だ。

この日は帯広百年記念館の持田誠学芸調査員も特別参加。「白い花びらに見えるのは『がく』。水分が多く、しばらくすると雪が解けるようになってしま

う」と説明すると、参加者は感心した様子で盛んに写真に収めていた。

(大笹健郎)



ウラボロイチゲの花を撮影する参加者

「十勝毎日新聞」 2013年5月1日

浦幌、豊頃

25、26日に全道フットパス

自然を体感 気軽に参加を

【浦幌】東十勝の自然や産業遺産を徒歩で巡る「第17回全道フットパスの集い in 東十勝」（全道フットパス・ネットワーク主催）は、地元からの参加者を募集している。実行委の伊豆倉寿信フットパス部長にコースの魅力と開催意義を聞いた。（大笹健郎）

実行委・伊豆倉部長に聞く



伊豆倉寿信部長

「今回のコースとなる東十勝ロングトレイルルートの魅力は、

人のいない、非日常の中で自然と産業遺産を肌で感じ、地元の旬なおいしいものを楽しむことができる。特に、「浦幌炭礦」跡地周辺が見どころ。元住民の協

力で37枚の写真パネルが現地に設置されており、3600人もの人が暮らしていた炭鉱街の姿を現在と見比べることができる。そこから留真温泉まで林道を約8キロ歩く。ゴールでの温泉入浴は最高だと思う。

「用意している地元の旬の味は、

25日夜の交流会ではホッキや灯台ツブの刺し身、雪室ジャガイモのラクレット、シカ肉料理、トキシラズなど。また、昼間歩いて

いる途中に「臨時パブ」も設置する。

「東十勝での開催意義は、

全道からたくさんの愛好家が集まり、人的交流ができること。帯広・十勝からぜひ参加してほしい。交流会に参加できない人にも帯広に帰るバスは用意するし、コース途中には仮設ト

「全道フットパスの集い in 東十勝」

▽25日午前9時半に浦幌町役場駐車場に集合。A

(K/T境界層と山菜ルート)、B(旧浦幌炭礦散策

ルート)、C(旧浦幌炭礦・留真温泉ルート)から選

択。終了後に浦幌で交流会

(参加費4000円)。

▽26日午前7時半に豊頃町の十勝ロイヤルホテルに集合、A(豊頃スイー

イレもある。気軽に参加し、地元のみならず知られていない魅力を発見してほしい。

と礼文内ルート)、B(昆布刈石海岸ルート)、C(豊北原生花園・十勝太

ト)から選択。

▽参加費11000円(両日とも、交流会は別

▽問い合わせ、申し込み

豊頃町商工会(電話01

5・574・2206、ファ

クス015・574・3776、Eメール toyosy

ou@rose.ocn.ne.jp)へ。

締め切りは9日。

「十勝毎日新聞」 2013年5月5日

あす博物館講座 春の野鳥観察会

【浦幌】町立博物館ミニ講座(野鳥編パート2)「春の野鳥観察会 青い鳥を探そう」が11日午前7時から、うらほろ森林公園のり館前集合で行われる。この時期に渡ってくる青い鳥「オオルリ」などを探す。問い合わせは同博物館(015・576・2009)へ。

「十勝毎日新聞」 2013年5月10日

オオルリなどの野鳥を観察する参加者



「青い鳥」発見！
観察会楽しむ

町立博物館
ミニ講座

【浦幌】町立博物館のミニ講座「野鳥編パート2」「春の野鳥観察会 青い鳥を探そう」が11日、うらほろ森林公園で開かれた。目的の「青い鳥」オオルリをはじめ、キセキレイ、アカハラなど色鮮やかな野鳥を観察し、参加者は大喜びだった。

オオルリが飛来する5月に毎年開いており、この日は町民11人が参加した。同館の佐藤芳雄館長や地元の野鳥愛好家の案内で公園内や遊歩道周辺を散策し、ハ

クセキレイ、セシヤムシ、カルガモ、ハタカなど13種類の野鳥を目標。ツツドリ、キシバト、ウグイスの声も確認できた。佐藤館長は「青、黄、赤が鮮やかな3色の野鳥を楽しむことができてよかった。森林公園は、市街地に近いのに環境に恵まれているのがいいところ」と話していた。（大笹健郎）

「十勝毎日新聞」 2013年5月14日

K/T層：歩いて満喫

豊頃 浦幌 全道フットパスの集い



【豊頃・浦幌】第17回全道フットパス・ネ道フットパスの集いinn東一ツトワーク主催、実行委、

十勝ふるさと市町村圏東プロック実行委共催）が25、26の両日、浦幌、豊頃両町の東十勝ロングトレイルを活用して開かれた。全道各地から集まった約150人が東十勝の自然や産物、文化を満喫した。25日夜の交流会では、うらほろ和牛や旬の魚介類など地場産品の料理が12品出され、参加者を喜ばせた。札幌から参加した小川麻フットパスネットワーク北海道事務局局長は「非常に楽しめるコースだった。フットパスの文化が広がり、札幌からこの東十勝までつながってほしい」と話した。26日は海岸部や豊頃町内のスイーツ巡りなどを楽しんだ。（大笹健郎）

「十勝毎日新聞」 2013年5月27日

【浦幌】町立博物館・図書館（町桜町、教育文化センターらぼろ21内）は6月16日午後2時から、ロビーコンサートとして浦幌・帯広の若手アマチュアミュージシャンによる「浦音アコースティックライブ」を開催する。浦幌の音楽を盛り上げようと初めて企画された。出演者は「音楽が好きな人はぜひ集まって」と来場を呼び掛けている。

町博物館・図書館 来月16日に「浦音ライブ」



「Doppy Queen」の2人

「浦音ライブ」に出演する廣川さん（右）と部田さん
「浦音ライブ」に出演する廣川さん（右）と部田さん
「浦音ライブ」に出演する廣川さん（右）と部田さん

町出身の廣川さんら若手アマ出演

出演するのは、上浦幌出身の廣川冠太さん（21）と、浦幌出身の部田卓弥さん（20）。部田さんは、浦幌在住で、音楽仲間との交流で、浦幌の音楽を盛り上げようと初めて企画された。出演者は「音楽が好きな人はぜひ集まって」と来場を呼び掛けている。

音楽で浦幌盛り上げ

郷土への思いを込めた曲「いつか」で知られるが、今回はさらに浦幌にちなんだ歌を準備中だ。

「十勝毎日新聞」 2013年5月29日

【浦幌】「うらほろスタイル・ゼミナール」若者の雇用を生み出す「うらほろスタイル」の新たな挑戦（中央公民館・町立博物館主催）の講演会が6月16日午後7時から、中央公民館で開かれる。7月26日午後7時から同所でワークショップが開かれる。子供を核にした同スタイルのまちづくりの将来について町民全体で考える試みで、参加者を募集している。

若者の雇用考えよう

域への愛着を育み、「浦幌に住みたい」という子供たちが増えている。それに応えるために地元雇用を生み出すための課題に立ちあがっている。

6日の講演会の講師は、うらほろスタイル推進地域協議会の近江正隆氏、社団法人食品供給センター主任研究員の長谷川潤一氏を予定している。定員30人。参加申し込みは中央公民館（015・576・2127）、博物館（015・576・2009）へ。（大笹健郎）

「十勝毎日新聞」 2013年6月1日

自然の美しさ活写

浦幌 山下さんが写真展

【浦幌】日本写真家協会「美園フォトCAPA室」を
持つ山下僚さん(64)帯
会場で、町美園に写真工房



美しい風景の写真と山下
さん

廣市在住の写真展「野のかぜ 時いろ」が5月30日、町教育文化センターらぼろ21で始まった。12日まで。

十勝を中心とした道内の自然を造形的に捉えた20点を展示。浦幌の風景では、森の中の水たまりに浮かんだ色とりどりの落ち葉と、水面に反射した空の青色が錦絵のように写し出された「森の湖」(浦幌町富川)、森の枝の隙間から光が差し、朝露にぬれたクモの巣

を照らし出している「カラマツ林」の2点が展示されている。その他、自然の中の一瞬の美しさや色彩を写し、絵画と見まがうような作品も多い。

同写真展は帯広での2会場に続き、拠点のある浦幌での開催。山下さんは「浦幌には海、畑、野鳥など素材がそろい、良いロケーションが多い。こんな素晴らしい場所はない。これから写真をはじめ人もどんどん浦幌に来て、挑戦を」と呼び掛けている。午前10時〜午後5時。(大笹健郎)

「十勝毎日新聞」 2013年6月1日

やまびこ

「ライブで故郷を盛り上げたい」。16日の町立図書館・博物館ロビーコンサート「浦音」コースティックライブ(午後2時開演、入場無料)。帯広のライブハウスなどで活動する若者たちの登場は、同コンサートでは初の試みだ。女性デュオ「Doppy Queen」の浦幌初ステージなど見所は多い。

現在、浦幌中心部の音楽シーンは合唱、吹奏楽、音楽教室、伝統芸能団体などが人口減と闘いながら奮闘中だが、ロックや弾き語りライブは場所も機会も限られる。今回出演する廣川冠太さん(帯広)、部田卓弥さん(浦幌)も上浦幌地区の出身で、中心部ではライブ経験がない。2010年3月に浦幌高校が閉

「浦音」ライブ復興のきっかけに

校し、高校生の姿が消えると、寂しさが顕著になった。同校では軽音楽が盛んで、08年度の3年生らでつくるロックバンド「颯翳(けんしょう)炎」は帯広でも活躍し、学校祭でのライブは名物だった。同バンドのリーダー長谷部裕之さん(豊頃)によると、メンバーは散り散りで今回は出演できないという。しかし、在京メンバーの帰郷に合わせ、7月13日にライブハウス「帯広REST」で一夜限りのライブをするという。「カッコいいものじゃないけど、楽しくやります」。ロックの灯はまだ消えていない。

同じ浦幌に根差した近い世代ながら、廣川さんと長谷部さんらは交流がなかった。今回の「浦音」ではかなわなかったが、いつか地元のステージでの「対バン」(競演)が実現し、まちを盛り上げてくれるのを期待したい。(大笹健郎)

「十勝毎日新聞」 2013年6月15日

国内最新 化石を初公開

浦幌 町内発掘、筒状アンモナイト

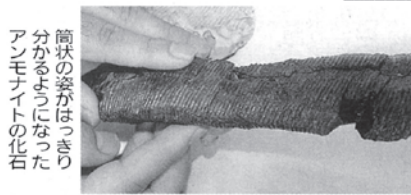
来月から特別展開催

【浦幌・三笠】昨年8月9日に浦幌町茂川流布のK/T境界層出土地点付近で発掘されたアンモナイト化石が、7月1日から浦幌町立博物館（町桜町、教育文化センター4階）で公開される。アンモナイト特別展として初公開される。現在、三笠市立博物館で調査作業が進められており、掃除機などのホースをT字型にしたような独特な姿を現している。種類はアンモナイトが絶滅するまで生息していたとされる「フィロモセラス・シリンドリカム」と特定され、国内で最も新しい時代のアンモナイトとして改めて注目を集めている。

同化石は、アンモナイトの殻の断面が丸いのがよく分かる。一般に渦巻きのアンモナイトと比べるとより分がやすい。公開までにはほぼ全体的に組み上がり、欠けているところは専用のゴム埋め、形を整える。栗原氏は「絶滅寸前で、日本で一番新しいアンモナイトが浦幌にあることは町民が全国に誇れること。ぜひ見てその時代の地球に思いをはせて」と話している。



復元が進み7月1日に初公開される浦幌町のアンモナイト（三笠市立博物館）



筒状の姿がはっきり分かるようになったアンモナイトの化石

「十勝毎日新聞」 2013年6月15日

浦幌での特別展には、他に、三笠市立博物館から借り受けるアンモナイト数千点、また浦幌町立博物館が千歳化石会（服部義幸会長）や、同会主催だった故千代川謙一さんから寄贈されたアンモナイト化石などを展示する予定で準備が進んでいる。（大笹健郎）

「K/T境界層（またはK/Pg境界層）」白亜紀と古第三期の境界となる地層。国内唯一、浦幌で露出が見られている。約6600万年前、メキシコのユカタン半島付近に直径約10kmの巨大隕石が衝突し、巻き上げられた粉塵（ふんじん）が世界中に堆積した。恐竜やアンモナイトの絶滅など生物相が大きく変わったとされる。

地域で若者の雇用を

うらほろスタイル 新たに創出事業

【浦幌】子供を後にしたまうくり「うらほろスタイル」の第4の取り組みとなる「若者のしごと創出事業」が開始した。6日、若者の雇用をテーマに、町民約50人が参加した。近江会長はこの中で、職場の現状と第4の事業の構想を説明。「時間はかかるかもしれないが、皆で役割分担し、雇用創出の結果を残していこう」と述べた。

「若者のしごと創出事業」について説明する近江会長（右）。左は長谷川主任研究員



講座開き検討会も

6日のセミナー（同公）雇用創出について①既存の事業所が10年に1人雇用できるような事業案を募集する。②新たな仕事を生み出す。③若者の雇用をテーマに、町民約50人が参加した。近江会長はこの中で、職場の現状と第4の事業の構想を説明。「時間はかかるかもしれないが、皆で役割分担し、雇用創出の結果を残していこう」と述べた。

また、雇用創出のプラン作成を同協議会から委託されているシンクタンク・社団法人食品供給センターの長谷川潤一主任研究員が、同スタイルの魅力と今後の展開について講演。

（大笹健郎）

「十勝毎日新聞」 2013年6月8日

「浦幌の歌」初披露 若手3組がコンサート

【浦幌】町立博物館・図書館（佐藤芳雄館長）のロビーコンサート「浦音アコースティックライブ」が16日、両施設兼用のロビーで開かれ、帯広を中心に活躍する若手アマチュアミュージシャン3組が出演した。このうち上浦幌地区出身の廣川冠太さん（21）は故郷の素晴らしさを表現したオリジナル曲「浦幌の歌」を初披露、会場の音楽ファン約70人を魅了した。



廣川さんが新曲「浦幌の歌」を披露した浦音アコースティックライブ

【浦幌】町立博物館・図書館（佐藤芳雄館長）のロビーコンサート「浦音アコースティックライブ」が16日、両施設兼用のロビーで開かれ、帯広を中心に活躍する若手アマチュアミュージシャン3組が出演した。このうち上浦幌地区出身の廣川冠太さん（21）は故郷の素晴らしさを表現したオリジナル曲「浦幌の歌」を初披露、会場の音楽ファン約70人を魅了した。

赤池優臣さん（22）は帯広で登場。部田さんは箱形の打楽器力ホンを演奏、赤池さんが情熱的に歌い上げた。続いて帯広の姉妹デュオ「Doppy Queue」が美しいハーモニーを披露した。

最後に登場した廣川さんは今回のライブに合わせ「浦幌の歌」を作詞作曲。歌詞には「みのりまき（餅まき）に夢中」「留真温泉」「スパカッ」などの地元の「ツボ」を盛り込み、「浦幌 僕らの町 やさしい町 たくさんのすてきな発信の地」と軽快なメロディーで歌い、会場から

「十勝毎日新聞」 2013年6月18日

は手拍子と歓声が沸いた。客席にいたうらほろサロンコーラス（井下まきの会長）

のメンバーからは「ぜひ譜面を作って、私たちにも歌わせてほしい」という声も。だった。（大笹健郎）

海岸の草花探そう あす移動ミニ講座

町立博物館

【浦幌】町立博物館ミニ移動講座・植物編「新緑の豊北海岸へ初夏の草花を探しに行きませんか！」が22日午前9時から、同博物館（町桜町、教育文化センターらぼろ21）で開かれる。豊北海岸の原生花園で植物観察などを行う。定員は10人。小学生以下は保護者同伴で。野外に適した服装で参加を。参加無料。問い合わせ、申し込みは同博物館（015・576・2009）へ。

「十勝毎日新聞」 2013年6月21日

あすミニ移動講座 町立博物館

【浦幌】初夏の野鳥観察を楽しむ町立博物館のミニ移動講座が6日、町豊北で行われる。小鳥のさえずりがあふれる草原と、巣立ちを迎えたアオサギ営巣地などを訪れる。午前9時に同博物館に集合する。定員10人。参加無料。申し込みは同博物館（015・576・2009）へ。

「十勝毎日新聞」 2013年7月5日

浦幌のルーツ楽しみ

富山訪問児童が研修

【浦幌】100年以上前に町内に伝わった「開拓獅子舞」のルーツとされる富山県氷見市などを児童が訪れる、町少年道外交流事業（8月1日から3泊4日）の結団式と事前研修会が9日、町中央公民館で開かれた。

同事業は1999年の開町100年を前に、開拓者の歴史を学ぶ旅として95年に始まり、これまでに336人が参加した。

18回目の今年は、浦幌小学校の中村吉昭校長を団長に、開拓獅子舞保存会会員でもある佐藤芳雄町立博物館館長らが引率。児童は6年生で、上浦幌中央小から4人、浦幌小から12人が参加する。氷見市他、世界遺産に登録されている岐阜県白川郷でも宿泊する。

結団式では久門好行教育長が「浦幌の開拓者がどんなまちに住んでいたか、見たり触れたりして」とあいさつ。佐藤館長が富山からの開拓団の入植と獅子舞



氷見市での交流を前に、結団式に臨んだ児童ら。前列右から4人目が団長の中村校長。

「十勝毎日新聞」 2013年7月12日

について説明した。リーダーの大塚理史さん（上浦幌中央小）は「友達をたくさんつくって富山の文化を学んでみたい」と話した。

（田子紳一通信員）

U字形！絶滅直前のアンモナイト



復元された絶滅直前のアンモナイト

浦幌町立博物館で復元公開

【浦幌】町立博物館は開催中の特別企画「絶滅したアンモナイト展」の中で、昨年8月に町内茂川流布で発見された絶滅直前の時期のアンモナイトを復元し、公開している。唯一ここで確認された場所、恐竜やアンモナイトを絶滅させた約6600万年前の白亜紀と古第三紀の境界（K-Pg境界、旧K-T境界）の下。同境界は小惑星衝突による地球の気候大変動を示し、国内で巻き状にならない「異常巻き」でU字形をした。幅5センチの黒灰色の粘土層だ。アンモナイトは全長約50センチ、幅最大15センチ。4億年前から生息するアンモナイトの最後の時期のもので、形は渦巻き状にならない「異常巻き」でU字形をした。唯一ここで確認された場所、恐竜やアンモナイトを絶滅させた約6600万年前の白亜紀と古第三紀の境界（K-Pg境界、旧K-T境界）の下。同境界は小惑星衝突による地球の気候大変動を示し、国内で巻き状にならない「異常巻き」でU字形をした。

「海中泳ぐ姿想像して」

「海中泳ぐ姿想像して」

展示されたアンモナイトは黒褐色で、殻の表面の「肋」と呼ばれる筋が鮮やかだ。佐藤芳雄館長は「イカ、タコの仲間なので、海中を泳ぐ姿も想像して」と来場を呼びかける。

同展では、三笠市立博物館の協力で、アンモナイト47点が展示され、生態や分布が解説されている。同町での発掘の写真や、小惑星衝突時を再現した画像も展示されている。

9月1日まで。入場無料。月曜定休。問い合わせは同館 ☎ 015・576・2009へ。

（佐竹政治）

「北海道新聞」 2013年7月12日

昆虫標本作り 面白さ体験

博物館講座

【浦幌】チョウを採集し、標本を作る博物館講座が14日に開かれ、町内の小学生5人が標本作りの面白さに触れた。

らぼろ21（教育文化センター）に集合。講師の説明を受けながら、チョウや虫を探してうらほろ森林公園まで歩いた。午前中は気温がやや低く、成果はいまひとつだったが、子供たちは全員がチョウやクワガタを



採集した。子供たちは博物館に戻り標本作りに挑戦。鮮やかな

標本作りに熱中する子供たち

色の、チョウの見本標本を見てその美しさに感激し、2回目（8月6日）も必ず参加し、珍しいチョウを捕りた

い」と張り切っていた。一週間後にもう一度集まり、

標本を完成させる。

（広橋基嗣通信員）

「十勝毎日新聞」 2013年7月17日

あす「勾玉作り」

【浦幌】町立博物館講座「子ども考古学教室 勾玉（まがたま）作り」が21日午前10時から同博物館で開かれる。

定員15人。小学生以下は保護者同伴。タオル、イチゴなどが入っていたポリ容器か小さな洗面器を持参する。参加無料。申込先は同博物館（015・576・2009）へ。

「十勝毎日新聞」
2013年7月20日

■浦幌 「歌声サロン」で合唱

「歌声サロン」(町立博物館、図書館、中央公民館主催)が17日、町教育文化センターらぼろ21のロビーで開かれた。麦茶、菓子などが用意され、町民11人が「歌声喫茶」の雰囲気を楽し



んだ＝写真。

お話しぴあの会(西田祐子代表)の指導で発声練習をした後、「おお牧場はみどり」「翼をください」など14曲を西田代表のピアノ伴奏で合唱。参加者からのリクエストもあり、和やかなひとときを過ごした。

「十勝毎日新聞」 2013年7月23日

■浦幌 駅や海岸、バスで巡る

上浦幌PTA連合会(松村竜幸会長)の町内研修会が20日、行われた。23人が町のスクールバスで、浦幌発祥の地や豊北海岸、厚内・直別方面を巡った。

1903年開設の浦幌駅では、構内にある「油庫」を見学＝写真。十勝太のハングライダー基地では100m下の太平洋の素晴らしい眺めに、歓声を上げた。

参加者は「浦幌の魅力の一端に触れた」と満足そうに話した。



「十勝毎日新聞」 2013年7月24日

1500万年前の
浦幌の自然探ろう
町立博物館
27日に講座
【浦幌】町立博物館講座
のミニ移動講座「新第三紀
の浦幌を探る」が、27日午
前9時から町内で開かれ
る。
当日は同博物館に集合。
厚内方面の河川などでタマ
キガイなど二枚貝の化石を
採集し、遠浅の海だった約
1500万年前の浦幌の自
然を考える。
参加無料。定員10人。小
学生以下は保護者同伴。帽
子、長靴、軍手、袋、虫よ
けスプレーなど野外活動に
適した服装と装備で。ハン
マーを持参するとよい。申
し込みは同博物館(015
・576・2009)へ。

「十勝毎日新聞」 2013年7月25日

■浦幌 軟石で勾玉作り

町立博物館講座「子供考古学教室」が同館で開かれ、参加した子供らが勾玉（まがたま）作りに挑戦した。

7月21日に開催。参加者は佐藤芳雄館長から説明を受けた後、紙やすりをぬらしながら軟石を削った。力と根気



の必要な作業で、悪戦苦闘しながらも全員が完成させた＝写真。

勾玉は古代の装身具で、病気や災いなどの魔よけとして使われた。ひすい、めのうなどを材料とし、浦幌では土で作られた勾玉が発掘されている。

「十勝毎日新聞」 2013年8月1日

チヨウの標本 作り方講座

博物館で6日

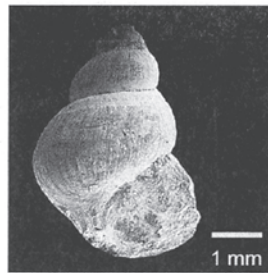
【浦幌】チヨウを採集して標本を作る講座が6日、町立博物館で行われる。

当日は午前9時に同館に集合。森林公園まで歩きながらチヨウを採取し、同館で標本を作る。

定員20人。無料。捕虫網、虫かご、筆記用具、お菓子箱（深さ5センチ程度）、小さなポリ袋数枚を持参。野外に適した服装で。申し込みは同博物館（015・576・2009）へ。

「十勝毎日新聞」 2013年8月1日

— 69 —



上越教育大（新潟県上越市）の天野和孝副学長は5日、大学で記者会見し、十勝管内浦幌町の新生代古第三紀（約6600万年前）の地層から、珍しい巻き貝の化石2種類を

浦幌に珍種巻き貝化石

発見したと発表した。約3千万年前のウラボロハイカフリニナ電子顕微鏡写真、上越教育大提供。と約6千万年前のウラボロモミジソデボラ

上越教育大2種発見

で、いずれも古第三紀の地層から見つかるのは国内初。貝類の進化の過程や、当時の生態系を解明する手掛かりになるとしている。天野副学長と、ともに化石を発見した金

新生代古第三紀の地層で初

沢大のロバート・ジェンキンス助教によると、ウラボロハイカフリニナの化石は最大で長さ0・5センチ。これまで8300万年以前か、1600万年以前以降の地層からしか見つかっていなかった。ウラボロモミジソデボラは長さ2・6センチ。これまでに北極圏のグリーンランドで多く採取されており、当時の北海道の生態系と共通点があった可能性があるという。

「北海道新聞」 2013年8月6日

巻き貝



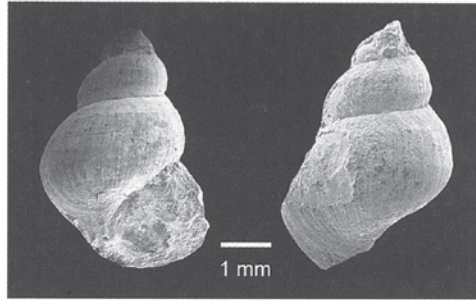
十勝管内浦幌町の約6600万年前、約2300万年前の地層でウラボロモミジソデボラ写真など珍しい巻き貝の化石2種類が発見された。貝類の進化に「重要な発見」という。

浦幌の地層で珍種発見

29

「北海道新聞」 2013年8月6日

世界2例目／新生代で国内初



天野副学長らが発見した「ウラホロハイカプリニナ」(写真は上越教育大提供)

希少巻き貝 浦幌で化石

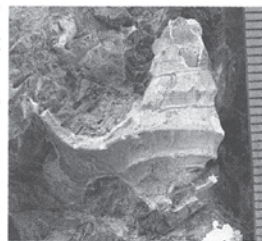
上越教育大が発見

【浦幌】上越教育大(新潟県上越市)の天野和孝副学長は5日、同大で記者会見し、浦幌町内で新生代古第三紀(6600万年前〜2300万年前)に生息した珍しい巻き貝の化石2新種「ウラホロハイカプリニナ」と「ウラホロモミジソデボラ」を発見したと発表した。「ハイカプリニナ」は古第三紀では日本では初めて、世界でも2例目で、空白だった時代を埋める発見となる。「モミジソデボラ」は、恐竜絶滅後の新生代の化石としては日本で初めて。

ハイカプリニナは、現存する貝で、海底のメタンガスを含んだ湧水付近のバクテリアを食べ、生活している。天野副学長は2009年に浦幌で発見した新種の「シンカイヒバ」と同じ約3000

万年前の上厚内の地層で見つけた。日本を含む世界でこれまでに発見されたハイカプリニナの化石7種は、8300万年前以前から1600万年前以降のものだった。天野副学長は「ハイカプリニナが生息領域を太平洋の東西から拡大する過程などの解明につながる」と強調している。

モミジソデボラの仲間



天野副学長らが発見した「ウラホロモミジソデボラ」の化石(上越教育大提供)

在も大西洋と地中海に生息している。恐竜が絶滅した中生代末(6600万年前)に同科の8割近くの属が絶滅したとされ、日本では恐竜絶滅前の白亜紀の地層から発見されているが、絶滅後の新生代(6600万年前以降)は発見されていなかった。

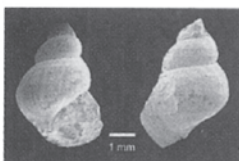
「モミジソデボラ」は町活平の約6000万年前の地層から見つかり、特有の翼状突起を持つ。発見に帯広のアマチュア化石研究

家井上清和さん(54)が協力し、学名を「カンギリオプテラ・イノウエ」と命名した。グリーンランド西部でもほぼ同年代から形の似たモミジソデボラが発見され、「北極付近と太平洋が当時からつながっていた可能性がある」と(天野副学長)としている。(平野明)

(14面に関連記事)

きょうの紙面

浦幌で化石2新種 23



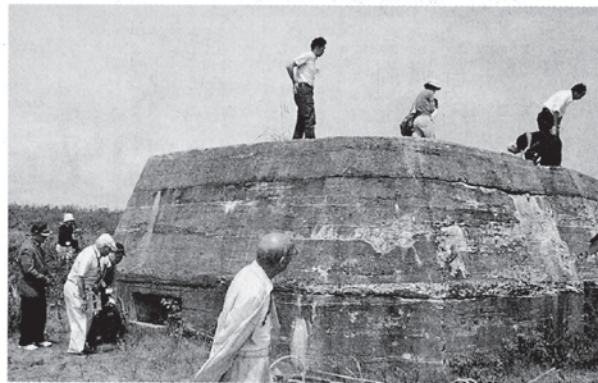
上越教育大は会見し、浦幌町内で新生代古第三紀に生息した珍しい巻き貝の化石2新種を発見したと発表した。

「十勝毎日新聞」 2013年8月6日

「十勝毎日新聞」 2013年8月6日

十勝の戦争跡地巡るツアーに21人

平和の大切さ改めて



豊北海岸に残るトーチカを見学する参加者

【本別】町歴史民俗資料館（田野美妃館長）は5日、十勝管内の戦争跡地を巡るツアーを行った。同館で開催中の企画展「7月15日本別空襲を伝える」の関連事業。町民21人が浦幌や豊頃、帯広に残る戦争遺跡と資料館を訪ね、戦争の悲惨さや平和の大切さを改めて考えた。

本別の歴史民俗資料館が企画

今年の企画展は本別空襲の弾痕が残っていたJAB本別町の「大通り倉庫」の取り壊しに合わせ、戦争跡地をテーマに開いている。関連事業として町外の遺跡に目を向け、現地で関係者の話を聞き、実際に目にするバスツアーを企画した。一行は浦幌町立博物館で戦争展を観覧後、豊頃町の豊北海岸に移動し、沿岸の防衛陣地だったトーチカを見学した。ロシア語で「地点」を意味するコンクリ

ート製の建造物は、中に入った日本兵が横穴から軽機関銃で、上陸した米軍を銃撃する目的。同博物館の佐藤芳雄館長は「コンクリート製だが鉄筋はなく、大砲が当たれば壊れた。玉砕覚悟のトーチカだった」と説明した。

参加者は「銃眼」と呼ばれるトーチカの横穴をのぞきこんだり、上に登ったりし、海岸沿いに静かに残る戦争遺産に触れた。遠藤俊雄さん（82）は「戦中にここに造ったと聞いてはいたが、実際に見たのは初めて。戦争の壮絶さを表している感じ」と話した。帯広では陸上自衛隊帯広駐屯地内の資料館や、帯広の森に残る旧日本軍の戦闘機格納庫「掩体壕（えんた

いこう）」も見た。田野館長は「普段は見ることが少ない跡地を訪れる機会になった。『勉強になった』という声もあり、みんなで見に行くことができてよかった」と振り返った。企画展は30日まで。入館無料。日・月曜休館。問い合わせは町歴史民俗資料館（0156・22・5112）へ。（安田義教）

「十勝毎日新聞」 2013年8月7日

あす化石講演会

新種発見の
天野副学長

【浦幌】町内の地層から珍しい巻き貝の化石2新種

を発見し、5日に発表した。上越教育大学の天野和孝副学長の講演会「地球を食べる生物の化石」が、10日午後7時から、町立博物館特別展示ホール（町教育文化センター内）で開かれる。国内古生物研究の第一人者。町内で「一枚貝の化石」シンカイヒバリガイ」を発見した他、昨年夏、町内で採取された日本で一番新しいアンモナイトの発見についても道筋を付けた。参加無料。参加希望者は同博物館（015・576・2009）へ。

「十勝毎日新聞」 2013年8月9日

町内の戦争史料 博物館で企画展 あす語り部の会も

【浦幌】町立博物館の企画展「真夏の残像 戦争を伝える」が、同博物館（教育文化センターらぼろ21内）特設会場で開かれている。18日まで。

終戦記念日に合わせた恒例の展示で、町民から寄せられた戦時中の史料が並ぶ。

町内の空襲の記録をはじめ、寄せ書きの入った日章旗や軍靴、大日本国防婦人会の厚内分会旗なども展示している。

同展の一環で「語り部の会」が11日午前11時から同会場で開かれる。戦中・戦後の激動期に子供時代を過ごした高橋悦子さん（町内在住）が「子どもたちに伝える…むかし、戦争がありました」と題して当時の生活の様子などを語る。代用食だった「すいとん」を作って食べながら交流する。

戦時中の史料などに見入る中学生



企画展に併せて同センター内の町立図書館では、戦争に関する本の特設コーナーを設けている。いずれも無料。問い合わせは同博物館（015・576・2009）へ。

（田子紳一通信員）

「十勝毎日新聞」 2013年8月10日

■浦幌 児童が昆虫採集に夢中

町立博物館で夏休み講座が開かれ、夏休み中の児童が昆虫採集や標本作りに熱中した＝写真。



6人が参加し、6日に開かれた。野外で捕まえたモンシロチョウを博物館に持ち帰り、佐藤芳雄館長、講師の田子紳一さんの指導で標本作りに取り組んだ。チョウの羽が乾いてから最後の作業を行い、完成させた。

町立博物館で夏休み講座が開かれ、夏休み中の児童が昆虫採集や標本作りに熱中した＝写真。

「十勝毎日新聞」
2013年8月15日

ヒゲマの生態や人との関係学ぼう
18日に学校

【浦幌】ヒゲマの生態や人間との関係をクイズ形式で考える「ヒゲマの学校」（町立博物館主催、浦幌ヒゲマ調査会共催）が、18日午後1時から同博物館学芸員室（町教育文化センターらぼろ21・2階）で開かれる。

小・中学生が対象。幼児は保護者同伴。同調査会会員で町内でヒゲマを調べている大学生らが、ヒゲマの毛皮やささまざまな標本、クマよけのグッズを使って分かりやすく説明する。参加無料。申し込みは同博物館（015・576・2009）へ。

「十勝毎日新聞」 2013年8月13日

恐竜絶滅の謎探る

浦幌 K/T境界層見学会に15人



川底のK/T境界層を見学する参加者

ナイトが発見された。

見学会では地層の年代特定を研究する早稲田大学院生の工藤直樹さんと、化石などに造詣が深い和歌山満さん（町内在住）、同博物館の佐藤芳雄館長が、K/T境界層の形成過程などを説明した。

小学5年生のときに化石や恐竜に興味を持ち、昨年に参加した小倉理記也君（浦幌中1年）は「6600万年も前の地層に立っているのはすごい」と感激していた。（田子紳一通信員）

【浦幌】『恐竜・アンモナイト絶滅の謎を探る』K/T境界層見学会」（町立博物館主催）が10日、町内から15人が参加し、ダイナミックな地球の動きに思いをめぐらせた。

K/T境界層は6600万年前、恐竜やアンモナイトの絶滅を招いたといわれる直径10kmの隕石（いんせき）が衝突し、粉じんが堆積したもの。恐竜が生息していた白亜紀と、哺乳類が栄える古第三紀の地層の間にあり、アジアで発見され

たのは浦幌だけ。昨年は層の直下で、十勝初のアンモ

「十勝毎日新聞」 2013年8月20日

平和の尊さ実感

浦幌 戦争体験者が講話

戦時中の体験などを語った高橋さん



動期に子供時代を過ごした高橋悦子さん（82）
町内在住。『子どもたちに伝えるーむかし、戦争がありました』と題し、11日に開かれた。

【浦幌】町立博物館の企画展「真夏の残像 戦争を伝える」の関連事業「語り部の会」が同館ロビーで開かれた。

講師は、戦中・戦後の激

高橋さんは「小学3年生までは、遠足で学校からキヤラメルなどが支給されたが、4年生からは何もなくなった」「生活必需品も代用品になり、ボタンも金属

から木製に。アルミの弁当箱まで献納させられ、木製に」「浦幌空襲では厚内2人が亡くなった」など、つらい戦争時代を振り返り、「絶対に戦争をしてはいけない」と訴えた。
代用食だった「すいとん」を食べながらの交流では、終戦直後に樺太から引き揚げた松尾恵美子さん（80）
「同じく乗船予定の引き揚げ船に乗れなかったが、その船は沈没した。今があるのは別の船に乗ったから」と話した。
伊場遼さん（上浦幌中央小6年）は「今に生まれて良かった」と平和の尊さを感じ取っていた。（田子紳一通信員）

「十勝毎日新聞」 2013年8月21日

レコードで 懐メロ鑑賞

24日に町博物館

【浦幌】町立博物館が収蔵する懐メロや映画音楽、クラシックなどを鑑賞する「レコードコンサート」が24日午後1時～同3時、同館ロビーで行われる。入場無料。手持ちのレコードを持ち込んでの鑑賞もできる。問い合わせは同館（015・576・2009）へ。

「十勝毎日新聞」 2013年8月22日



ヒグマへの 理解を深める

「学校」に20人参加

【浦幌】ヒグマの生態や人間との関係を考える「ヒグマの学校」（町立博物館主催、浦幌ヒグマ調査会共催）が18日、同博物館で開かれた。町内外の家族連れなど20人が参加し、理解を深めた。

クマよけの電牧線の張り方を考える子供たち

同調査会（佐藤芳雄会長）のメンバーで、浦幌でヒグマの調査をしている日大、酪農学園大の学生13人が講師となり、クマの食べ物や毛の色などに関したクイズなどを楽しんだ。

畑に侵入するクマを撃退する電牧線の張り方を知恵を出し合って考えるワークシヨップや、ヒグマに襲われないための対策「出合いそうな場所に行かない」「ばったり合うのを避ける」「刺激しない」を大きな声で復唱した。

会場には、クマの毛皮や骨、シカの頭骨などが展示された。初めてクマの毛皮に触った経堂公平君（浦幌

「十勝毎日新聞」 2013年8月23日

小1年）は「硬くてすごかった」と驚いていた。この他、シカ笛作りに挑戦。一度で全員が吹き鳴らすことができ、これには指導したメンバーも感激。参加した子供に「くま博士認定書」を手渡した。

（田子紳一通信員）

11日に歌声サロン

【浦幌】「歌声サロン」（町立博物館・図書館・中央公民館主催）が11日午後7時から、町立博物館・図書館ロビーで開かれる。

楽器の生演奏に合わせて童謡や唱歌、フォークソングを歌う。歌唱指導は「お話しびあなの会」。コーヒールを提供する。参加無料。問い合わせは同博物館（015・576・2009）へ。

「十勝毎日新聞」 2013年9月6日

6日レコード コンサート

町立博物館

【浦幌】町立博物館が収蔵する懐メロや映画音楽、クラシックなどのレコードを鑑賞する「レコードコンサート」が6日午後1時から同館ロビーで行われる。

「十勝毎日新聞」
2013年10月4日

レコードを持ち込んでの鑑賞もできる。問い合わせは同博物館（015・576・2009）へ。

■浦幌 5年生が理科の校外学習



浦幌小学校5年生の理科の校外学習が9月27日に浦幌川支流の留真川上流で行われ、児童23人が川について学んだ。写真。

町立博物館の佐藤芳雄館長が講師を務めた。上、下流での風景の違いなどを観察。砂防ダムにも訪れ、ダムの役割を学んだ。橋枝泉さんは「川やダムのことがよく分かった」、西来希君は「いろいろな石があつて驚いた」と感想を述べた。

「十勝毎日新聞」 2013年10月3日

たうん
TOZU

懐かしい昭和の 暮らし振り返る

町立博物館で
家庭用品など展示

【浦幌】町立博物館収蔵資料展「懐かしき昭和の生活回顧展」が、同館特別展示ホールで開かれている。昭和30年代から60年代に

家庭で使われていた火鉢や鉄瓶、おひつなどの生活用品、長靴スケート、竹スキーといったスポーツ用品、18インチテレビ、ブラウン管テレビ、映画やサーカス広告のポスターなど約150点を展示。当時の浦幌の街並みや建物の写真も展示している。



懐かしいポスターに見入る来場者

った白田妙子さん（町内在住）は「私たちの青春の思い出がいっぱいで、懐かしい」と話していた。10日まで（7日は休館）。午前10時～午後5時。入場無料。（田子紳一通信員）

「十勝毎日新聞」 2013年10月6日

天然記念物など 野鳥21種を観察

湖沼群

○…町立博物館のミニ移動講座「渡り鳥たちは元気かな？」は9月28日、十勝太・豊北の湖沼群で6人が参加して開かれた。南下途中の渡り鳥を含む多様な種類の野鳥の観察を楽しんだ。

前日に飛来したハクガン4羽が沼から飛び立つ姿に「きれい」と歓声が上がった。今春80羽余りが確認されており、続々と飛来するとみられる。また、ミサゴが餌の魚を捕らえようと、何度も水面にダイブする瞬間も観察できた。

天然記念物のヒシクイ、マガン、タンチョウ、オジロワシや浦幌町の鳥アオサギなど合わせて21種類の野鳥を観察。参加者はこんなに多く見られて満足と喜んでた。(田子紳一通信員)



ヒシクイ・マガンの群れに舞い降りるハクガン(町立博物館講座で撮影)

「十勝毎日新聞」 2013年10月8日

あす史跡見学会

【浦幌】町立博物館のミニ移動講座「町内の史跡見学会」が14日に開かれる。文化財標識を目印に、古(いにしえ)の人々が生活していた史跡(厚内・直別方面)を巡る。午前9時に同博物館(町桜町、教育文化センターらぼる21)に集合する。定員10人(小学生以下は保護者同伴で)。参加無料。雨天中止。申し込みは同博物館(015・576・2009)へ。

「十勝毎日新聞」 2013年10月13日

2日レコード鑑賞

【浦幌】町立博物館が収蔵する懷メロや映画音楽・クラシックなどを鑑賞する

「レコードコンサート」が11月2日午後1時から、同館ロビーで開かれる。入場無料。手持ちのレコードを持ち込んでの鑑賞もできる。問い合わせは同博物館(015・576・2009)へ。

「十勝毎日新聞」 2013年10月30日

開拓から昭和 支えた農機具

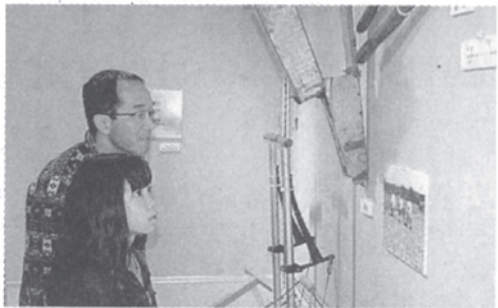
博物館企画展示

【浦幌】町立博物館（佐藤芳雄館長）のミニ企画展「みのりの秋・農具展示会」が、同館展示ホール（教育文化センターらぼろ21内）

で開かれている。明治の開拓当時から昭和の初めにかけての農具などが並び、来場者の関心を集めている。11月17日まで。

展示しているのは、同館所蔵の40点余り。3畝同時にまける「肥料播（ま）き機」、馬で引いて畑を耕す

「プラウ」、豆などの殻をたたいて脱穀する「唐棹（からざお）」などの農具の他、



古い農具に興味深そうに見入る来場者

集乳缶をトラックに積んでいる写真、鉄瓶などの生活用品もある。

町内の高橋和也さん（38）は娘の美紗稀さん（浦幌小2年）と会場を訪れ、「見たことのない物ばかり。こんな農具で作業していたとは」と感心していた。20日はいも団子・かぼちゃ団子の試食会が開かれた。入場無料。11月5、11日

「十勝毎日新聞」 2013年10月31日

は休館。問い合わせは同館（015・576・2009）へ。（田子紳一通信員）

4日に湖沼で 渡り鳥観察

【浦幌】町立博物館の移動講座「ハクチヨウやハクガンたちは元気かな？」が11月4日、町内で開かれる。「トリおばさん」（町内の野鳥愛好家）の案内で、豊北海岸付近の湖沼で主に

渡り鳥を観察する。当日は午前9時に同博物館（町桜町、教育文化センター）に集合し、現地へ向かう。参加無料。服装は防寒対策が必要。双眼鏡を持参するとよい。雨天中止。定員10人。申し込みは同博物館（015・576・2009）へ。

「十勝毎日新聞」 2013年10月31日

林道で学ぶ ヒグマの生態

ミニ移動講座

【浦幌】町立博物館のミニ移動講座「ヒグマの生態を探る」が20日、留真の林道で行われた。8人が参加し、浦幌ヒグマ調査会（佐藤芳雄会長）を指導する佐藤喜和酪農学園大准教授の案内で、ヒグマの活動の痕跡を観察した。

沢筋に仕掛けた調査捕獲用のわなをはじめ、ヒグマ



の行動を撮影する赤外線センサー付きのビデオカメラ

ラ、体毛を採取する鉄線のわなを見学した。

調査捕獲用のわなの近くには1週間前にはなかったふんがあり、ふんの中からヤマブドウの種やエゾシカの毛が観察できた。ビデオカメラの映像には、捕獲用のわなの前に現れた巨大ヒグマが捉えられていた。

参加した町内の主婦は「初めて目にするこばかり。ヒグマの実態を理解できた」と話した。

（田子紳一通信員）

「十勝毎日新聞」 2013年11月1日

デジカメ撮影 12日に講習会

【浦幌】うらほろスタイルゼミナール「デジタルカメラに挑戦」（町立博物館主催）が、12日午後7時から町立博物館で開かれる。デジタルカメラの撮影ノウハウを学ぶ。講師は町内に写真工房を構える写真家の山下僚さん（日本写真家協会員）。デジタルカメラと、自分で撮影した写真数枚を持参する。

23日には、ゼミナールで学んだことを実践する「野外撮影会に挑戦」が行われる。午前9時に同博物館に集合。デジタルカメラを持参する。

両日とも参加無料。申し込みは同博物館（015・576・2009）へ。

「十勝毎日新聞」 2013年11月7日

十勝の鉄道史 写真で伝える

池田で展示会 4町で巡回へ

【池田】十勝に最初の鉄道が走り始め、今年で110年を迎えたのにちなんだ「十勝の鉄道史写真展」が7日から田園ホールで始まり、十勝の鉄道の歩みを伝えている。池田の他、管内4町で巡回展示する。

懐かしい列車の光景を伝える「十勝の鉄道史写真展」



帯広百年記念館運営連絡協議会の主催。十勝の鉄道は釧路から西へ延ばした釧路線の厚内、浦幌岡駅が1903(明治36)年12月25日に開設されたのが始まり。05年に帯広駅が開業、07年には東に向かつて延ばした十勝線の

「十勝毎日新聞」 2013年11月9日

落合―帯広間が開通し、現在の根室線が全線開通した。

同展では44枚の写真展示。古いものでは浦幌駅、帯広駅の開業時の駅舎、札内川の鉄橋を渡る列車(07年)、豆景気の雑穀商が出る

入りしていた帯広駅構内(19年)などがあり、戦後は十勝沖地震で被災した鉄路(52年)、登場したばかりのディーゼルカーの急行狩勝(65年)、石勝線開業式(81年)などの懐かしい場面を振り返っている。

また、廃止された旧国鉄線の広尾線、土幌線の駅ホームの光景や、ビート、丸太を運んだ十勝鉄道、拓鉄、河西鉄道、十勝上川森林鉄道の写真も。池田町教委も旧高島駅などの鉄道資料約20点を出品している。11日

まで。(平野明) 巡回展の日程は次の通り。
▽広尾(14、29日、役場)
▽浦幌(12月1、26日、博物館)
▽豊頃(12月28日、来年1月19日、図書館)
▽音更(来年1月21日、2月2日、図書館)

浦幌にまつわる 鉄道をテーマに

来月1日
博物館講座

【浦幌】町立博物館移動講座「十勝浦幌鉄道物語」が12月1日午前11時から、同館などで開かれる。持田誠学芸員(帯広百年記念館)が、十勝太を通る予定だった幻の鉄路などについて語る。

同館で開かれる「十勝の鉄道史写真展」を見学後、昼食は道の駅うらほろの「うら弁」を味わい、十勝で最初に開業した浦幌駅と厚内駅を列車で往復する。参加費900円(弁当代が必要。JR乗車券は各自負担。申し込みは同博物館(015・576・2009)へ。22日で締め切る。

「十勝毎日新聞」 2013年11月19日

ウガンダの女性 通し浦幌考える あすゼミナール

【浦幌】うらほろスタイルゼミナール「ウガンダの女性たち」(町中央公民館主催)が、20日午後7時から同公民館で開かれる。入場無料。
講師は10月1日に町の地域起こし協力隊員として採用された畠山裕恵さん。アフリカのウガンダで2年間、青年海外協力隊員として活動した。そのときの体験をもとにウガンダの女性たちを通して浦幌を考える。問い合わせは中央公民館(015・576・3095)へ。

「十勝毎日新聞」 2013年11月19日

主題と背景意識 アングル考えて デジタルカメラ講座

デジタルカメラ講座

【浦幌】うらほろスタイルゼミナール主催の「デジタルカメラに挑戦」が町立博物館で開かれた。10人が参加し、撮影のノウハウを学んだ。

12日に開かれ、町内に写真工房を構える写真家・山下僚さん（日本写真協会員）が講師を務めた。

山下さんは「記念写真の中にさまざまな要素がある。主題と背景を意識し、構図やアングルを考えて」と強調。山下さんが撮影した浦幌の自然や風景写真を題材に、具体的に説明した。ピントの合わせ方や背景のぼかし方など、実際にカメラを操作して指導。参加者も持参のカメラで体験した。また、参加者が持ち寄った写真をトリミング（写真の一部を取り出す画像処理）し、構図の考え方を伝えた。参加した町内の主婦

山下さん（右から2人目）の作品に見入る参加者



は「学んだことを頭に置いて、記念写真を撮りたい」と話していた。

23日には、学んだことを試みる「野外撮影会に挑戦」が行われる。撮影した作品の中から「2013浦幌町フォトコンテスト」（町商工会主催）に応募する予定。23日だけの参加も可能。
（田子紳一通信員）

「十勝毎日新聞」 2013年11月20日

23日「子ども民謡」

【浦幌】町立博物館・図書館ロビーコンサート「子ども民謡会」が23日午後2時から同ロビーで開かれる。

浦幌錦玉（きんぎょく）会で三味線や唄を習っている橋枝泉美さん（浦幌小5年）、神山幸恵さん（同）、大谷彩寧さん（同）、山田僚弥君（同4年）、大谷俊輔君（同1年）が出演する。三味線、太鼓、唄の体験教室も開かれる。入場無料。問い合わせは同博物館（015・576・2009）へ。

「十勝毎日新聞」 2013年11月21日

十勝初の鉄道貴重な遺構

浦幌・厚内駅110年

【浦幌】十勝に初めて鉄道が通り、浦幌、厚内両駅が開業してから今年25日で110年。鉄道ファン以外にはあまり知られていないが、両駅や周辺には当時の遺構がいくさんある。1日に行われた浦幌町立博物館の移動講座「十勝浦幌鉄道物語」に参加し、歴史ある現場を訪ねた。

歴史たどる講座に参加

北海道開拓の動脈となる浦幌駅は、開業から今年で110年になる。この日、浦幌町立博物館の移動講座「十勝浦幌鉄道物語」に参加し、歴史ある現場を訪ねた。

「幻の十勝太鉄道」

浦幌駅は、開業から今年で110年になる。この日、浦幌町立博物館の移動講座「十勝浦幌鉄道物語」に参加し、歴史ある現場を訪ねた。



1911（明治44）年に建てられた危険品庫。油を保管するため耐火性のれんがで造られている



浦幌駅構内の鉄道遺構について説明する阿部義徳（中）

十勝の鉄道の主な歴史	
1872（明治5）年	新橋―札幌間に日本最初の鉄道開通
1880（明治13）年	手取（今、手取川）―札幌間に鉄道開通
1903（明治36）年	12月に支庁事務の延伸、官立一浦幌間の開通
1904（明治37）年	8月に浦幌―帯広間の開通
1905（明治38）年	12月に浦幌―帯広間の開通
1907（明治40）年	日知利―帯広間の開通
1910（明治43）年	浦幌（のちの池北線）の池田―浦幌間の開通
1911（明治44）年	浦幌が帯広（北見）まで開通
1920（大正9）年	十勝鉄道開業
1925（大正14）年	十勝鉄道帯広―札幌間、河西鉄道開業
1928（昭和3）年	北見鉄道帯広―中札内間開業
1929（昭和4）年	広尾線帯広―中札内間開業
1932（昭和7）年	十勝鉄道十勝三線まで開通
1939（昭和14）年	十勝鉄道が河内鉄道と合併
1946（昭和21）年	北見鉄道が河内鉄道と合併
1968（昭和43）年	十勝鉄道が河内鉄道と合併
1977（昭和52）年	十勝鉄道が河内鉄道と合併
1987（昭和62）年	十勝鉄道が河内鉄道と合併
1989（平成元）年	十勝鉄道が河内鉄道と合併
2006（平成18）年	十勝鉄道が河内鉄道と合併
2012（平成24）年	十勝鉄道が河内鉄道と合併

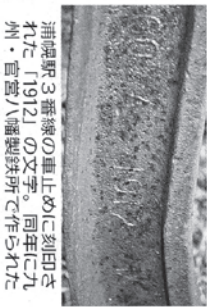


開業当時の浦幌駅の様子（浦幌町立博物館提供）

浦幌駅は、浦幌駅から厚内駅までを列車で往復して見学。浦幌駅構内の鉄道遺構について説明する阿部義徳（中）

浦幌駅は、浦幌駅から厚内駅までを列車で往復して見学。浦幌駅構内の鉄道遺構について説明する阿部義徳（中）

危険品庫や刻印、橋脚見学



浦幌駅3番線の車止めに刻印された「1912」の文字。同年に九州・宮城八幡製鉄所で作られた

浦幌駅は、浦幌駅から厚内駅までを列車で往復して見学。浦幌駅構内の鉄道遺構について説明する阿部義徳（中）



1904年に造られたれんが製の橋脚（厚内地区）現在では使われていないが、当時の姿をとどめている

「十勝毎日新聞」 2013年12月12日

十勝最初の駅 鉄道遺産巡り

浦幌
—
厚内往復、あすから

【浦幌】十勝で最も早く1903年（明治36年）12月25日に開業した浦幌駅、厚内駅の開業110年を祝い、帯広百年記念館と町立博物館は15日からミニ汽車旅「十勝最初の駅を訪ねよう」を開催する。両館は、参加を呼び

かけている。

同企画では、JR浦幌駅—厚内駅を往復し、鉄道遺産を見学する。浦幌駅では、油類を保管した1911年建設の「危険品庫」、駅構内のレールの車止めに残る製造年「1912」の刻印、厚内駅

では1904年建設のれんが製の橋脚を巡る。

15日、22日、1月11日の3回開催する。いずれも午後1時30分、浦幌駅集合。申し込み不要。運賃は大人700円。小学生360円。

問い合わせは博物館 ☎015・576・2009か記念館 ☎0155・24・5352へ。

（佐竹政治）

「北海道新聞」 2013年12月14日



参加者が1907年製のレールも確認した浦幌駅の車止め付近

十勝最古の駅・浦幌と厚内めぐる

鉄道遺産に歴史実感

市民ら10人 危険品庫など見学

【浦幌】今月25日、1903年（明治36年）の開業から110年を迎える十勝で最初の駅、浦幌駅と厚内駅をめぐりミニ汽車旅「十勝最初の駅を訪ねよう」（帯広百年記念館、浦幌町立博物館主催）が15日開かれた。参加者は危険品庫などの鉄道遺産に触れ、歴史を実感した。

（佐竹政治）

この日は帯広、浦幌、厚内への移動中は旧から10人が参加。浦幌厚内トンネルに続く鉄駅では、11年建設の油道跡を見た。当初計画を保管したれんが造りの危険品庫を見学した。管内では唯一残った。浦幌駅では、浦幌駅の3番線車の持田誠孝調査員は「海軍の庫を削ること八幡製鉄所の「1912」と、この厚内トンネル2年製、さらに輸入品を通すことの難易度をの「1907」年製を示比較して決めたのです刻印も確認できた。はと説明した。厚内駅では、開業当時に建設された旧倉庫跡にあり、浦幌駅の事務所などを見学した。当時の面影を残す、04年建設のれんが製の橋脚を確認した。浦幌駅近くで生まれ育った郷土愛（80）は「駅は昔が楽しみに集まる町のシンボルだった。油庫をよくのぞいてしかられたことが懐かしい」と話した。最後に、町立博物館で開催中の十勝・浦幌の鉄道史写真展（26日まで）を見学した。今回のミニ汽車旅は22日、1月11日にも開かれる。問い合わせは記念館 ☎0155・24・5352か、博物館 ☎015・576・2009へ。

「北海道新聞」 2013年12月16日

19日に歌声サロン お話しぴあの会

【浦幌】町立博物館・図書館ロビーで19日午後6時半から、「歌声サロン」が開かれる。同博物館・図書館・中央公民館が主催し「家族や友達同士、誘い合せて参加を」と呼び掛けている。

ピアノの生演奏に合わせて、全員で大きな声で歌う企画。歌詞カードがプレゼントされ、クリスマスソングや童謡、唱歌、英語の歌など多彩な曲を歌う。「お話しぴあの会」が歌唱指導し、町の英語指導助手ニコル・L・ワグナーさんのバイオリン演奏もある。玄関横のため、暖かい服装での来館を呼び掛けている。

サロン終了後は、真つ暗な博物館を懐中電灯の明かりで探索する「ナイトミュージアム」も行う。
詳しくは同博物館（015・576・2009）へ。

「十勝毎日新聞」 2013年12月16日

音楽とともに クリスマス満喫 歌声サロン

【浦幌】町立博物館・図書館・中央公民館主催の「歌声サロン de クリスマス」が19日、博物館・図書館ロビーで開かれた。コーヒーやケーキが用意され、町民約40人が楽しいひとときを過ごした。

オープニングはニコル・L・ワグナーさんのバイオリンと佐藤りおさんのピアノ演奏会。「キャロル・オブ・ザ・ベル」など5曲を演奏し、会場は優しい雰囲気包まれた。「きよしこの夜」を英語と日本語で合唱した。



歌
優しい音色のバイオリン演奏をするニコルさん（左奥）とピアノ演奏の佐藤さん（右奥）

「お話しぴあの会」（西田祐子代表）の前出彰子さんが先導役となり、西田代表のピアノ伴奏で「赤鼻のトナカイ」などクリスマスソングや冬にちなんだ「トロイカ」など14曲を歌った。参加者には25曲を収めた歌詞カードがプレゼントされた。

同会のメンバーによるゴスペル「君は愛されるため生まれた」の歌唱もあり、クリスマスムードを盛り上げた。
サロン終了後は、真つ暗な博物館の中を懐中電灯で探索する「ナイトミュージアム」も開かれた。
（田子紳一通信員）

「十勝毎日新聞」 2013年12月25日

化石レプリカ 作り体験講座 10日に町立博物館

【浦幌】町立博物館は、10日午前10時から同館2階学芸員室で冬休み子ども体験講座「化石レプリカづくり教室」を開く。三葉虫やアンモナイトなど、大昔の生き物のレプリカを作る。対象は小学生で定員30人（幼児は保護者同伴）。講師は足寄動物化石博物館の澤村寛館長が務める。参加無料。タオル、エプロンを持参する。申し込み、問い合わせは同館（015・576・2009）へ。

「十勝毎日新聞」 2014年1月7日

懐メロや映画音楽
レコードで満喫を
11日コンサート
【浦幌】町立博物館が収
蔵する懐メロや映画音楽
クラシックなどのレコード
を鑑賞する「レコードコン
サート」が、11日午後1時
から同館ロビーで開かれ
る。
入場無料。持ち込みのレ
コードの鑑賞もできる。問
い合わせは同館（015・
576・2009）へ。

「十勝毎日新聞」 2014年1月8日

結成15周年
力作33点展示
フォトサークル・21
【浦幌】町内の写真グル
ープ「フォトサークル・21
（春日基江会長、5人）の
結成15周年を記念した写真
展が、町図書館・博物館の
特別展示ホールで開かれて
いる。
同会は1998年の町中



央公民館講座「初心者た
めの写真セミナー」に参加
した4人が意気投合して結
成した。会員の作品は、町
商工会作成のカレンダーに
使用されたり、町内の老舗
そば店「藝そば・かし和家」

作品を出展した「フォト
サークル・21」のメンバ
ー。前列左から春日会長、
小枝さん、後列左から室
崎さん、谷口さん

で展示されたりしている。
同展では浦幌の自然や風
景などを撮影した会員の作
品33点を展示し、来館者の
心に爽やかな印象を残して
いる。

春日会長の「緑映」は、
沼に映る緑の揺らめきが印
象的。谷口清春さんの「留
真のオブジェ（夜空）」、小
枝政夫さんの「草原のエゾ
シカ」、室崎義信さんの「朝
の海」、大西齊さんの「道」
など、何げない風景を芸術
的な視点でとらえている。

同会では「ぜひ見に来て
ほしい」と来館を呼び掛け
ている。21日まで。午前10
時から午後5時まで。

（田子紳一通信員）

「十勝毎日新聞」 2014年1月15日

太古に思いはせ
化石レプリカ
小学生ら製作教室
【浦幌】町立博物館（佐
藤秀雄館長）の冬休み子ど
も体験「化石レプリカづく
り教室」が同博物館で開か
れた。町内外から参加した
小学生や保護者50人が太古
の時代へのロマンを感じな
がらレプリカ製作を楽しん
だ。
5年続けての開催。10日



澤村館長（中央）の
指導で化石レプリカ
を作る参加者

に行われ、足寄動物化石博
物館の澤村館長を講師に
招いた。

参加者は、アンモナイト
や三葉虫、浦幌からも発見
されているデスモスチルス
の臼歯など十数種の中から
1つを選び、型に石膏を
流し込んでレプリカを製作
した。

石ころが固まるまでの待
ち時間には、土の塊の中か
らアンモナイトや恐竜の歯
など本物の化石を掘り出す
「ミニ発掘」を体験。同博
物館の展示室でアンモナイ
トやアロテスムス、昨年町
内で発見された新種参貝ウ
ラホロハイカフリナの化石
などを見学した。

一昨年、十勝初のアンモ
ナイト化石が町内で発見さ
れてから子供たちの関心は
高く、佐藤館長は「多くの
参加があり、浦幌の太古に
触れるひとときを楽しんで
もらえた」と話した。

（田子紳一通信員）

「十勝毎日新聞」 2014年1月22日

年賀状展会場とうらほ
る孔版画サークルのメ
ンバー。前列右から2
人目が千葉代表



午やお手玉も
孔版画ずらり

全国賀状展

【浦幌】「2014全国
孔版画賀状展」(うらほ
ろ孔版画サークル主催)が、
町立博物館展示ホールで開
かれている。今年のエとの
午(うま)のほか、「みか

んお手玉」「雪の白川郷」
などをあしらった色彩あふ
れる作品の数々が、訪れる
人を楽しませている。2月
4日まで。

十勝版画の会代表の千葉
定是さん(幕別在住)が、
全国の孔版画愛好グループ
に声を掛け、毎年実施して
いる。今年で9回目。

管内、道内のほか、遠く
は沖縄県や広島県など全国
12グループの93人から寄せ
られた129点が集まった。
同サークルを指導する
千葉代表に全国から寄せら
れた約270枚の年賀状も
飾られている。

うらほろ孔版画サークル
の小山妙子会長は「午年は
飛躍の年。年賀状を見て飛
躍のモチベーションを高め
てほしい」と来場を呼び掛
けている。午前10時〜午後
5時。入場無料。

(田子紳一通信員)

「十勝毎日新聞」 2014年1月25日

7日に炭鉱講座

【浦幌】うらほろスタイ
ルゼミナール「『黒いダイ
ヤ物語』―盛衰を知る」(町
立博物館・中央公民館主
催)が7日午後7時から、
同公民館で開かれる。入場
無料。

講師は道内炭鉱史研究の
第一人者、石川孝織学芸員
(釧路市立博物館)。浦幌
炭砒が閉山して60年。最盛
期には3600人が生活し
ていた炭鉱の歴史を学ぶ。
問い合わせは同博物館(0
15・576・2009)へ。

「十勝毎日新聞」 2014年2月5日

あすレコード 鑑賞コンサート

【浦幌】町立博物館が収
蔵する懐メロや映画音楽、
クラシックなどのレコード
を鑑賞する「ロビーコンサ
ート」が8日午後1時から、
同館ロビーで開かれる。
入場無料。持ち込みのレ
コードの鑑賞もできる。問
い合わせは同館(015・
576・2009)へ。

「十勝毎日新聞」 2014年2月7日

炭鉱の歴史を説明
する石川学芸員
(中央奥)



炭鉱の始まり 盛衰まで学ぶ

うらほろスタ
イルゼミナール

【浦幌】うらほろスタイルゼミナールの炭鉱編「黒いダイヤ物語」(町立博物館など主催)が、町中央公民館で開かれた。道内の炭鉱史を研究している石川孝織さん(釧路市立博物館学芸員)が講演し、炭鉱の始まりから現在までを解説した。

7日に開かれ、町民ら17人が参加。石川さんは「1

853年のペリー来航は石炭も目的のひとつだった」「道内の石炭の最初の記録は釧路で、浦幌炭鉱はその東端に当たる」と説明。

1954年に閉山した浦幌炭鉱については「留真・双連・大平の3坑口があったが、石炭の運搬が困難だった。このため浦幌駅から北に4キロ分岐する専用鉄道の敷設に着手したが未完で終わった」と幻の鉄道も紹介した。

「今は掘ると売れる時代になった」と露天掘りの可能性にも触れ、政治と経済

に翻弄(ほんろう)された炭鉱の盛衰を語った。

参加した堀川真一さん(62)「町帯富」は「ペリーの開国要求が石炭だったとは知らなかった」と感心していた。

(田子紳一通信員)

「十勝毎日新聞」 2014年2月15日

浦幌炭鉱の逸話紹介

高橋悦子さん語り部に

【浦幌】十勝・浦幌の民衆史や生活史を知ろうと、うらほろスタイルゼミナールの歴史編「語り部 木曜塾」(町立博物館など主催)が同館で開かれた。郷土史家の高橋悦子さん(町内在住)が「語り部」となり、浦幌炭鉱の逸話を紹介した。

6日に行われ、町民7人が参加した。高橋さんは、



参加者を前に浦幌炭鉱の逸話を紹介する高橋さん(左)

また、「同年には帯広の部隊が休山後の同炭鉱の寮に泊まり、飛行機などの燃料にする松根油(松の根株・松枝から得る油)を採取していた」「45年4月、その部隊で若い兵隊による殺人事件が起きた。上官を殺した兵隊は死ぬつもりが死にきれず、民家に食べ物をお願い、間もなく捕まった」との逸話も伝えた。

「語り部 木曜塾」は今月の毎週木曜日(20、27日)午前11時から同館で開かれる。内容は毎回異なる。

(田子紳一通信員)

「十勝毎日新聞」 2014年2月19日

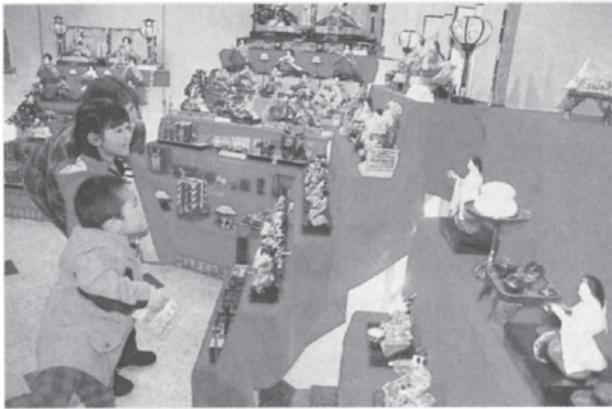
レコード鑑賞会 来月1日に開催

【浦幌】町立博物館が収蔵する懐メロや映画音楽、クラシックなどのレコードを鑑賞する「レコードコンサート」が3月1日午後1時から、同館ロビーで開催される。

入場無料。持ち込みのレコードの鑑賞もできる。問い合わせは同館（015・576・2009）へ。

「十勝毎日新聞」 2014年2月27日

ひな人形に見入る来場者



町民から寄贈の ひな人形を展示 博物館資料展

【浦幌】町立博物館主催の収蔵資料展「ひな人形展」が、同館ロビーで開かれてい

る。3日まで。図書館では「ひなまつりのえほん展」（同9日まで）も開かれている。

同博物館では毎年、3月3日のひな祭りを前に町民から寄贈されたひな人形を飾っている。今年は昭和50年

代に町民が購入した高さ約200センチ、幅140センチの豪華な7段飾りが寄贈され、9セットを並べた。昭和初期の御殿雛（びな）から最近の卓上サイズ、掛け軸タイプもあり、年代によって人形の顔や服装も違うなどひな人形の変遷が感じられる。

孫2人と訪れた大谷悦子さん（町稲穂）は「昭和初期のひな人形は落ち着きがあって良い」と話していた。3日午後1時～同3時には、展示会場で人形と一緒に記念撮影する催しもあり、写真がプレゼントされる。入場無料。問い合わせは同館（015・576・2009）へ。（田子紳一通信員）

「十勝毎日新聞」 2014年3月2日

15日漫画イラスト教室

【浦幌】町中央公民館講座「子ども漫画イラスト教室」が15日午後1時から、同公民館で開かれる。明治大学水野勝之教授ゼミの協力で、漫画家の大竹美佳さんが講師を務める。

受講者を募集 浦幌町公民館

参加無料。対象は保育園年中児から小・中学生。筆記用具や色鉛筆、サインペンなどを持参する。申し込みは同公民館（015・576・3095）へ。

「十勝毎日新聞」 2014年3月13日

町民が町への期待や思い語る

11日

【浦幌】「夢見てこの地に来てみれば…」Part 1（町立博物館、中央公民館主催）が11日午後7時から、同公民館で開かれる。新規就農や新たな仕事で町民となった人たちの町への期待や思いを聞くシリーズ。今回はラスベリージャムなどを製造している高橋徹さん（十勝うらほろ高橋農園）が語る。参加無料。問い合わせは同博物館（015・576・2009）へ。

「十勝毎日新聞」 2014年3月14日

62年前の災害伝える

浦幌町博物館 十勝沖地震の回顧展

【浦幌】東日本大震災から3年が経過した。町博物館では62年前に起きた十勝沖地震の回顧展「あの日を忘れない」を開催しており、被害は道東を中心に死者28人、行方不明5人、家屋の損壊は8500戸を超えた。



浦幌では、浦幌中学校の教諭が崩壊した校舎の下敷きとなり亡くなったほか、重軽傷者139人、家屋損壊1667戸、全焼4戸、被災者1万366人で、被害総額は13億円に上った。

「十勝毎日新聞」 2014年3月14日

写真41点と当時の十勝毎日新聞の記事のコピーを展示している。列車不通のため、札幌のルーテル教会からの義援物資を豊頃から歩いて6日ばかりで届けた。浦幌中に在学しており、「本当に大変な地震だった。先生や友達とつぶれた校舎の下に先生がいなかった」と残念そうに振り返りながら写真などに見入っていた。（広橋基嗣通信員）

という外国人夫妻や、自宅の被害を顧みず復旧活動に当たる消防団員、被災した商店、住宅などの様子などを克明に伝えている。

ボランティニア テーマ20日講座

【浦幌】うらほろスタイルゼミナール「ボランティニア」(町立博物館中央公民館主催)が、20日午後2時から同公民館で開かれる。道立少年自然の家「ネイ

パルあしよる」の出前講座で、熊谷圭志さん(元道派遺浦幌町社会教育主事)が講師を務め、さりげなく実践できるボランティニア活動について話す。参加無料。問い合わせは同博物館(015・576・2009)へ。

「十勝毎日新聞」 2014年3月18日

「光と色」の 不思議体験を

26日実験教室

【浦幌】町中央公民館講座「子どもおもしろ実験教室」が26日午前10時から同公民館で開かれる。「さつぱる物理塾」を開いている札

幌市在住の北村剛さん(元浦幌高校教諭、元本別高校長)が講師を務める。「光と色」の不思議を体験する。参加無料。ティッシュボックスの空き箱とはさみを

持参する。申し込みは町立博物館(015・576・2009)へ。19日締め切り。

「十勝毎日新聞」 2014年3月17日

アイヌ文様の 刺繍23点展示

【浦幌】「アイヌ文様、刺繍(ししゅう)展示会」

(道アイヌ協会浦幌支部、町立博物館主催)が同博物館特別展示ロビーで開かれている。30日まで。

町内ではアイヌ文化振興研究推進機構の加藤シヅエさん(札幌在住)を講師に招いたアイヌ刺繍の講座が開かれている。昨年も12回にわたって行われ、10人がアイヌ文様の奥深さを学んだ。

受講の成果を伝える展示



展示されているアイヌ刺繍の小物に見入る来場者

会には、大人用、子供用のラミプ(ベスト)1点、タルウンペ(木綿衣)8点、ペストリーやバッグなどのモウル(肌着)4点、カパ小物8点など合わせて23点が出品されている。

刺繍歴約10年の差間昭子さんは「自分の体に合わせ、図面を起こすのが特に難しい。文様、色、形など個人の持ち味が出てくる」と話す。

また、始めて2年がたつ長谷川雅子さんは「製作は楽しいが、布が硬くて縫うのが大変」と感想を述べた。

(広橋基嗣通信員)

「十勝毎日新聞」 2014年3月23日

ボランティアの現状学ぶ

浦幌スタイルゼミナール 道教委熊谷さん講演

【浦幌】浦幌スタイルゼミナール「ボランティア」

が町中央公民館で開かれた。道立少年自然の家ネイパルあしよりの出前講座で、道教委生涯学習推進局生涯学習課社会教育主事の熊谷圭志さん（元道派浦幌町社会教育主事）が講演

ボランティアについて学ぶ参加者



し、自身の経験を交えてボランティアについて分かりやすく語った。

20日に開かれ、町民23人が参加。ボランティアの意義や現状、体験の大切さとさりげなくできるボランティアなどを学んだ。

熊谷さんは「ボランティアとは個人の自発的な自由意思で、活動の対価や見返りを求めない」など4原則を挙げた。「今やっていることに自信と誇りを持って、できることを、できるときに、無理せずに、一歩ずつ」「浦幌で体験活動した子供は、ふるさとを好きになり大切に思っている」と話した。

参加者は、普段やっていることのひとつがボランティアだと認識を深め、澤田律子さん（64）は「婦人会活動などこれからも参加したい」と思いを新たにしました。

（田子紳一通信員）

「十勝毎日新聞」 2014年3月27日

秋サケのさばき方
5日に入門教室

【浦幌】中央公民館講座「秋サケさばき入門教室」が、5日午前10時から同館調理室で開かれる。秋サケのさばき方のコツをベテラ

しみ抜き・手仕上げ
上田クリーニング
帯広市西3南4 23・2539

ンが伝授する。

参加には材料代（雄サケ1500円程度が必要。定員10人（先着順）。申し込みは同公民館（015・576・3095）へ。

「十勝毎日新聞」 2013年10月3日

XII. 条例、教育委員会規則、教育委員会規程

○浦幌町教育文化センターの設置及び管理等に関する条例

(平成11年9月20日条例第20号)

(目的)

第1条 この条例は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第244条の2の規定に基づき、浦幌町教育文化センター（以下「センター」という。）の設置及び管理等に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(設置)

第2条 センターは、町民の教育文化の振興発展と学術の向上を図るため設置する。

(名称及び位置)

第3条 センターの名称及び位置は、次のとおりとする。

名称 浦幌町教育文化センター

位置 浦幌町字桜町16番地の1

(教育機関)

第4条 センター内に次の教育機関を置く。

(1) 浦幌町立図書館（以下「図書館」という。）

(2) 浦幌町立博物館（以下「博物館」という。）

(図書館奉仕)

第5条 図書館は、おおむね次の各号に掲げる奉仕を行う。

(1) 図書、記録及びその他必要な資料（以下「図書館資料」という。）を収集し、町民の利用に供すること。

(2) 図書館資料の目録を整備すること。

(3) 図書館資料について、その利用のための相談に応ずること。

(4) 読書会及び研修会等を開催するとともに、その奨励を行うこと。

(5) 時事等に関する情報及び参考資料を紹介し及び提供すること。

(6) 学校、博物館、公民館等と緊密に連絡し、協力すること。

(図書館の職員)

第6条 図書館に館長及び司書、その他必要な職員を置く。

(図書館協議会)

第7条 図書館に浦幌町立図書館協議会（以下「図書館協議会」という。）を置く。

2 図書館協議会は、図書館の管理運営に関し必要な事項について調査審議するものとする。

3 図書館協議会の委員（以下「委員」という。）は、10名以内とし、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者のうちから教育委員会が委嘱する。

4 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

5 補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(博物館の事業)

第8条 博物館は、おおむね次の各号に掲げる事業を行う。

- (1) 実物、標本及びその他必要な資料（以下「博物館資料」という。）を収集し、保管し、展示すること。
- (2) 博物館資料を博物館外で展示すること。
- (3) 博物館資料の利用に関し必要な説明及び指導等を行い、又は研究室等を利用させること。
- (4) 博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究及び保管、展示等の技術的研究を行うこと。
- (5) 博物館資料に関する案内書及び解説書等を作成し、頒布を行うこと。
- (6) 博物館資料に関する講演会及び研究会等を開催するとともに、その奨励を行うこと。
- (7) 浦幌町にある文化財保護法（昭和25年法律第214号）の適用を受ける文化財について、解説書及び目録を作成し、町民の文化財の利用の便を図ること。
- (8) 学校、図書館、公民館等と緊密に連絡し、協力すること。

(博物館の職員)

第9条 博物館に館長及び学芸員、その他必要な職員を置く。

(博物館協議会)

第10条 博物館に浦幌町立博物館協議会（以下「博物館協議会」という。）を置く。

2 博物館協議会は、博物館の管理運営に関し必要な事項について調査審議するものとする。

3 博物館協議会の委員の定数及び任期等については、第7条第3項から第5項の規定を準用する。

(報酬及び費用弁償)

第11条 委員が会議等に出席したとき又は公務により旅行したときは、非常勤特別職の職員の報酬等に関する条例（昭和31年浦幌町条例第19号）に定めるその他の委員会、協議会に相当する報酬及び費用弁償を支給する。

(利用の制限)

第12条 館長は、次の各号の一に該当する場合は、利用を禁止し、制限し、又は退館させることができる。

- (1) 公の秩序又は善良な風俗を乱すおそれがあると認められるとき。
- (2) 建物又はその設備を滅失し、損傷するおそれがあると認められるとき。
- (3) 集団的に又は常習的に暴力的不法行為を行うおそれがある組織及びその構成員の利益になると認められるとき。
- (4) その他管理運営上支障があると認めたとき。

(損害賠償の義務)

第13条 利用者が建物及び設備又は図書館資料若しくは博物館資料をき損、汚損又は滅失したときは、教育委員会が定める損害額を賠償しなければならない。

(規則への委任)

第14条 この条例に定めるもののほか、必要な事項は教育委員会規則で定める。

附 則

1 この条例は、平成11年12月1日から施行する。

2 浦幌町郷土博物館設置条例（昭和44年浦幌町条例第21号）は、廃止する。

○浦幌町立博物館の管理、運営等に関する教育委員会規則

(平成11年12月1日教育委員会規則第4号)

(目的)

第1条 この教育委員会規則は、浦幌町教育文化センターの設置及び管理等に関する条例（平成11年浦幌町条例第20号。以下「条例」という。）第4条第2号に規定する浦幌町立博物館（以下「博物館」という。）の管理、運営等について必要な事項を定めることを目的とする。

(博物館協議会)

第2条 浦幌町立博物館協議会（以下「協議会」という。）の組織等については、浦幌町立図書館の管理、運営等に関する教育委員会規則（平成11年浦幌町教育委員会規則第3号）第2条の規定を準用する。

(開館時間)

第3条 常設展示室の開館時間は、午前10時から午後5時までとする。

2 前項の規定にかかわらず、館長が必要と認めたときはその時間を臨時に変更することができる。

(休館日)

第4条 常設展示室の休館日は次のとおりとする。

- (1) 月曜日（月曜日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「国民の休日」という。）の場合は、その翌日）
- (2) 国民の休日の翌日。ただし、土曜日、日曜日及び国民の休日に当たるときを除く
- (3) 年末年始
- (4) その他館長が必要と認めた日

2 前項の規定にかかわらず、館長が必要と認めたときは休館日を臨時に変更することができる。

(常設展示室利用者の遵守事項)

第5条 利用者は、この教育委員会規則及び館長の指示に従うほか、次の各号に掲げる事項を遵守しなければならない。

- (1) 許可なく博物館資料を撮影し、又は複製しないこと。
- (2) 許可なく展示資料に手を触れないこと（特に指定した展示品を除く。）。
- (3) 音読、高談その他騒がしい行為をしないこと。
- (4) 飲食又は喫煙をしないこと。
- (5) 展示品の近くでインク、墨汁等を使用しないこと。

(博物館資料の寄贈等)

第6条 博物館は、博物館資料の寄贈又は寄託を受けることができる。

2 博物館に博物館資料を寄贈又は寄託しようとする者は、浦幌町財務規則（昭和60年浦幌町規則第12号）第158条の規定にかかわらず館長に博物館資料寄贈（寄託）申込書（別記様式第1号）を提出し、承認を受けなければならない。

3 館長は、前項の提出があったときは遅滞なくその取扱いについて決定し、寄贈を受ける場合はその資料と引換えに博物館資料受領証（別記様式第2号）を寄贈者に交付しなければならない。また、寄託した者に対しては博物館資料受託証（別記様式第3号）を交付するものとする。

4 寄贈された博物館資料は理由のいかんを問わず返還しない。

(寄託博物館資料の返還)

第7条 寄託博物館資料は、博物館資料受託証と引換えに返還しなければならない。

(寄託博物館資料の損失責任)

第8条 博物館は、寄託された博物館資料が滅失若しくは紛失又は破損してもその責は負わないものとする。

(館外利用)

第9条 館長は、教育長の承認を得て、博物館の所蔵する博物館資料を他の博物館その他館長が適当と認めた者に館外貸出しをすることができる。ただし、寄託を受けた博物館資料については、原則として貸し出さないものとする。

(貸し出し期間)

第10条 前条に規定した博物館資料の貸し出し期間は、90日以内とする。

2 前項の規定にかかわらず、特に必要と認めたときは、博物館資料の貸し出し期間を延長することができる。

3 館長は、必要があるときは、貸し出し期間中であっても、博物館資料の返還を求めることができる。

(館外貸出しを受けた博物館資料の遵守義務)

第11条 博物館資料の貸出しを受けた者は、当該博物館資料を、承認を受けた利用の目的又は場所以外の目的又は場所以外で利用してはならない。

2 貸出しの許可を受けた者は、次の各号に掲げる事項を遵守しなければならない。

- (1) 当該博物館資料が滅失し、又はき損したときは、当該博物館資料を原状に回復し、及びそれによって生じた損害を賠償すること。
- (2) 当該博物館資料等の運搬及び維持管理に要する経費を負担すること。
- (3) 承認を受けた利用目的又は利用の場所を変更しないこと。
- (4) 貸出し満了期間までに指定された場所に返納すること。
- (5) 前各号に掲げるもののほか館長が指示する事項。

(博物館資料の特別利用)

第12条 博物館資料を学術上の研究その他の目的のため撮影、複写、模写又は模造（以下「特別利用」という。）を行おうとする者は、あらかじめ、特別利用申請書（別記様式第4号）又はそれに類する書類を館長に提出し、承認を求めなければならない。

2 前項の規定により特別利用を承認したときは、特別利用承認書（別記様式第5号）を交付するものとする。

3 前項の場合において、当該博物館資料が寄託を受けたものであるときは、文書により寄託者の承諾を得なければならない。

4 特別利用は、館長の指示に従って行わなければならない。

(模写品等の刊行等の承認)

第13条 博物館資料を模写し、模造し、撮影し、又は複写したもの（以下「模写品等」という。）を刊行し、若しくは複製し、又は研究発表等に使用しようとする者は、あらかじめ、模写品等使用申請書（別記様式第6号）又はそれに類する書類を館長に提出し、承認を受けなければならない。

2 館長は、模写品等の使用を承認したときは、模写品等使用承認書（別記様式第7号）を交付するものとする。

(委任)

第14条 この教育委員会規則に定めるもののほか必要な事項は別に定める。

附 則

- 1 この教育委員会規則は、平成11年12月1日から施行する。
- 2 浦幌町郷土博物館設置条例施行規則（昭和44年浦幌町教育委員会規則第1号）は、廃止する。
- 3 旧教育委員会規則により現に、収集、保管及び館外貸出し等されている博物館資料は、この教育委員会規則に基づき収集、保管及び貸出し等されているものとみなす。

別記様式第1号

博物館資料寄贈（寄託）申込書

年 月 日

浦幌町立博物館長 様

住所 _____

氏名 _____ 印

次のように、博物館資料を寄贈（寄託）したいので申し込みます。

記

1 寄贈、寄託資料

資 料 名	数量	摘 要

2 寄託の場合、寄託期間
年 月 日 から 年 月 日

別記様式第2号

博 物 館 資 料 受 領 証

年 月 日

(申 込 者) 様

浦幌町立博物館長 印

寄贈の申込みのあった次の資料を受領します。今後は、申込みの趣旨を尊重し、
学術資料として有効に活用させていただきます。

記

1 寄贈資料

資 料 名	数量	摘 要

別記様式第3号

博 物 館 資 料 受 託 証

年 月 日

(申 込 者) 様

浦幌町立博物館長 印

寄託の申込みのあった次の資料を受託します。今後は、申込みの趣旨を尊重し、
学術資料として有効に活用させていただきます。

記

1 受託資料

資 料 名	数量	摘 要

2 受託期間
年 月 日 から 年 月 日

※寄託資料の返還は、この受託証と引換えに行います。

別記様式第4号

特 別 利 用 申 請 書

年 月 日

浦幌町立博物館長 様

申請者 住所 _____

氏名 _____ 印

次のように浦幌町立博物館資料を特別利用したいので、申請します。

記

利用目的			
利用期間	年 月 日 ～ 年 月 日 (日間)		
利用方法	閲覧・複写・模造・撮影・複写・その他 ()		
利 用 資 料 名	点数	備 考	

XII. 条例、教育委員会規則、教育委員会規程

別記様式第5号

特 別 利 用 承 認 書		
年 月 日		
(申 請 者) 様		
浦幌町立博物館長 印		
年 月 日申請の浦幌町立博物館資料の特別利用を、次のように承認します。		
記		
利用目的		
利用期間	年 月 日 ～ 年 月 日 (日間)	
利用方法	閲覧・模写・模造・撮影・複写・その他 ()	
利 用 資 料 名	点数	備 考
注意 1 利用時間は、午前10時から午後5時までとする。 2 利用に当たっては、係員の指示に従うこと。 3 前項に違反したときは、承認を取り消すことがある。		

別記様式第6号

受付番号		第 号
模 写 品 等 使 用 申 請 書		
年 月 日		
浦幌町立博物館長 様		
申請者 住所 (法人又は団体にあつては主たる事務所所在地)		
氏名 (法人又は団体にあつては名称及び代表者氏名) 印		
電話		
次のように浦幌町立博物館資料の模写等をしたので、申請します。		
記		
使 用 目 的		
模 写 等 区 分	模写・模造・撮影・複写	
製 作 等 区 分	刊行・複製・研究発表等	
作 品 名		
製 作 数		
予 定 価 格	有料 (円) ・ 無料	
製作予定年月日	年 月 日	
模 写 等 資 料 名		
注) 刊行企画書、複製仕様書、研究発表会の開催要項等の参考資料があれば添付して下さい。		

別記様式第7号

承認番号		第 号
模 写 品 等 使 用 承 認 書		
年 月 日		
(申 請 者) 様		
浦幌町立博物館長 印		
年 月 日申請の浦幌町立博物館資料模写等を、次のように承認します。		
記		
使 用 目 的		
模 写 等 区 分	模写・模造・撮影・複写	
製 作 等 区 分	刊行・複製・研究発表等	
作 品 名		
製 作 数		
予 定 価 格	有料 (円) ・ 無料	
製作予定年月日	年 月 日	
模 写 等 資 料 名		
注) 1 上記使用目的以外に使用しないこと。 2 使用に際しては、浦幌町立博物館所蔵の旨を明記すること。		

○浦幌町立博物館処務規程

(平成11年12月1日教育委員会規程第2号)

改正 平成13年6月29日教委訓令第5号
平成15年6月30日教委訓令第3号

(目的)

第1条 この教育委員会規程は、浦幌町立博物館（以下「博物館」という。）の機構と事務処理上必要な事項を定めることを目的とする。

(職員の職)

第2条 博物館に館長及び学芸員を置き、必要に応じて係長、主任、主査、主事その他の職員及び学芸員補を置くことができる。

(任免)

第3条 前条に規定された博物館の職員の任免は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第34条の規定に基づき、教育長の推薦により、教育委員会が行う。

(服務)

第4条 博物館の職員の服務は、別に定めるものを除き、浦幌町教育委員会事務局職員の例による。

(職務の分掌)

第5条 館長は、上司の命を受けて、館務を掌理し、所属職員を指揮監督する。

2 学芸員は、上司の命を受け、博物館法（昭和26年法律第285号。以下「法」という。）第4条第4項に規定する職務を行う。

3 係長は、上司の命を受け、係の事務を処理する。

4 主任は、上司の命を受け、館長が定める特定の事務を処理する。

5 主査は、上司の命を受け、担当事務を処理する。

6 主事及びその他の職員は、上司の命を受け、事務をつかさどる。

7 学芸員補は、法第4条第6項に規定する職務を行う。

(係の設置)

第6条 博物館に博物館係を置く。

(事務の分掌)

第7条 博物館係は、次の事務をつかさどる。

- (1) 公印の管守に関すること。
- (2) 人事、経理、文書その他庶務に関すること。
- (3) 浦幌町立博物館協議会に関すること。
- (4) 予算及び決算に関すること。
- (5) 物品の出納及び管理に関すること。
- (6) 施設設備の管理に関すること。
- (7) 博物館資料の収集、保管及び展示に関すること。
- (8) 博物館資料の説明及び助言等に関すること。
- (9) 博物館資料の調査研究に関すること。

- (10) 博物館資料の案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等の作成及び配布に関すること。
- (11) 博物館事業の広報に関すること。
- (12) 博物館事業の企画運営に関すること。
- (13) その他博物館運営及び博物館資料に関する専門的事項に関すること。

第8条 削除

第9条 削除

(専決)

第10条 館長は、他に定めのあるものを除き、次の各号に掲げる事務について専決することができる。

- (1) 施設設備の使用及び管守に関すること。
- (2) 専用公印の管守に関すること。
- (3) 関係団体の育成及び指導等に関すること。
- (4) 博物館の行う恒例又は軽易な事業の企画運営に関すること。
- (5) 前各号に準ずる軽易な事務処理に関すること。

第11条 前条各号に掲げる事項であっても、特に重要な事項又は取扱上異例に属する事項若しくは疑義のある事項の処理については、教育長の承認を受けて処理しなければならない。

(事業計画及び事業実績報告等)

第12条 館長は、当該年度に実施すべき年間の事業計画を教育長が別に定める日までに届け出るものとする。

第13条 館長は、当該年度に実施された年間の事業実績報告等を教育長が別に定める日までに報告しなければならない。

(帳簿)

第14条 博物館には、次の各号に掲げる簿冊を備え付け、常に適正に記帳、整備しなければならない。

- (1) 博物館日誌（別記様式第1号）
- (2) 備品台帳（収蔵されている博物館資料を除く。）
- (3) 図書台帳
- (4) 旅行命令簿
- (5) 経理簿
- (6) 会議日誌
- (7) 出勤簿
- (8) 公文書綴り
- (9) 沿革史
- (10) 博物館資料寄贈申込台帳
- (11) 博物館資料寄託申込台帳
- (12) 博物館資料受入台帳（別記様式第2号）
- (13) その他館長が必要と認めた簿冊

(合議)

第15条 館長は、事務執行上異例又は重要と認められるものは、教育委員会事務局の関係課長等と合議しなければならない。

(公印)

第16条 博物館の文書に用いる印章（以下「公印」という。）は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 浦幌町立博物館協議会長の印
 - (2) 浦幌町立博物館の印
 - (3) 浦幌町立博物館長の印
- 2 前項の公印は、館長が保管する。
 - 3 公印の規格、定位置及び定数は、別表のとおりとする。
 - 4 公印の刻字面の様式は、別記様式第3号のとおりとする。

(文書の記号)

第16条の2 文書の記号は、教育委員会名及び博物館名をもって構成する。

- 2 前項の記号は、次のとおりとする。

浦博物館

(博物館資料の受入れ)

第17条 博物館で受け入れた資料は、博物館資料受入台帳に所定の事項を記入し、その資料の由来等を調査後、速やかに博物館資料記録票を作成しなければならない。

第18条 前条の博物館資料には、その由来等を明らかにするために博物館資料整理カード（別記様式第4号）を貼付しなければならない。ただし、それによりがたい場合は、その他適当な方法でその由来等を明らかにしなければならない。

(準用規定)

第19条 この教育委員会規程に定めるもののほか、必要な事項は浦幌町教育委員会事務局処務規程（平成13年浦幌町教育委員会訓令第2号）を準用する。

(読替え規定)

第20条 浦幌町教育委員会事務局処務規程を準用する場合、「課長」とあるのを「館長」と読み替えるものとする。

附 則

- 1 この教育委員会規程は、平成11年12月1日から施行する。
- 2 この教育委員会規程施行の際に現に使用中の別記様式は、当分の間、従前のものを使用することを妨げない。

附 則（平成13年6月29日教委訓令第5号）

この教育委員会訓令は、公布の日から施行する。

附 則（平成15年6月30日教委訓令第3号）

この教育委員会規程は、平成15年7月1日から施行する。

別表（第16条第3項関係）

種 別	規 格	定数	定 位 置	個数	摘 要
浦幌町立博物館協議会長の印	18ミリメートル四方	1	博物館管理係	1	古天（横書き）
浦幌町立博物館の印	30ミリメートル四方	1	博物館管理係	1	古天（横書き）
浦幌町立博物館長の印	18ミリメートル四方	1	博物館管理係	1	古天（横書き）

別記様式第1号

決裁	館長	回	議	係	合	議
年 月 日 () 天 候						
寄贈等	博物館資料の寄贈		寄贈者	住所	品名数量等	
	博物館資料の寄託		寄託者	住所	品名数量等	
	博物館資料の返還		受領者	住所	品名数量等	
事業等	事業名			～	特記事項	
	事業名			～	特記事項	
来館者	所属氏名			所属氏名		
	所属氏名			所属氏名		
団体入館者	団体名			人数	特記事項	
	団体名			人数	特記事項	
	団体名			人数	特記事項	
職員動静	氏名	旅行先		目的		
備考						

浦 幌 町 立 博 物 館

別記様式第2号

要 摘									
収蔵番号									
分類番号									
寄贈者等住所・氏名									
受入方法									
受入年月日									
品名									
受入番号									

浦 幌 町 立 博 物 館

別記様式第3号

1 浦幌町立博物館協議会長の印



2 浦幌町立博物館の印



3 浦幌町立博物館長の印



別記様式第4号

○	
浦幌町立博物館	
受入番号	—
収蔵番号	—
分類番号	
受入年月日	年 月 日
資料名	
寄贈者等名	
寄贈者等住所	
受入方法	寄贈・採集・発掘・寄託 製作・購入・複製・その他
摘要	

注) 1 年号は西暦で記載すること。
2 「受入方法」は、適当なものを○で囲むこと。

XIII. 平成25年度予算

10款 教育費 5項 社会教育費 3目 博物館費

(単位:千円)

当 初 予算額	補正額	計	節		説 明
			区 分	金 額	
1,725	0	1,725	1 報 酬	25	委員報酬 25
			8 報償費	185	報償金 185
			9 旅 費	138	費用弁償 3
					普通旅費 135
			11 需用費	1,425	消耗品費 489
					印刷製本費 558
					光熱水費 18
					修繕料 350
					賄材料費 10
			12 役務費	110	通信運搬費 72
					手数料 38
			14 使用料及び賃借料	50	その他借上料 50
			15 工事請負費	0	工事請負費 0
			16 原材料費	10	原材料費 10
			18 備品購入費	30	備品購入費 30
			19 負担金、補助及び交付金	23	北海道博物館協会負担金 15
					帯広百年記念館運営連絡協議会負担金 3
					道東3管内博物館施設等連絡協議会負担金 5
					研修会参加負担金 0

浦幌町立博物館年報 第15号

発行日 2014年11月30日

編集 佐藤芳雄

発行所 浦幌町立博物館
〒089-5614 北海道十勝郡浦幌町字桜町16番地1
電話 015-576-2009 FAX. 015-576-2452

印刷所 大同出版紙業株式会社
〒080-0017 北海道帯広市西7条南6丁目2番地